

太宰府市の地域福祉に関する
分野別課題調査
結果報告書

平成 28 年 10 月

太宰府市

目 次

I 分野別課題調査の概要	1
1. 分野別課題調査の目的	2
2. 分野別課題調査の方法	2
II 分野別課題調査結果の概要	3
1. 高齢者福祉・介護分野	4
2. 児童福祉・子育て支援分野	28
3. 障がい福祉分野	50
4. 生活困窮者支援分野	75

I 分野別課題調査の概要

1. 分野別課題調査の目的

「第三次太宰府市地域福祉計画」の策定にあたり、高齢者福祉・介護、児童福祉・子育て支援、障がい福祉及び生活困窮者支援の分野毎に、本人、家族、地域社会が抱える生活課題や福祉問題などの実態を把握するとともに、それぞれの分野の第一線で活躍されている専門職の方々のご意見やご提言を広くお聞きし、同計画に反映していくことを目的に実施しました。

2. 分野別課題調査の方法

調査対象 : 【高齢者福祉・介護分野】
介護保険サービス事業所、地域包括支援センター、市役所関係課など

【児童福祉・子育て支援分野】
保育所、幼稚園、子育て支援センター、市役所関係課など

【障がい福祉分野】
障がい福祉サービス事業所、医療機関、市役所関係課など

【生活困窮者支援分野】
社会福祉協議会、市役所関係課など

調査期間 : 平成 28 年 7 月～8 月

調査方法 : 自由記述式調査票の配布・回収

II 分野別課題調査結果の概要

1. 高齢者福祉・介護分野

【高齢者の様子を見ていて感じる課題】

◆家にひきこもり、地域社会との交流やかかわりが希薄になりがちで、孤立してしまっているところがある。

- ・ 高齢者の方の独居での生活の増加や地域社会とのかかわりが少なくなり孤立してしまうといった問題が増えているように感じます。その地域ごとに高齢者が集えるような環境づくりや介護予防となる運動の場の提供などにより独居でも活発に地域とのかかわりを持ち過ごせるようになるのではと考えられます。
- ・ 地域社会との関係が段々と希薄になり、昔あれだけやっていたものに対しても興味がなくなり無気力感がみられる。孤独に陥る。地域での声掛け、連絡が必要となってくる。
- ・ 自らや周囲の人からの何らかのサインを出せる人であれば何らかの見守りや支援が行えると思いますが、地域との関わりがなかったり、独居の人は必要な支援が行き渡っていないのが現状だと思います。行政が自治会と共に実態の把握を行うなどの支援があるとよいと思います。
- ・ 独居の方が増えていると感じます。元気で地域の方と交流できる方もいますが全く無縁状態である方も少なくありません。町内で気軽に入れるようなサロンがもっと増えればいいのと思います。
- ・ 独居の高齢者のうち近くに身寄りがないなどいざというときに不安がある。
- ・ 加齢に伴う体力の低下、地域とのかかわりが少なくなっている。社会からの孤立。
- ・ 年を取りそれに伴う身体の不調がいろいろな不安をつのらせ、家にこもりがちとなり社会とのつながりが減ってきていると思います。地域(地区単位)の集まり(気軽に行けて経済的不安がない)。

◆家族などとの関係もあって、本人が希望する生活になっていないことが多いように思う。

- ・ 本人様が過ごしたい、したいことがなかなか実現できていないと思う。
- ・ 自分が理想とする生活を送れている方は決して多くはないように思われる。
- ・ 家庭で過ごすのか施設で過ごすのかしっかり自分の意志の希望通りにはなっていない気がします。ある程度の年配になったらしっかり将来の生活の計画を立てておくことが大切と考えます。その希望通りの生活をするための準備をしておく必要があると思います。
- ・ 施設利用をすることに抵抗を感じながら利用されている方もいる。
- ・ 高齢者の意志とその家族の意志の違い。お互いの納得できる仲介。
- ・ 老老介護、認認介護も増加。家族も同居が難しい。仕事もしているので十分な援助ができない。高齢者の気持ちと家族の意向の違いも多い。早いうち(元気なうち)から家族間での話し合いも必要と思う。

◆子どもたちとは離れ、高齢者だけ暮らしている世帯が増えている。そのなかには、老老介護になっても、子どもたちも大変で、迷惑をかけたくないと考えている人も多い。

- ・ 子供と別々に住んでいて親が病気や介護状態になっても配偶者に遠慮したり、一度別々に住んでしまうとどれない。
- ・ 家族や他者に迷惑をかけたくないという気持ちが強く、関わりが難しい。傾聴や説明を繰り返す。
- ・ 高齢者のみ、あるいは高齢者夫婦のみの世帯が増えている。近くに身内がない場合も多いため地域で支える仕組みが必要。
- ・ 高齢者世帯の夫婦のみで住まれている方が増えている。老老介護になっている世帯もあり家族内での協力者（娘や息子）が必要な方が多い気がしている。密接なかかわりが持てることで緊急時の対応等にもつながるのではないか。
- ・ 体調、経済力の問題が考えられ身内に負担をかけられないとの考え、無理して御自分で生活しようとする姿勢。
- ・ 家族関係が薄い方は問題解決に時間を要し、問題が複数化している。信頼できる相談相手を見つけて困りごとを相談するうえで複数化を防ぐ。
- ・ 独居が増加している。子供がいたとしても遠方だったり近くにいても疎遠だったりする。
- ・ 自宅で余生を過ごしたいが一人で生活するには不安があり子供たちに迷惑はかけられない。
- ・ 老老介護が多く、お互いの存在がストレスになっていたり、共倒れになりそうな夫婦も多い。認知まではいかずとも理解力の低下があり、話が混乱することが多い。特に制度上の理解は困難で話が難航することや取り違えが多い。
- ・ 老老介護、認知介護、ダブル介護などで支えてくれるはずの家族が介護に対して困難に直面していることが多い。また、同居の子も疾患を患っている場合も少なくありません。サービスを必要としている方が沢山潜在化していると思います。対策としてもっと地域包括支援センターが地域の中に入り、各役員との連携を深め、総合相談の窓口である啓発活動も行っていく必要があると思います。

◆高齢者に対する福祉や介護のサービスについて、よく知らない人たちが多い。

- ・ どんなサービスがあるのか把握できている人は少ない。
- ・ 独居の高齢者が多く周囲とのかかわりも少なく情報を仕入れ把握することができずにいる。市のサービス、福祉サービス、給付など知らないことが多いと思う。解決策としては自宅訪問をして情報を提供し、サービスをすすめる。家族とのつながりをつくる。
- ・ 現在自宅生活を安心して続けられるために様々な介護サービスを利用してある方も多くみられますが、まだまだ介護サービスについて知らない方も多く、またサービスを使うことに抵抗がある方も多い。地域の老人会でのPR、民生委員等の説明等で垣根を取り払っていく。

◆年金だけの収入では生活が困窮している場合もあり、必要な介護保険サービスを利用できないこともある。

- ・ 年金額が低く家族もいない方々は生活も困窮し、介護保険を取得していたとしても受けた

いサービスを受けられない方々も多いと思います。

- ・ 費用の問題により介護保険を利用したくてもできない。施設入所もこれだけ施設があるにもかかわらず費用の面に入れる施設が限られている。または施設入所自体困難。軽費で入れる施設の増設。
- ・ 訪問介護には介護度により単位が決められており超過すると自己負担も大きくなり年金では賄えない。施設入所するにしても経済面で同様のことがいえる。負担額の軽減は図れないだろうか。

◆**外出のための交通手段を確保することが難しい。丘の上に住宅地があったり、坂が多い土地柄なので、徒歩での外出も大変だ。**

- ・ 太宰府市は坂が多く、丘の上に住宅地があるため外出手段が徒歩では難しい。交通手段の整備。もしくは民間の送迎サービスがあると活動性が低下せず、外出の機会が確保されると思います。
- ・ 外出の意欲はあるが、その手段がなく困っているとよく耳にします。バスを利用するにもバス停まで歩くのに不安がある。タクシーを利用するにもお金が。解決策になるかはわかりませんが、ご利用者がよく言われていることは公共の乗り物がもう少し増えると助かる、です。
- ・ 交通面の問題（通院しようにも手段がない。病院から調剤薬局に移動するのも大変。選挙に行こうにも手段がないし迷惑がかかる等）。交通手段が少ないことによって諦めていることも多いと思う。交通弱者政策を検討してください。
- ・ 近くにスーパーがない。病院も歩いていけない。

◆**認知症の症状がみられても、家族や近くにいる人も気がついてないことがあり、症状が悪化してしまうことが多い。車の運転を続けていることもある。**

- ・ 初期の認知症状がみられていても病院受診されずに症状が悪化して遅れになっているように感じる。
- ・ 認知症の場合でも感情やプライドは残存しているため今までできていたのができなくなったり思うように自分の意志が相手に伝わらなかったり、また、これから自分がどうなっていくのかという不安が強いと思われる。本人が困っていることや不安に思っていることを聞き一緒に考えていく。
- ・ 独居や高齢者のご夫婦のみで生活されている方で認知症が進行していることに気づかれず相談があるときには関わりが難しくなっている。水分補給や一年を通して室内の温度調整ができない。日常から地域での見守りや行政的な関わりを行う。
- ・ 認知症が進行していると思われるが家族が認知症と認めたがらない場合がある。対面の対応に特に問題がないがいっしょに生活してみないとわからない部分がある。●病院など専門医の受診につながらない。
- ・ 高齢者自身が身体機能面の低下や認知症状等を認めず家族が困っているケースがある。老老介護、認認介護の増加。
- ・ 認知症があるのに車の運転をしている。

- ・ 高齢者の車の運転など。ある程度の年齢で免許証を返納する。

◆**身体能力や運動機能などの低下がみられる。運動不足解消のための取り組みが求められる。**

- ・ 骨折、発病、慢性的な腰、膝などの痛みと不定愁訴による生活不活発な生活に陥る高齢者が課題となっている。高齢者自身が自発的に健康に気を付けるように促す。公民館で行っているサロン活動、介護保険でのサービスを活用して課題解決を図る。
- ・ デイケアやデイサービスを利用されていない日は臥床時間が長くなっており運動不足が心配される。
- ・ 体を使う事が少なく、筋力の衰えがある。定期的な運動、椅子に座ったままで OK などで手足の体操。気候の良い日は散歩もいいと思う。
- ・ 個人差はあるが体力低下及び筋力低下により転倒による骨折、外傷の恐れがあり、受傷したことにより寝たきりになる要素となる。解決策の一つとしてデイサービスや地域による支援サービスを受け、リハビリや他の人との交流を持ち、相談のできる人を作る。

【**高齢者がいる家族の様子をみていて感じる課題**】

◆**介護負担が大きい老老介護となっている世帯が増えている。今後もっと増えていくと思う。**

- ・ 高齢者の方を高齢者の方が介護される老老介護が多く、今後さらに増えていくのではないかと思う。解決策としては家族の負担を軽減するためにできる限りデイサービスやデイケアを利用することだと思うが経済的負担も重くのしかかるためすべての方に利用していただくことは難しいのが現実だと思う。
- ・ 要介護の高齢者がいる世帯では高齢者が高齢者の世話をする老老介護が主となってきており、共倒れの可能性も高くなってきている。できるだけ早く家族も含めたケアが行えるように周囲の気遣いが必要となる。
- ・ 老老介護が多く、介護する側の過度な負担また家族との同居の場合にはヘルパーが利用できない現状があるため制度の改革が必要だと思われます。
- ・ 介護している家族もまた高齢のため、負担が大きすぎる。通所や施設等の介護サービスを利用する。

◆**仕事を抱えている家族介護者も多く、自由になる時間や休息をなかなか取れず、精神的にも肉体的にも大きな負担となっている。サービスを上手に活用していくことが大事だ。**

- ・ 高齢者の家族が安心して外出、外泊ができない。又、介護負担により様々なストレスを抱えている方が多いので、ショートステイの充実が求められると思います。
- ・ 介護が必要な高齢者の家族の場合、自分の家族との生活に加え高齢者の生活の支援をするので体力的にも精神的にも色んな面で負担になっている。時間に縛られ自由な時間がとりづらい。特に認知症の高齢者を抱えた家族の心労。介護が必要な場合、技術面。
- ・ 主として介護する人にはまだ就業があったり、他の家族の世話もある。時間の制限もありストレスが増強しているように思う。訪問系だけで解決するのは困難。通所系も上手く利用できるよう整備が必要。ショートステイは受け入れや途中退所の要請が多く、さらに家族の負担となっている。

- ・ 高齢者を家でお世話することは大変立派なことだと思う。だが高齢になればなるほどその子供も高齢になるわけでレスパイトが大切。ショートステイを多く利用したほうが良いと思う。
- ・ 常に見守りの必要な方のご家族は自分の自由になる時間があまりとれていない。
- ・ 仕事を持っているとお世話が大変。毎日の通院に付き添う家族等自分の時間を自由に持てない。ショートステイからの通院や透析が利用できると助かると思う。家族と同居している人は民生委員の訪問もなく家から一人で出歩くこともできない人が多いと思う。
- ・ 介護が必要となった高齢者と同居している家族は介護負担でストレスを抱えていることが多い。同居家族のレスパイトケアを回ることが必要だが、経済的な理由で十分にフォーマルサービスを利用できないケースもある。インフォーマルサービスの充実が必要。
- ・ 介護が必要な場合でも仕事をしていてなかなか面倒を見ることができない。体力面、精神面でも負担。デイサービス、ヘルパーの利用。
- ・ ご家族はどんなに仲の良いご家庭でも、毎日の介護に負担を感じておられる方が多いです。そのことを高齢のご本人は気づいておられ遠慮されています。ご家族の介護の軽減は必須だと思います。そのためにも訪問系のサービスの利用のしやすさがあればよいと思います。
- ・ 高齢者の方との同居世帯では仕事をもってある方が肉体的、身体的にストレスを感じる頻度が多くなっていくこと。そういった場合に気軽に相談できる場所。
- ・ 介護のために同居を始めた息子夫婦の場合、家族は介護疲れがある様子。御本人も家族に迷惑をかけたくないとされている。いろいろなサービスを利用して介護疲れを減らす。

◆家族の介護のために仕事を辞めざるを得なくなってしまうことが増えている。介護離職した場合、年金だけでの生活になると経済的にも困窮してしまう。将来の生活も不安。

- ・ 介護のため離職し、家族経済状況も厳しく親の年金で生活を維持しているため適切なサービスが受けられない。家族が離職しないように、24時間巡回訪問介護サービスなど体制の構築。
- ・ 介護のために家族が仕事を辞めることになった。介護負担、自由がない。
- ・ 介護が必要になった場合、離職せざるをえなくなり経済的負担が大きくなる。
- ・ 介護を必要とされている方がいる場合、仕事、家事、介護との両立は大変難しいと思う。
- ・ 介護を必要とする親を世話する場合、子供が結婚等しておらず一人で介護するとき、仕事と両立できず離職率が高くなっている。様々な職種、社会全体で介護休暇を導入し、仕事をやめずに休暇中に介護体制を整えることが出来る様みんなで支えていくことが必要。
- ・ 送迎時間と出勤時間が合わないため正規からパート職員になる家族も少なくない。孫の世代になると協力もさらに厳しく介護する世代にも金銭的な余裕と時間がないと在宅ケアは難しいと思われる。

◆同居家族がいても、仕事などのため外出してしまい、日中はひとりで過ごしていることも多い。同居家族は、そのような状態を心配し、不安を抱えている。

- ・ 認知症の高齢者と同居しているご家族は、どなたかお一人は一緒にお家で過ごさなければならぬというご家庭がほとんどなので、突発的に短時間どなたも見られない状況に陥った時

に気軽に預かってくれるところがそれぞれの地域にあると大変助かるのではと感じる。

- ・ 就労している家族が多く日中独居にすることを心配されている。
- ・ 同居となっても家族が就業しており独居状態が多い。介護能力や問題解決能力を理解する。親戚や近隣との交流が必要。
- ・ 働かれながらの介護をされる方も多く、ご本人がお一人で過ごされる心配とともに家族の疲れ、負担を心配される。

◆同居する家族が、仕事をもっていることもあって、家庭内で高齢者とのかかわりが少なかったり、無関心であったり、介護などの世話をやれていなかったりすることがある。

- ・ 日中仕事されている家族が多いため家族介護力が低い。その結果デイ利用時の入浴の際に身体状況の把握をしなければならないため病院受診が遅れていることが多いと感じる。
- ・ 共働き等で高齢者とかかわる時間が少なくなっていると思うし、その子供たちがどう高齢者とかかわっていかかわらなくなっているように思う。
- ・ 家族が就労されている場合は食事が遅くなったり、一人で食事をとることもあり、服薬忘れや食が細くなったりしている。誰かしら人が見守ることができればいいが。(声掛けや促しを行う)
- ・ 家族仲良ければ問題はないと思う。お嫁さんとうまくいっていない人はときどき見かけて一緒に食事できない等のグチは聞いていたが、家族間の問題は他人が口を出すことはなかなか難しい。他に子供がいれば間に入ってもらえれば少しは解決するかも。
- ・ 家族が高齢者に対して関心力の低下。現状を見て家族にも今の現状を理解してもらう。
- ・ 高齢者の意向と家族の意向が違う。生活の環境によって問題がいろいろあると思うが本人の希望がないがしろになっていることが多くみられる。又、家族が高齢者に無関心で全くかわろうとされない。なかなか難しいができるだけ高齢者の意向に沿っていけるよう家族との会議等で一緒に検討し理解していただけるよう訴えていく。

◆同居する家族の家庭内で高齢者とのかかわりや介護などの世話について、やりすぎる家庭もあれば、無関心であったり、過度に依存していることもあり、極端になってきている。

- ・ 家族の方が全面的に支援、見守りできる環境の人と、同居されてもほとんど交流もなく声かけ援助もない家族もあり差が大きい。
- ・ 認知症という症状が出ているにもかかわらず、単に年を重ねてボケてしまっている、やっかいだと感じる家族が多い。逆に家族間で何とか頑張って生活していこうとする絆が強くお互いに心身ともに疲弊してしまっている。種々の社会資源の活用。
- ・ 子供にも生活があり、それを崩してまで親の面倒を見る、見たいけどできない家族がいっぱいいる中、正反対の方もいます。
- ・ 高齢者に対して手や口を出したがる家族、それを愛情だと思って構いすぎる家族もあれば忙しくて時間がなく何もさせずにすべてを介助して大変そうな家族。認知症の家族を抱えて身動きが取れなくなっている家族。それぞれありますが、自分なりのことが一番正しいと思い込んで間違っていることもあることを知るためにも専門とする人のアドバイスを受ける機会を与えられ、的を射た介護生活を送ることができれば両者ともよい具合になる

のではないのでしょうか。

- ・ 子供たちがいても親に依存している場合も多く介護力が期待できない場合が多い。一生懸命自分たちで頑張っている家族と周囲任せな家族と両極端な場合も多い。
- ・ 高齢者（両親、祖父母）の身体状況の把握が不十分な世帯は高齢者を過保護にし身体能力低下を早めることの一因となっている。又その逆で無関心な対応で高齢者に疎外感を与えている。

◆介護の知識や、福祉や介護のサービスについての情報が不足しているところがある。家族が介護やサービスのことを学べる場や機会がもっと増えるといいのではないだろうか。

- ・ 介護の知識が不足している家族が多い（家族が利用者のことを理解できていない）。家族が介護のことを学べる機会を増やす。
- ・ 介護技術が乏しい。車椅子の操作に慣れておらず、外出ができないことがある。
- ・ 介護を全て抱え込んでしまうという課題があると思います。もっと介護サービスにおける情報、知識をわかりやすく伝える機会があればと思います。又、介護者の家族の会が活動できる場があってもいいと思います。
- ・ 高齢者がいる家庭では突然介護が必要なことがあり、介護離職が問題になっているため、定期的に説明会（高齢者福祉、介護）等開き、どういう福祉が受けられるか知っておくことが大事と思う。
- ・ 過剰な介護。高齢者のいる家族のための講習会を行う。
- ・ 高齢者のいる家族は今後起こりうる問題など介護に対しての知識がない場合が多い。介護を行っていく上ではいろいろなサービス、制度を知る事で高齢者、家族がよりよい生活を送ることができる。
- ・ 介護の知識がなく、突然に介護を強いられたときに頼る術を知らないご家族も少なくないようです。介護保険制度の仕組みや介護に関する知識などを学べる環境、また介護施設などが環境づくりに取り組むことでより密にご家族に寄り添えるのではと考えられます。
- ・ 自分たちの中だけで解決しようと思っている。制度やサービスを知らない人が多い。相談機関がわからない。相談することに引け目がある。
- ・ 介護が生活の中に入ってきたときに今までと同じ生活サイクルが送れなくなってしまうことが問題ではないでしょうか。早い段階で介護について情報収集し、受け入れられる環境を整える。
- ・ 介護保険や医療保険のことは知っていても、具体的にどう利用していくのか深く理解しておらず、家族で抱え込んでしまうケースが多くみられている。福祉サービスなどの利用をもっと多くの方が知っていく取り組みを行いながら家族の負担を軽減していけるように努める必要がある。

【生活が困窮する状態にある高齢者世帯の様子をみていて感じる課題】

◆費用負担のことを考え、必要な介護や医療のサービスを受けることができない。

- ・ 様々なサービスを受けるのに、経済的負担を考えると躊躇されることがある。

- ・ 必要なサービスが十分に受けられていない傾向にあると考えられる。収入に対しての窓口を周知できるようにする。
- ・ 介護保険サービスを十分に利用できず生活が困窮されている（特に家族）。施設にも入居できずサービスも利用できず病院にも行けない方がおられる。解決策として、理想を言えばフォーマルなボランティア団体をもっと太宰府に増やす必要があると思います。
- ・ 病気をしても病院へ行けないこと。
- ・ 所得が低く、受けたいサービスも受けられない。高齢者に対し低額で受けられるサービスの紹介や負担金の限度額の申請等の説明も行う。
- ・ 必要な医療、介護のサービスを必要な量を利用することが困難で生活環境の悪化が見られます。支援する家族も必要な支援が行えない状況もあります。
- ・ 病院受診をすすめても移動手段や経費が掛かるためすぐに対応してもらえず、病院側からの送迎サービスなどを増やし高齢者側の負担軽減ができれば病状の悪化も防ぐことができると思う。
- ・ 介護保険のサービスが必要かと思われるが、利用料金を考えて利用を控えられる。介護保険外で地域の見守りや、サロンなどの促しを行う。

◆心身の状態により自宅での生活が困難になった時、施設の入所を希望しても費用負担が困難で利用することができない。

- ・ 老人施設に入れない高齢者等は心配です。家族もいろいろな問題に直面すると思うので地域で気軽に相談できるシステムを作ったらよいと思います。
- ・ 福祉施設に入居することもできず、身体的、精神面に不安な生活を送っている。低所得者が集まりシェアすることにより生活を安定させる仕組みづくりが必要。
- ・ 低所得者にとって施設入所費用、利用費用の負担金は高額でとても賄える金額ではないと思う。生活保護の申請をしても審査が厳しくなかなか認定されないと聞く。
- ・ 自宅介護を最大限がんばって、その後どうしようもなくなって施設入所を考えたときに、施設費が高くて払えない（入所できない）。実際の高齢者の声です。
- ・ 家族等に迷惑かけないように施設等に入りたくても入れない。病院へ行くにもお金がかかりかない。
- ・ 自宅での生活が困難で入院や特に施設入所が必要となった場合に金銭的な問題でなかなか入所できない。

◆福祉や介護、医療などに関する制度やサービスの利用について、知らないことが多い、そのために制度利用が十分ではなく、生活の困窮がより深刻化していることがある。

- ・ 非課税世帯の方で生活が困窮していても介護保険や医療保険の負担減の制度を知らずに困っている。そのような情報が本当に必要な方ほど力が弱く必要な制度やサービスにたどりつけないでいるという問題があると思います。
- ・ 低所得の方は我慢してその範囲内で生活している。いろいろなサービスなど知らないで生活しているので情報をもっと知る機会を多くしてほしい。
- ・ いろんなサービスや援助があることや、自分が受けられることを知らずに我慢しておられ

る方々がいらっしゃる。

- ・ 公的手続きの知識、理解不足。生活保護に該当しないが低所得である高齢者の生活支援。
- ・ 社会資源がどのようなものがあるか、又、その活用方法も理解されていない方が多いと思う。民生委員、行政、地域住民とが一体となって取り組んでいくことが不可欠だと思う。
- ・ 家族に積極的に動かれる方がいず、情報が取れない高齢者だけの生活をしていると、どこかに相談する等はできないと思うので訪問サービスでの案内等あるとよいのではないのでしょうか。

◆**家族や地域とのかかわりが少なく、孤立しがちになってしまうことが多いように思う。**

- ・ 身寄りのない独居の方が多く感じます。問題としては地域社会との接点が少なく孤立してしまうことだと思います。施設などに入所したい方に関しては優先的に入所していただくか、あるいはすでにあるかもしれませんが、入居金や家賃の控除が受けられるなど。在宅を希望される方については、地域で支えていく必要があると思います。
- ・ 独居など外部とのかかわりが少ない人が多いイメージ。困っていることがあっても情報も少ないため支援につながりにくい。市の職員や民生委員の方などの定期的な訪問、アンケート、案内、提案。
- ・ 社会との関わりが少なくなってしまうこと。公的な制度の利用。
- ・ 孤独、生活に潤いがないと心も貧しくなると思う。更なる病気等の進行も考えられる。このような方も気軽に立ち寄り、話の出来る場所を提供する。またその場所まで根気強くお連れできるようお誘いする地域の協力者の発掘。

◆**食生活や住環境が劣悪な状態になっていることがある。**

- ・ 住宅環境の整備が不十分で暮らしにくい状態になっていることがある(エアコン、冷蔵庫)。
- ・ 食事管理とともにご自宅内の汚れもひどく衛生状態の不備による体調不良になることも予測される。
- ・ 食事、栄養バランス。一日一食の配色サービスでは必要な栄養を取りきれないので一日二食ぐらいの配食が必要。
- ・ 高齢者は低所得の中で何とかやっついていこうと努力をされた結果、電気代等の節約、食費の節約をして体調を崩されることが多くあるように思います。

【ひとり暮らしの高齢者の様子を見て感じる課題】

◆**外出する機会や話し相手が限られてしまうことで、ひきこもりがちになってしまい、地域から孤立し、孤独を感じている人が多いと思う。**

- ・ 全体的に孤独を感じている人は多いと思う。
- ・ 対話する相手がおらず他者との交流が減る。
- ・ 外からの刺激が少なくなり孤立している方々もいらっしゃるのでは。特に趣味を持っていらっしゃる方々は閉じこもりになりつつある。
- ・ 地域と関わる機会が減り孤立されている方も多い。周囲からコンタクトを図り孤立を防ぐ必要がある。

- ・ まずは一人暮らしという孤独の中で不安な生活をしていると思います。地域や家族など頼りになる存在がいるということが必要です。「もしもの時には」という安心を提供していただける環境を築くことが重要です。
- ・ 閉じこもりによる社会との関わりがなくなり相談、話し相手がいない。
- ・ 通所やヘルパーを利用されてある方は人との交流ができていますが交流がない方は孤独感を感じていると思う。
- ・ 夜間など孤独を感じるとつもない不安を抱え眠れなくなるとの声も聞かれます。遠方に住んでいる家族はいるが、あまり交流がなくもしものことがあったときはどうしたら良いのかと悩まれているのではないかと思います。

◆だれもいないので、家のなかで倒れたり、体調不良になった時、知らせることができず、不安に感じている人が多い。また、その対応について相談できないこともある。

- ・ 自宅での体調不良、転倒時などに対応できない。
- ・ 自分に何かあったとき（倒れたり体調が悪くなった）、どうやって誰に連絡するのが良いのかわからない。
- ・ 近くに親族がいれば不安は少しは軽いと思うがまったく頼れる人がいない人は倒れた時の不安は強いと思う。
- ・ 孤独による寂しさ。倒れた時に誰にも気付いてもらえないかもしれないという不安に悩んでいると思う。
- ・ 生活面や体調不良時にほかの人に連絡しにくい。緊急通報装置を設置していても押そうとしないことが多いと思う。
- ・ 突然の体調不良、災害時等に対してどうしたらいいか不安が強く見られます。
- ・ 何かあったときどう対応していいかどこに相談していいかわからない。
- ・ 一番は健康面での不安（緊急時の連絡等）。何かあったらどうしよう、相談する相手もいない。
- ・ 体調不良の時、誰にも相談できず病院受診もできない。買い物をするのが困難である。食事を作ることができない。
- ・ 独居の高齢者は生活物資の購入、食事の準備、けがや病気になった場合や介護が必要になった場合、どのようなサービスが受けられるのか、どこに相談したらよいかかわからない。これからの生活全般において不安はあると思われる。
- ・ 病気になったとき、転倒したとき、倒れた時など1人で誰にも連絡が取れなかったり、具合が悪い時に看病してくれる人がいないこと。

◆ひとり暮らしのため、ごみ出しや電球の取り替え、庭の手入れなど、家でのちょっとしたことができないている。

- ・ 燃えるごみなどを指定の場所まで持っていけない。
- ・ 家の中の修理や電球の交換や高所の物を取るときや重い物の移動など、それに調理、掃除、食事後始末などがあると思います。
- ・ 電球の取り換え、庭の手入れ、重い物の移動、足の爪切り、病気になったときに看病に来

てくれるか、詐欺に合わないか、泥棒に入られないか、外出時のサポート、掃除、調理、布団干し、日常のマナー化。

- ・ お一人、お一人ニーズは違います。小さなことから言えばゴミ出し一つからでも困っていらっしゃる方もいるのでは。そんな小さなことでも気軽に笑いながら話せて誰かが気付いてあげられる場所があったらいいと思います。

◆買い物を含め、ひとりだと家事全般に困難を抱えている。とりわけ、食事の準備が大変で、ひとり分ということもあって、栄養の低下や偏りがちになっていることがある。

- ・ 食事の支度や生活費のことを心配しているとよく聞かれます。
- ・ 何かあったときに不安がある。食事、一人で作りたくないから食事が偏る。
- ・ 食事を一人でとることによる栄養面の低下。機能低下による転倒や筋力低下していくこと。
- ・ 食事の準備（買物から調理まで）、掃除、洗濯等生活全般に不自由さを感じている。
- ・ 食事は一人分作ることは大変で、朝昼夕と作ることは大変難しく栄養のバランスも取りづらい。
- ・ まずは食事、そのための買い物や掃除等生活全般に関すること。排せつや入浴、洗濯などの生活に関すること。
- ・ 買い物、掃除等暮らしの困りごとを抱えておられます。家事の支援があれば一人暮らしの継続が可能です。

◆買い物や通院などの外出のための手段を確保することが困難なことがある。

- ・ 買い物に行けない、病院に行けないなどの声が多い。
- ・ 病気になってもなかなか一人では病院に行けない。
- ・ 生活必需品の買い出し、医療機関への外出に困っている方も多くおられると思います。
- ・ 近くにお店、病院などが無いことがあり行き帰りが困難。交通の不便を感じる。
- ・ 病院に行きたくても気軽に行けない。バスで外出するにはバス停まで歩けない。足が弱ると外出する楽しみがなくなる。
- ・ 高齢に伴い、今までの行きつけの理美容院へ行けなかったり買い物に行けなかったりと困っておられる方が多い。
- ・ 交通手段のない方は病院や買い物に行くことも大変と思います。一人暮らしだけでなく老夫婦も同じだと思います。地域で時間を決めて送迎してもらえようとな事であれば良いかなと思います（自宅近くまで来てもらえたり、バスでも途中で降りたりできたり）。

◆ひとり暮らしの自分の生活に介入されることを嫌う高齢者への対応に苦慮することがある。

- ・ 体が思うように動けなくなり食事や生活環境、緊急時の対応など不安を抱えているが自分の生活に介入されたくない。
- ・ 独居生活の本人自身はあまり困っていることは訴えないが、周囲が本人のことで深刻に困っていることが多い。身体的に弱くなるとどうしても他者の介入が必要になるが、それを拒むため介入しづらい。
- ・ ひとり暮らしをされてある方には誰もいないときに具合が悪くなったり倒れてしまったらどうしようと不安に思っているようです。ご近所で一人暮らしと分かっている

人同士は部屋の電気、お風呂の電気が見えるお宅同士で見守りをしていると聞いたことがあります。ひとり暮らしをしている方は、人を自分の家に入れたくないとか人に迷惑をかけるようになったら施設に入るとかおしゃってあるのでSOSを出せば助かることも出せずに無理をしているのではないかと思うことがあります。

【夫婦のみで暮らす高齢者の様子を見ていて感じる課題】

◆老老介護になっていると、肉体的にも精神的にも介護負担が大きく、介護疲れで疲労困憊となっている高齢者夫婦が増えている。

- ・ 老老介護、認認介護と言われるように終日介護に時間を費やすことが介護疲れにつながり、心身ともに疲労困憊されている世帯が増加しています。介護疲れによる身体的虐待、また介護放棄も深刻化していくのではと思います。
- ・ 夫婦のうちどちらかが介護が必要となった場合、老老介護となり経済的にも精神的にも負担が大きくなっている。
- ・ 老老介護状態。家事がおろそかになる。食事や生活環境。身体的な介護負担が大きい。配偶者が病気になった時の不安。緊急時の対応。
- ・ 妻が要介護状態になれば、家事ができない夫の高齢者宅は生活力がなく困る。
- ・ 家事がおろそかになる。老老介護で介護負担が大きい。病気になったとき。緊急時。体力の低下。
- ・ 老老介護、認認介護など互いに疾患がある中でお互いに生活をしている方が多いので、行政として相談を受ける体制を積極的に構築してもらいたい。
- ・ 老老介護。生活、介護による負担が大きい。近くに身内がない場合は精神的な不安も伴うと思う。
- ・ 相手が介護が必要になったり認知症になったりした場合、自分も高齢なため負担が大きい。特に女性が疾患したときは家事全般が困難になる。
- ・ どちらかがケガや病気で倒れたとき高齢者は自分のことで手いっぱいだと思うが、老老介護が始まると精神的な負担が出てくると思われる。
- ・ どちらかがケガや病気になったとき介護や生活面での負担がある。(特に男性は料理や洗濯などできない人が多いので1人になったときに困る)

◆老老介護で生活が困難となっているなか、身近に家族などがいなかったり、どこにも相談できずいたり、利用できるサービスのことを知らないでいることがある。

- ・ 両者ともに高齢化が進み在宅生活に限界を感じられていてもどこに相談をするのか、どういう解決方法があるのかという情報不足により今後の方向性がわからず日々不安な思いをされている。
- ・ お互いを支えることができなくなったりされていないかと思う。どこに聞けばいいのか知らない方も多いと思う。悩みに対して気軽に尋ねられるサービスが必要と思う。
- ・ 配偶者が認知症、病気になった時経済的な不安等相談できる人がいない。
- ・ 老老、認認介護が多く一方への介護負担が大きい。相談する方が近くにいない。

- ・ 急な時の対応に相談したり早急に対応してくれる人が近くにいない。
- ・ 力仕事など体力的に困難な事柄を解決できないとき。1人が認知症になり介護で疲労し誰にも相談できないとき。子供たちの協力を得られず孤立した生活を送っているとき。
- ・ どちらかが介護している場合はもう1人に負担が大きくなることと、介護保険制度を十分に知らずにいること。
- ・ 老老介護状態。一方が要介護で、介護している配偶者が要支援というケースも多い。そういうケースに限って家族介護しか受け付けられないため介護で疲弊している。自分の老いに対する不安と介護を続けられるかどうかという不安の中で生活をしている。「楽隠居」している方の話をほとんど聞きません。

◆高齢者夫婦のみでの生活上の困難なことについて、子どもたちなどに支援を求めようとせず、自分たちだけで何とかしようと抱え込んでしまっていることがある。

- ・ 食事、ゴミ捨て、掃除、洗濯、風呂（入浴）、買物、本当に困っているかが課題。他者への助けを望みたいが最後まで夫（妻）を看る事が使命と思っている方が多い。又、息子等の家族への助けがほしいがなかなか言い出せない。知らない人からの世話はしてほしくないが、世話が必要だとは思っている。
- ・ 子供たちに迷惑をかけたくないとの思いが強く自分たちでなんとか暮らしていきたい。又一人が入院となった際は留守が心配で入院を拒否されるケースがある。
- ・ 近所の方々や子供たちに迷惑をかけないと我慢して生活が悪化しているケースがあります。住民相互の協力、助け合いの雰囲気を作れたらよいと思います。
- ・ 関係性の問題で煮詰まってある方が多いのではないのでしょうか。特に男性は熱心に一生懸命介護するあまり他人に任せられなかったりでガス抜きが苦手な方が多いように感じます。
- ・ 日常生活の中で若い時にできていたことが夫婦ともにできなくなり助けを求めたいが子供たちに負担もかけたくない等、年々と不安が大きくなっているのではないかと思われまます。特に老老介護に移行すると多岐にわたり弊害が出てくると思います。
- ・ お互いに体が弱くなり、外部との関わりがなくなり2人でのみの世界となる。前向きに解決策を見つけることなく不安ばかりが募る。困りごとは生活全般に関すること。（食事、排泄、入浴）
- ・ 特に妻が病気になったら生活が成り立っていかない。子供に負担がかかるのではと不安に思っている。

◆相手が体調を崩してしまったり、介護が必要になった時、うまく対応することができるだろうか、また、相手は迷惑をかけてしまうと心配し、不安に思っている。

- ・ 相手が病気で倒れたとき、自分が介護をできるか。
- ・ お互いの健康が損なわれたときに老老介護となる不安。
- ・ どちらかが介護が必要になれば老老介護となりお互いに迷惑をかけたくないという悩み。
- ・ どちらかが自宅内などで転倒した場合、自分ではどうすることもできずどうしたらよいか困るとのことです。在宅生活がいつまで続けられるのか、また続けられなくなった時どう

すればよいのか。

- ・ 今後の不安やこれから先どうなるのか等の不安を抱えられていたり、体が動かなくなった時に必要な介護が受けられるのか、医療がきちんと受けられるのか等の悩みを抱えていることが多い。
- ・ 夫婦のどちらかが入院または亡くなったりしたときの家に一人残された者の生活の不安。
- ・ 夫婦のうちどちらかが病気になりケガなりした際、一人でお世話ができるか、また夫婦ともに施設に入居となった場合どれくらいお金がかかるのか考えていると思う。

◆**老老介護の状態にあって、このままのふたりでの生活がいつまで続けることができるのか、経済的なことを含め、将来のことを心配し、不安に思っている。**

- ・ 片方が認知症で身体はしっかりしておられ、片方は体が不自由なご夫婦が今後どちらかが限界に来たときどのように見てもらえるか不安を持っている方、切羽詰まっておられる方が多くみられます。
- ・ 老老介護で介護者自身も自分のことがやっとなのことが多く将来が不安。経済的な不安がありサービスを受けたくても制限をされる。片方が施設入所の選択を迫られたとき残されたほうの生活費の不足。
- ・ 世間でいう老老介護が問題視されているように、身体的にも精神的にも互いが支えになることが困難になっている。今後二人での生活が成り立っていくのか先のことが分からない不安が一番大きいと思います。

◆**買い物や通院などの外出手段として車を利用できなくなった時や、相手を病院などに連れて行かないといけない時、交通手段をうまく確保できず、困っている。**

- ・ 車生活をしていて車の運転ができなくなったとき買い物、受診等がスムーズに行えなくなり行動範囲が狭くなる時。
- ・ 買い物に行きたくても車に乗れないので困っていると思います。
- ・ どちらかが病気したら、介護しなくてはならないが体力がない。病院も連れて行けない。

◆**夫婦間の関係性によっては、相手の態度や言動などに大きなストレスを抱えていることがある。そのようななかで、相手に介護が必要になった場合、その負担感は大きいと思う。**

- ・ ご夫婦の仲が良いところはいいかもかもしれませんが、そうでないところは夫婦間での争い事（暴力、暴言）や、相手のイライラが伝わってくるストレスやらで独居とは違った悩みもあるように思います。自分だけでも精いっぱいなのに相手にも関わってくるので（介護など）大変だと感じます。
- ・ お互いの意思疎通がうまくいかない。それによるストレス。
- ・ 夫婦の話が合わなくなってくる。夫婦一緒にいるとお互いにイライラしてくる。負の連鎖。自分たちが今どのような状況なのかがわからない。どう改善してよいのか今までの生活にどのようにすれば戻れるのか等の道筋がわからず困る。
- ・ お互い高齢になりお互いが頑固になるケースがあるように感じます。どちらかが体調を崩せばおひとりに負担がかかっているように感じます。
- ・ 長年連れ添った夫婦だからこそ夫婦間の会話が乏しいとの声を聞くことがあります。また

老老介護の場合、ストレスをため込んでいるケースも見られます。

【高齢者やその家族を支援する行政サービスについての課題】

◆福祉や介護のサービスについて、高齢者やその家族にきちんと伝わっていない。上手に利用できていないこともある。知らせ方や伝え方をもっと工夫していくことが大事だ。

- ・ どのような行政サービスがあるか知らない人が多いと思う。
- ・ 行政サービスで何がどこにあるかどこに行けばいいのかがまずわからないと思います。
- ・ 介護保険やサービスについて必要になるまで全く知らない方が多い。
- ・ 福祉サービスについてもっと詳しくわかりやすい説明が必要。必要な方がサービスを利用されていないことが多い。
- ・ どんな行政サービスがあるかも知らず利用できていないことのほうが多いと思います。高齢者のいる家庭への周知徹底が必要かと思います。
- ・ サービスを受けていない、知らない方がいることが課題であり問題。どんな人にでもサービスを知ってもらえる、広める活動を。
- ・ 行政サービス、何が使えるのか理解していない。わかりやすく説明する場を作る。
- ・ 認知度が低い。こういったサービスがあるのかどうやったら受けられるのかをもっとわかりやすく公表する。
- ・ 高齢者やその家族がそのサービスのことを知らなかったり、どう利用してよいのかわからないこと。もっとサービスが周知されるよう回覧板や市報だより等でもっとわかりやすく掲示する。また、それ以外の方法でもわかりやすく掲示していく必要がある。
- ・ 行政サービスを上手に使える家族との差がある。市政だよりを高齢者向けのコーナーの字を大きくしたり内容を易しく。
- ・ いろいろなサービスがあってもいざ利用したいときにどこに尋ねたらいいかわからないようなので広報誌だけでなく家ですぐ見られてわかりやすいものを配布したらいいと思います。
- ・ 行政側が行っている各種サービスを地域住民の方々がどれだけ把握しているかが疑問。行政側も市報を配布されておられるが広報の手段のツールをホームページ以外のものを検討する課題があると思います。
- ・ 高齢者や家族の理解が難しい内容ではなくわかりやすい説明ができるようにしておいてほしい。利用しやすいサービスが必要だと思う。

◆地域での生活で困りごとが発生した時、気軽に相談できる窓口が身近にあれば、福祉や介護のサービス利用につながりやすく、大きな問題になる前に対応できると思う。

- ・ 在宅生活での困りごとが発生した際に気軽に相談できる窓口が身近にあれば大きな問題になる前に解決策、手段等の支援ができるのではと思う。
- ・ 行政サービスについて知らない方もいてどこに相談すればよいのかわからない方もいるようです。
- ・ 介護サービスの種類が多く、どれを利用してよいかわからない。行政サービス、介護サー

ビスの対応が悪い。気軽に入れる「介護のお悩みなんでも相談室」をつくる。

- ・ サービスがわかりにくい。気軽に相談する場がなく、抱え込んでしまう。相談が遅れる。
- ・ 包括支援センター等相談員をもっと増やして気軽に誰もが相談しやすい場を作ってほしい。
- ・ 行政サービスの認知度が低く、いざ介護が必要となったときどのように行動していけばよいかわからないこと。病気になったら病院へ行くといったような日ごろから身近な場所に介護する必要性が出てきた場合に相談できる場所を市が援助して何か所も作り介護保険導入をスムーズにする。

◆**地域に出向き、訪問相談支援を行ったり、地域の人たちとかかわりを深めていくことで、適切な福祉や介護の適切なサービスにつながる取り組みをすすめていくことが大事だ。**

- ・ 行政は結局申請主義なので相談がないと動かない。もっとアウトリーチ法を取り入れてください。
- ・ 申請主義のため、発見されずに苦しむ方がいる。公的サービスを知らないまま放置されてしまう。
- ・ 必要な人に必要なサービスが行き届いていないように感じることは多々ある。まずは行政がそういった現実を知ることが重要になると思う。
- ・ 実際にサービスを受け入れている方はいいほう。それ以外の方々がどうしていいか困っている。
- ・ 身体的、精神的、介護的、生活全般の内容にて困られている。全ての項目に対して言えることですが、行政自体が自治会長、役員、組長等との情報の共有化ができてないと思います。実際に行っていらっしゃると思いますが、行政として相談が来て動くのではなく積極的に家庭訪問、自治会との話し合い、各地区老人会に出席して話を聞くのはどうでしょうか。
- ・ 本当に困っている高齢者や家族を見つけきれずに支援できていないケースがあるようです。声を上げない困っている高齢者を行政で見つけ出す必要がある。行政での窓口をもっと広くし、サービス提供をもっと積極的に行うべき。
- ・ 地域の困難事例や行政サービスにつながった家庭は対応の術があるが、埋もれて表面化しない家庭をどうやって掘り起こすのか。
- ・ 支援を依頼してくる人ばかりではない。知識がなく行政サービスを知らず、依頼できない人たちをどの程度把握しているのか。

◆**福祉や介護のサービスについての相談窓口がたくさんあって複雑でわかりにくいし、そのような窓口を利用することは大変。ワンストップで済む相談窓口があると助かると思う。**

- ・ 相談窓口がわかりにくいとの声が多い。又、相談しても窓口をたらい回しにされたとの意見も聞いた。窓口を一本化し住民にわかりやすくすることが必要。又、画一的にならず太宰府市独自の考え方で柔軟にサービスを提供してほしい。
- ・ 行政サービスを知らない方が多くおられる。窓口がいくつもあり足を運ばれるのを躊躇される方もおられる。
- ・ 要支援、介護者になると介入されるが非該当で困っている方の相談窓口と担当を明確化し

ておくことが必要だと思えます。

- ・ 健康で介護力のある家庭であれば大きな問題はないように感じますが自ら行動することが難しかったり情報を収集する手段がない人にとっては相談や対応窓口が分かっていると何度も足を運び説明することも大変だと思えますしあきらめてしまう人もいないかと思えます。

◆**福祉や介護のサービスについての相談窓口では、専門性の高さやきめ細やかさ、相談者の立場に立った対応が求められている。**

- ・ 相談の専門職員が行政にもいてほしい（社会福祉士の活用をお願いしたい）。プライバシーを守れる相談機関。
- ・ 行政サービスは事務的な対応でその方に寄り添った対応ができていない。親身になって相談したいと思える行政窓口の設置。
- ・ 行政に相談に行っても反応が遅い。上から目線の対応が多い。自分たちで何とかしなさい的な回答が多く書類ばかり提出させている。これらと真逆のことをしていくべき。

【**高齢者やその家族を取り巻く地域の様子をみていて感じる課題**】

◆**地域の人同士のかかわりが希薄になってきている。ちょっとしたことであっても頼めるような雰囲気ではなくなっている**

- ・ 地域との関わりがなく孤立化している。隣近所との関わりがあれば安心して暮らしていくことができる。
- ・ 少なくとも自分の住んでいる地域は近所付き合いが少なくあいさつ程度。昔のように隣近所声かけあっても独居や高齢者を見守る地域は少ないと思う。
- ・ 近所に住んでいても顔見知りではないため地域での支えあいが困難である。
- ・ 昔のように近所付き合いもなく隣にだれが住んでいるのかもわからない。
- ・ 隣組の活動がもっと密になればと思います。
- ・ 介護や育児等すべて家庭単位での問題ごとと考えられており町内、隣同士でも関係性が希薄であり、支援や助けを求める雰囲気にはない。
- ・ ちょっとしたことを気軽に頼める地域づくりができていないかわからない。
- ・ 日常的な交流があると異変に気づきやすいかもしれませんが、地域での交流が薄いと何かあっても助けられないと思います。地域の行事に参加しやすい努力、工夫が必要かと思えます。
- ・ その地域に長く住んでいる方々は結束力があり、お互いの家庭のことをある程度知っていることも多いが越して来て間もなかったり、近所付き合いが苦手だったりすると、なかなかその輪の中に入りやすく助けが必要な時に相談できなったりする。

◆**地域での活動が活発なところと、そうではないところがある。地域活動については、地域間での格差が生じている。**

- ・ 自治会など住人同士の関係性の良好な地域は今でもあるが、意識の高いところに限られている。単身者中心のマンション、アパート賃貸の住人が多い地域をどうするのか。公営団

地のように住人の高齢化、固定化がすすんでますます地域間格差が出てくると思う。

- ・自治会で努めて取り組んでいるが自治会に差がある。見守りをを行っているが独居高齢者にとどまっている自治会も多い。マンションに住む高齢者へのアプローチのしにくさ。
- ・地域間の見守り体制がきちんと成立しているところとそうでないところがある。できているところを基準に考える。
- ・それぞれの地域によって取り組みが盛んなところとそうでないところ、又高齢者の方や家族が地域に対してオープンだったか閉ざされていたかで差があるように感じる。まめに声かけや地域行事への参加促しを行い見守る。
- ・よく取り組まれている所とそうでない所がある。

◆高齢者と若い人たちとのかかわりが薄い。地域で交流し、かかわりを深めることができるような場や機会をつくっていくことが大切だ。

- ・少子化が増える一方で核家族が多く高齢者とのかかわりが少ない。交流会を行い参加できる機会を設けたらどうでしょうか。
- ・昔と違い、地域の密着性の低下がみられるのではと思われます。若い世代の他方からの移住や世代交代のために交流が少なく、場所によっては隣人もわからないという問題があるのではないかと思います。世代に関係なく交流が持てる行事や、場所などを利用し、地域の密着度を向上させることも解決策の一つとして必要だと考えられます。
- ・集合住宅の多い地域では近隣の様子がわからず対応が遅れる。近隣の付き合いがなく安易に家庭に入り込めない。近隣の交流ができるような対策。
- ・昔と比べて近所付き合いがなくなってきたためちょっとしたことでも頼めなくなったり、話をする相手がいなかったりする。働く世代の人たちは地域のことがほとんど分かっていないので若者と高齢者が出会える地域の行事があればよいです。
- ・高齢者だけでなく若い世帯との交流があまり見られない。比較的若い世帯では、行政、自治会等に興味がなくかかわりが少ない。行政、自治会でも高齢者に偏りが多くみられている感があり、若い世帯のアプローチも積極的にを行い行政が高齢者世帯との懸け橋になってほしい。

◆高齢者のみの世帯とのかかわりは薄くなりがちだが、同居家族がいると、地域の人たちの見守りも後回しになり、いずれにしても、家族だけで頑張っている状態になっている。

- ・高齢者の方が子供などと居住している場合は良いが、独居や高齢者のみの世帯では地域との関わりが浅くなり手助けや支援が必要な時もわからないのが現状です。地域の組長さんにも最低限の情報を提供する必要性があるのではと組長をしている今痛感しています。
- ・独居や高齢世帯には民生委員が入りやすいが、同居家族がいるとなかなか介入できず同居家族がいる高齢者の方が孤立しやすいように思う。家族が働いている家も多く、日中独居も多いことから同居の有無に関係なく介入できるようになるべきだと思う。
- ・昔と違い、団地やマンションで近所の方々とお付き合いをしている家庭が少なくなってきたので高齢者がいるご家庭は否応なしにその家庭のみでお世話をしなければならぬ。その地域の方々に高齢者のいるご家庭を把握して頂けるようにすると自然と周囲の

方々も気にとまるかもしれない。

- ・ 家族だけで頑張っている。

◆高齢者の人たちを地域で見守っていくため、交流やかかわりを深めていく行事や、情報を交換、共有し、連携を深めていく場や機会がまだまだ足りていないと思う。

- ・ 地域住民や民生委員などはどこにどのような高齢者や家族がおられるのか把握しておく必要があるがどこまで立ち入られるかという問題もある。近隣や周囲の人々の温かい見守りや声かけも大事であり地域のイベント等にも参加していただくよう働きかける。
- ・ まだまだ地域の連携が必要だと感じます。どんなに小さな集まりなどでも構わないので情報を共有、交換できるような横のつながりをもっともっと増えていく必要があるのではないのでしょうか。行政からの発信でも良いですが、すでにあるグループなどからも呼び掛けていただき輪を広げていけたらよいのではないのでしょうか。
- ・ 高齢者はなかなか家の外に出てこられず自分の地域にどれだけの人数がいるのかわかりません。災害時も助けに行くことができないので、年寄マップ等現状がわかるものがあるといいと思います。敬老会だけではなく家から出て来られるような顔を出せるようなものがあるといいと思います。
- ・ 地域とのつながりが次第に希薄になっている中で個人情報の問題もあり、地域の中だけで見守りや支援を行っていくことは難しいと思います。行政と地域が連携できるような仕組みができればいいと思います。
- ・ まだ地域との連携は不十分。民生委員だけに頼りすぎ。老人会の参加者は少なくなり他人ごとになっている。

◆地域での認知症についての理解がまだまだすすんでいない。地域で認知症や認知症の人についての理解を深めていく場や機会が大事だ。

- ・ 高齢者が地域にかかわる場が少ない。認知症について理解が不足しており周りが対応できず認知症の方を排除している。認知症の方を理解するための場（認知症カフェ等、認知症サポーター）の拡大。
- ・ 認知症に対する無関心さ、偏見、知識の少なさがあると感じています。心無い言葉に孤立感を感じる家族も多いと思います。認知症サポーター等勉強できる場をもっと増えればいい。
- ・ 高齢者の方も含め、高齢になることはどういったことなのか、認知症というのはどのようなことなのかなど自分の身に置き換えて考える場や機会がなく、先入観や偏見が先行しているようなイメージがあります。認知症高齢者と地域は少し切り離して考えましょうといった感じがあると感じます。
- ・ 家族に認知症の方がおられるときは隠さず、その方の状況を周りの方にも理解してもらい協力を得ることができたらいいと思います。

【災害時、高齢者に対する支援活動を実施するための地域社会での取り組みについての課題】

◆災害時の避難行動を助け合っていくためには、日常的に近所でのかかわりを深めておくことが大事だ。

- ・ 隣組等、日ごろからご近所同士でのかかわりを持つ。
- ・ 日頃からのご近所とおつきあい。関心を持たれる、持つ、心配してもらえ、心配だと思える日常。
- ・ 周囲で高齢者に対しての声かけ等。
- ・ 日頃の声かけが必要と思います。
- ・ 日ごろから地域の顔や状況が分かるような行事や取り組みが必要では。そういうことがないといざという時に全く動けない。
- ・ 高齢者の顔見知りを作る機会を設けることで高齢者も地域の人に頼れるようになる。
- ・ 日頃から声を掛け合い1人暮らしの人を把握して行事の参加をできるだけしてもらおう。交流しやすい環境。
- ・ 近所付き合いがうまく出来若い人との交流ができればここに誰がいる、声をかけないと、という思いが期待できるのでは。

◆避難場所を普段からきちんと認識しておくこと、そのための地域での情報提供や啓発活動などの取り組みが大事だ。

- ・ 急な災害にパニックにならぬよう常日頃より「こういう災害が起きたときにはここに避難する」といったような具体的な情報を提供しておく。
- ・ 隣近所で声掛けできるよう、組織づくりを行う。となり組長さんなどで高齢者のお宅を回り避難場所などの確認を行う。
- ・ 近隣と顔見知りになる。民生委員や市の関係者などは日頃から高齢者宅を訪問し避難場所などを説明する。連絡先などをはっきり書いておく。
- ・ 年2回のクリーンデーなどでも災害時の避難に関することの説明などしないとわからないと思います。
- ・ 各自で避難場所を認識し、声掛けし応じられるように。

◆災害時を想定した避難訓練を定期的実施していくことが大事だ。

- ・ 地域ごとに定期的に防災訓練等を行い、防災意識を高めることが大切だと思います。
- ・ 年1回程度の防災訓練を市主催で実施できませんか。いつどのような災害が起きても住民が主体的に動けるように、若い年代層が高齢者を救助、避難する方法も体験できるようにやってみてはいかがでしょうか。
- ・ 災害を想定した各地区での訓練を行うべき。これには通所介護、リハビリ、ショートなど介護保険事業所も一緒に行うことが必要。
- ・ 緊急災害時など避難が生じる場合、高齢者のみでは円滑な避難も困難に陥る可能性があります。円滑に実施するために普段からの地域社会との交流や地域全体での定期的な避難訓練の実施を行うなどの取り組みが大切だと思います。
- ・ 高齢者に避難訓練に参加するよう声掛けを行い、訓練当日は迎えに行くなどしてとにかく

一緒に参加していく。

◆避難行動の支援が必要な高齢者の所在を把握し、災害時に支援する人たちの役割分担などを検討しておくことが大事だ。

- ・ 地域での高齢者台帳の作成。だれが、どの高齢者を支援するか等の担当決めを行い組織化が必要と思う。
- ・ 高齢者のみや障害のある方がいる家庭の把握と、災害時にはそれらのお宅を優先しての避難活動。
- ・ ひとり暮らし、高齢者夫婦世帯の地域別の把握。その情報の共有、連絡方法、避難させる場合の運搬方法。
- ・ 地震、風水害もそうだが隣人がどのような居住状況なのか、どこの世帯に助けが必要なのか民生委員さんを中心に把握しておくことが大切だと思います。
- ・ 高齢者のいる家庭の把握。その家への連絡と避難誘導の手段を考え伝えておくことが大切だと思う。
- ・ 地域で常に見守りし、独居の方や高齢者夫婦の把握をし避難の際は役割当てをし支援する。
- ・ 日頃より独居の高齢者や支援を必要とする高齢者のリストアップを行い、避難時の対応のマニュアルを作り備えておく。
- ・ 災害時等は身動きが取れない高齢者がいると思うので地域住民が独居、高齢者世帯を把握し安否確認を行う。隣組長のように地域の中で係を作ったほうが責任をもってできるのではないかと思う。
- ・ 高齢者がどこに住まれているか地域の担当の方が把握しておく。災害時受け持つ人を割り当て速やかに実施できるよう計画を立てておく。
- ・ どのような状態の高齢者の方がどのような場所に住んでおられるかを確認されている必要があると思われます。個人情報やプライバシーに当たる内容になるのですが大まかにでもわからないと避難時の対応に問題が生じるはずで。地区で避難訓練が行えたらよいと思われます。
- ・ 町内会（自治会）で要支援護者の情報を確実に把握し避難支援者としての協力を多くの住民に周知する。わかりやすい支援体制づくりが必要。

【認知症高齢者が事故に巻き込まれることを防止するための地域社会での取り組みについての課題】

◆地域全体で、認知症や認知症の人について理解を深めるための場や機会を充実させていくことが大切だ。

- ・ 地域住民や民生委員等に向けて認知症の啓発を行っていかねばと思います。
- ・ 認知症サポーターを広め運動への参加を促す。認知症高齢者への理解が深まることで多くの方がかわることで事故を予防できると思います。
- ・ 認知症であるかどうかわからないので声をかけづらいという一面もあります。「地域全体で高齢者を守る」為にも、高齢者にも声をかけられやすくなるような元気なうちから講習

を実施してほしいと思います。

- ・ 認知症の方に対する対応の仕方を子供のうちから学校で学ぶ機会を持つ。公民館レベルでの勉強会を行う。
- ・ もっと地域全体で認知症高齢者に関心を持つこと。会社や学校での「認知症」についての話しや認知症の人に対する接し方などを専門の人が話す場を設ける。
- ・ 認知症の病気の理解。認知症の方との交流などで対応になれる、学ぶ。
- ・ 地域住民の方たちにも認知症への知識を身に付けてもらうことが必要だと感じます。町内会や自治会などの地域組織における勉強会のような形で知識を広げて頂き理解することで予測し事故を未然に防止できる地域社会を形作ることができるのではと思います。
- ・ 認知症への理解がまず必要だと思います。その上で誰もが声掛けして注意して見守れるようにしていかななくてはいけないと思います。声掛けの仕方によっては道路へ飛び出していくこともあるので。
- ・ 小学生などにも認知症についてわかりやすく話し大人はもちろん子供たちにも見守ってもらう。

◆ちょっと気にかかる人を見かけたら、気軽に声かけしていくことが認知症の人の事故防止につながり、そのような声かけが地域全体でできるようになることが大切だ。

- ・ 隣近所での挨拶、声掛けが地道ながらも効果があるように思われます。認知症だから見張る、ではなく少し気にかける程度の認識で周囲がいれば事故防止につながると思います。
- ・ 1人で歩いている高齢者を見かけたらあいさつの声掛けをする。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」そして少し様子を見る。それをきっかけに話しかけることもできる。地域全体で取り組む。
- ・ 失礼に当たるかもしれないけど高齢者の方が一人でボーっと歩いているときは声をかけられる地域になる取り組みをしてほしい。
- ・ ご近所の方の見守りも必要だと思う。
- ・ 地域の住人一人一人が高齢者に対して気配り目配りを行っていくこと。
- ・ 一人で歩いている高齢者がいたら声をかけ、その方の家族を知っていれば家族にも見かけたことを伝える等、家族が認知症高齢者の外出に気が付かなかったという状況を作らないようにする。

◆認知症がある人のことに関心を持ち、地域で見守っていくことが大事。そのためにも、家族が閉鎖的にならないよう働きかけ、また、そのための雰囲気づくりが大切だ。

- ・ 認知症であるということを近隣に知ってもらう。地域全体で見守りをする。他人事と思わず危険と思ったら手を差し伸べる。
- ・ 今の現状では難しいと思うが認知症の家族を持った方は近所の方に話して何かあったときのことをお願いしておく。(家族は認知症をあまり知られたくない人もいるので難しいと思う)
- ・ 自分の住んでいる地域に認知症の方がどこに住まれていて、家族がいらっしゃるかどうか現状では全く分からないため地区の集会の時にできる範囲でも教えていただけるよう

な働きかけが必要ではないでしょうか。

- ・ 認知症高齢者を家族だけで支えるには無理がある。ただ家族が周囲に認知症の高齢者がいることを隠したがる傾向もあるのではないではないでしょうか。高齢者世帯で認知症の方の所在を確認することも必要では。
- ・ 近所に認知症の方がいたらしっかり公表し、常にだれでも声掛けできるようにしておく。
- ・ 地域の人々が高齢者の方を見かけたら声をかけたり時々訪問してお話をしたりして安否確認をする。隣近所に認知症のことを知らせる必要がある。

【高齢者虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題】

◆高齢者に対する虐待を防止していくためには、高齢者がいる世帯が地域から孤立することがないよう、日頃からの近所づきあいや、地域でのかかわりを深めておくことが大切だ。

- ・ 近所づきあいをする。家族の精神的な不安など何でも愚痴が言える所を作る。
- ・ 高齢者世帯を把握し、日ごろからなにげない関わりを通して地域で支えるようにする。
- ・ 地域の方とのかかわり、助け合いなどがあればよいと思う。そのためには近所の働きかけをより深くするよう対策をとるべきなのではないでしょうか。
- ・ 孤立しないように自治会等の活動が活発に行われるような取り組みが大切。問題の早期発見につながるように。
- ・ 高齢者介護が必要な家庭への地域活動への参加の呼びかけ。家庭を孤立させない。
- ・ 高齢者、介護をしている家族が孤立しないような取り組みが大切と感じています。
- ・ 介護している家庭が孤立しないような取り組み。
- ・ 独居高齢者には民生委員の介入がされているが家族と同居になるとなかなか介入されていない。地域の交流会の場を設け、家族と同居している方でも悩んでいることを話しやすくし虐待の可能性がある場合は家庭に入るような組織作りが必要だと思う。
- ・ 介護者の過度な負担により虐待が考えられるので近隣の方の力添えや相談できる環境を作る。

◆家族介護者の介護負担を少しでも軽減できる、もしくは、家族介護者のことをケアできるような取り組みをすすめていくことが大事だ。

- ・ 高齢者の暮らしを見守るだけでなく日々サポートしている介護者へのケアがとても重要だと思う。
- ・ 虐待に至ってしまうのは介護を一人で抱え込んでしまっているケースが多いと思うので介護の負担を減らせるような協力体制を作り、手助けをしていく。
- ・ 自宅にこもりきりにならないよう閉鎖的にならないよう介護者側が休める制度の充実。外へ出ていける制度を利用できる等。負担が少なくなり、自分の時間を持てれば悲しい事件は減ると思う。
- ・ 介護負担が虐待の要因にもなっていると思う。地域住民の理解を深めて相談できる方、相談窓口がいつも利用できるようにする必要がある。
- ・ 介護者の相談窓口等、日頃の悩み相談を気軽に受けられるようなところを設置する。

- ・ 介護をされているご家族への声掛けや相談窓口を紹介するなど一人で抱え込まないような環境づくりをやろう。
- ・ 高齢者を抱えた家族が相談できる窓口を増やす。行政から介護サービスについての情報発信を行う。
- ・ 介護者の苦しみや悩みを受け止めてくれるような心のケアネットワーク、気軽に心のケアや相談に乗ってくれる場所を作ると良いと思います。介護側の心の行き詰まりの解消が必要です。
- ・ 虐待する人は心労を抱えている人が多いと思う。自分でも悪いと思っていともつい虐待していることがあるのではないか。介護する側のフォローが大切だと思う。(介護の大変さの共有、受容等、相談、アドバイス)

◆家族介護者が気軽に集い、介護の悩みや困りごとを語り合えるような場や機会があると助かると思う。

- ・ 高齢者が気分転換できる場を作る。高齢者と離れられる時間を作る。
- ・ 介護者の負担軽減のため交流会やサポートを行う。介護への偏見をなくすための取り組みを行う。
- ・ 同じような立場の家族に向けて話し合いなどができる場所づくりを行う。苦しんでいる家族のケアを行える専門職を増やす。
- ・ 介護による身体的、精神的なストレス、負担を抱え込みすぎることなく発散できる交流の場の提供又支援を行う。

◆虐待されている、もしくは虐待されていると思われる時には、きちんと関係機関に通報することが大切で、そのことをしっかりと知らせていくことが大事だ。

- ・ 子どもの虐待と同じように高齢者虐待も重く受け止める必要があると思うが地域では関心があるようには思えない。高齢者虐待と思われるときは通報するようと言われても、どこに通報するのが良いかわからないと思う。
- ・ 子供は児童相談所への通報が知られるようになってきましたが、高齢者の場合どこへ連絡するのかをまず広く知らせることが必要だと思います。地域でのお互いへの気軽な声掛けをしあうことも大切。
- ・ 近隣の高齢者の把握をし常時様子を確認する。介護保険、医療保険で各サービス利用時全身確認し疑いがあるときには連絡し連携を取り対応することが大切です。
- ・ 地域の方の見守りを重視し何か異変に気づいたら知らせたり相談をする。日頃の地域との取り組みが大事である。
- ・ 近所での声掛けやお世話、おかしいなあと思ったら相談をする窓口を日ごろから明確にしておいてわかりやすいようにしておくことも大切なことだと思います。

◆高齢者や加齢のこと、高齢者に対する虐待について、地域での学ぶ場や機会の充実を図っていくことが大事だ。

- ・ 高齢者虐待の勉強会を地域等に行い認識を持っていただく必要がある。
- ・ 行政区など小さな範囲ごとに高齢者虐待の知識や現状を知る研修など行い、早期発見がで

きるよう地域で取り組む。

- ・ どのような行為が虐待なのかなぜ起こるのか、どうすれば防げるのかなど情報を提供し意識を高めてもらう。
- ・ 高齢者についての勉強会を行う。
- ・ どういうことが虐待なのかをまず学習する。
- ・ どのようなことが「虐待」にあたるかなどの学習会やお知らせ見かけたときの連絡を声掛けする。
- ・ 虐待の定義、考え方、地域に周知していくことが必要。

2. 児童福祉・子育て支援分野

【子どもの様子をみていて感じる課題】

◆**運動する機会が減ってきているためか、身体能力、運動能力が低下してきているようだ。また、食物アレルギーを抱える子どもが増えている。**

- ・ 運動能力の低下。身体を十分に動かして伸びのびと遊ぶことが出来る場所の確保。
- ・ 運動面で苦手な子（経験がない子）が多い。増えてきている。園に来る子には自由に遊ぶ中でも身体を動かせるような内容を取り入れていきたい。
- ・ 疲れたと言う子どもが増えた。体を作ったり、外で日光に当たる機会を増やしていく。
- ・ 感染症、熱など体調を崩しやすかったり、食物アレルギーのある子どもの増加。乳幼児期からの病気に負けない体力づくり、食生活の見直し特に食べる物は添加物を使っていないなど、体に良いもの。

◆**家のなかでテレビを観たり、ゲームをして過ごすことが多く、外遊びの機会が減っている。**

- ・ 外遊びに慣れていないのか、特に途中入所の子が転びやすい、うまく手をつけない、前に視線を向けて走っていない。汗をかきにくいのか、夏場は日陰でじっとして遊んでいる等、入所前に充分、公園等の屋外で遊ぶ経験がなかったのではないかと考えられる。
- ・ 外での遊びが少なくなっている。何に対しても危険とみなされ、公園等の遊具の減少、田んぼ等で遊べない。携帯やタブレット端末、TV、一方向のあそび相手が目立つ。解決策として、公園、公民館の遊具を増やす。
- ・ スマートフォン普及により室内で長時間ゲームをする子どもが増えている。それに伴い外で遊ぶ機会が減り、体力低下が起きている。保護者が過度にスマートフォンを渡さない、子どもの前でスマートフォンを操作しない等対応すべきだと思う。
- ・ 外で遊ぶというよりは、家のなかでゲームやテレビなどで過ごすことが多くなっているようです。遊ぶ場所がないわけではないですが、公共の場所での母同士の関係などで、踏み出せない人も多いようです。
- ・ 遊ぶ場所が少なくなっている（自転車に乗ったり、ボール遊びをする場所がない）。

安全に遊べる場所を増やす。

◆**生活のリズムが確立していない子どもが多いように思える。大人の生活リズムに合わせることを強いられている。食事や睡眠などの生活習慣を改善していくことが大事だ。**

- ・ 1人ひとりちがうので“これ”ということはいえないが、全体的に生活リズムが大人に合わせてられていることが多く、子ども中心より保護者の都合になっている。
- ・ 生活リズム。家庭での睡眠時間（寝始めの時間）が遅く、眠くなる子が多い。家庭でのリズムの改善。
- ・ 睡眠不足による登園時の不機嫌な状態。父親が帰宅時刻が遅いがそれでも待っている。ゲームをしていて、兄、姉の就寝まで一緒に起きている、など。園児が1日を頭がすっきりした状態で迎えられるように、家庭内で話し合っ、9時までには眠ることができるように工夫してもらうようお願いしている。
- ・ 夜遅くまで起きてしまっていること。子どもには睡眠が成長の上でとても大事だということをお伝え、早めに寝ることを出来るだけ心掛けて頂く。
- ・ 生活習慣の乱れ（睡眠時間、偏食等）を改善し、体調面、健康面に配慮する。保護者にも朝ご飯や睡眠、十分な休そくの大切さを知らせていく。
- ・ 健康な生活習慣が確立できていない子どもが増えている印象がある。保護者の生活も仕事のために夜が遅かったり、食事が不規則な家庭の場合、変えていくことが難しい（母乳、ミルクから離乳食、食事の確立、朝起きられない、夜眠れない、一つひとつに時間がかかるなど）。妊娠中など早い時期から取り組める生活習慣改善の提案を行う。
- ・ 妊婦や乳幼児の健康相談や教室を通して、親の食生活の乱れが子どもにも影響しているものを感じます。このような相談の場で、専門職から正しい知識をお伝えしています。
- ・ 子どもの様子を見ていて、意欲が見られない子や、集中力がない子、落ちつきが無い子などが見られ、やはり、そのようなお子さんのお家の様子をきくと、生活リズムが乱れていたりします。

◆**家ではアニメが子どもの相手をしていることが多く、親子でしっかりと向き合って過ごす時間が限られているようだ。**

- ・ 親と過ごす時間が少ない。
- ・ テレビアニメなどを長時間見たり、アニメのDVDなどを借りて見たりしていて、親子のコミュニケーションが減っていると思う。時間を決めたりして親子の触れ合いを増やしたらいいと思う。
- ・ ゲーム、スマホなどが相手となっていることが多い。
- ・ 保護者（親）と子どもがいる時間が少ない。休みの時は、できるだけ子どもといる時間を多くとってもらおう。

◆**他人とのかかわり合いが苦手だったり、自制心のきかない子どもや、集中力に欠け、人の話を落ち着いて聞けない子どもが増えてきている。**

- ・ 個々に差はあるものの、他人とのかかわり合いが苦手だったり、自制心のきかない子どもも増えてきている。個人的には、身の周りのことは身につけている子どもも多いと感じる

が、親との密接な関係の中で成り立っている気がする。家庭とともに、地域、教育でバランスよく支えの役割が必要。

- ・ 集中力に欠け、人の話を落ち着いて聞けない子が増えているように感じます。普段から、室内遊びばかりではなく、出来るだけ戸外遊びをさせる等、身体を使って発散させる方法を取り入れていくようにしてはどうでしょうか。
- ・ コミュニケーション能力が経験不足の為か、低下してきている様に思う。また、それに関連して、自己中心的な行動も増えてきたと感じている。素直さは持っているので、経験を重ねると集団での生活に適應できる。経験出来る場所の確保は大切だと思う。
- ・ 人間関係を構築する力が乏しい子どもが少なくない。自分の気持ちを自分で理解し、それを表現していく力をつけていく必要がある。家庭でも学校でも子どものソーシャルスキルを高めるための関わりを行うことが大切だと思う。
- ・ 自分自身の思いや気持ちをうまく周りに表現できず、またそのストレスの発散方法を知らないため、内にこもって不登校や引きこもりへとつながってしまう。一人で出来る遊び(ゲーム、スマホ)が増え、他者との関わりが希薄化。身近な人との何気ない会話や、子どもたちが安心してすごせる居場所(学校や家庭以外にも)が増えることが解決の一步となると考える。
- ・ 情緒不安定な子が多く、そういう子に限って他の子よりも保育日数が多いケースがあるように感じる。解決策としては、仕事がお休みの日の家庭保育の協力や土曜日の預かり時間の短縮をして、家庭での関わる時間を増やして心の安定を図る。
- ・ 子ども同士での仲間外れや、リーダー格の子が周りに命令したり、手を出したり、子ども間の関わり方が今の課題。子ども1人1人としっかり関わる時間をつくり、話していくことを根気強く続けていく。
- ・ 体の機能上の問題ではなく、子育ての環境により多動などの問題行動をおこすこと。
- ・ 身近に欲しい物が手に入りやすく、不自由な思い(生活)を経験することが少ないように思いますので、我慢する心、物を大切に作る心から食べ物を大切に作る心、さらに人を大切に作る心を小さなうちから身につけて欲しいと思います。熊本地震によって、身近にまだまだ不自由な生活をされている方のことを子どもたちにも伝え、今の生活のありがたさや風化させないようにしていくことが、私たちの役目だと思います。
- ・ 経験不足を感じる場面が多いように感じる(食事の仕方、友人との関わり方、あそび方等)。
- ・ 自分でやろうとしない(食事、排せつ)。やってもらおうと待つ子が多い。家庭との連携を取りながら進めて行く。
- ・ 不登校、学校内外での問題行動等の問題の背景には、虐待、経済的理由、家族内の関係、本人の特性等、様々なものがあり、それがいくつも重複していることが多くあり、当事者たちはその中でどう対処すれば良いかわからない状態になっている。子どもたちを見守る大人が多くの視点を持ち、しっかりと背景を見ようとする必要がある。

◆発達に課題を抱えている子どもが増えているように思えるが、そのような子どものための専門機関、療育機関が不足している。それらの機関と保育や教育機関との連携も大事だ。

- ・ 発達過程において、様々の要因で気になる行動をとる子ども達の保育が課題です。保育の

現場では、専門機関とのスムーズな連携、支援が必要です。太宰府市立の支援センター、療育相談室と保育園との連携がもっともっと必要です。

- ・ 発達の遅れている子が気になる。親に日々のことを伝えたり、機関の提供。家での様子と団体での様子の違いや同じところを話し合っていく。その子の発達をあたたく見守る。
- ・ 子ども自身に問題や課題があるとは思いませんが、特性のある子どもも含めた受け皿として、保育所の充実や療育施設の拡充は必要だと思います。
- ・ 発達面で気になる子のスクリーニングは可能になってきているが、受け皿である発達、療育相談の人員や機会が少ないのではないかと感じる。とりわけ専門の心理士などの専門職の配置は必須ではないかと感じる。また、就学時やその先の小中学校への連携も必要なのではないかと感じる。健康、福祉、学校教育が縦割りで、つながっていないことで、子どもへの弊害はないかと感じる。市独自で療育機関ができればいいのだが。

【子育て家族の様子をみていて感じる課題】

◆子育てについて身近に頼れる人が限られていて、孤軍奮闘しながら、子どもとかわっている母親が多い。子育てをひとりで抱え込んでしまっている。

- ・ 育児サポートをしてくれる祖父母や親族が近くにおらず、夫婦だけで子育てをされている家庭があります。産後、母自身の精神状態も不安定なのに、父は仕事を休めない。家で母一人で孤立した育児となっている現状があります。父親の育児休暇を取りやすい環境づくり、一時保育等の充実。
- ・ 保護者同士、近隣同士、親族同士といったように、身近に相談できる人がおらず、子育てについて当事者だけでどうにかしなければいけないと追いつめられている人が多い。そういったストレスが子どもに向いたり保護者の心身の状況に影響をしている。
- ・ 近くに頼れる人がいないなど子育ての孤立。現在、市で行われている公民館などでの一時預りなどの日数を増やし、利用しやすくする。
- ・ 相談できる相手や場所がなく、1人で子育て等の悩みを抱えて苦しんでいる保護者が意外に多い。公的な相談機関などの存在を知ってもらい、活用を促していくことができればと思う。
- ・ 気軽に相談できる相手がない。実家が離れているママは、子育ての相談を実母にも気軽にできなかったり、また、実母や義母と子育て方針が違ったりする場合には、逆にまた悩みが増えて、それを気軽に相談できる場所がないこともある。夫は帰りが遅かったり、仕事で忙しく余裕がない場合は、夫との間で言い合いになったりして、ママは精神的につらい思いをしているケースがある。ママたちにとって、相談をしたいがどこにしたらいいのかかわりにくいし、問題が生じた時にすぐに相談できる場所があると、ママたちが精神的に追い込まれることが回避され、健全な子育てができるよりよい環境が作れると思う。
- ・ 核家族世帯がほとんどで、帰宅時刻が遅いお父さんが、平日、子育ての協力ができる時間が少なく、お母さんがほとんど一人で子育てをしている。
- ・ 父の帰りが遅くて、母一人の子育て。実家も遠くて、周りに頼る人がいない。育児の情報をネットで調べて、同じ悩みでいろいろな情報がある。親としてはどの情報を信じていい

のかわからない。わが子の発達が情報と少しでも違うと、遅れているのではないかと悩んでしまう。月齢の同じような他の子と比べても同じ状況。小さい頃から子どもに関わっていく。小中学校の次世代育成。

◆祖父母などの支援が得られない場合、子育て支援のサービスが不足していることもあって、とりわけ、共稼ぎ世帯では子どもも親も負担が大きい。

- ・ 祖父母の協力がある家庭とない家庭での差を感じる。体調が悪くても無理して登園したり、発熱してお迎えの連絡を入れても何時間もお迎えに来れなかったり等、親子でハードな生活になっている様子が感じられる。ファミリーサポートや病児保育等もっとスムーズに活用できるようになればいいのではないかと考えられる。
- ・ 核家族家庭の周りの支援者の少なさ。支援センターなど施設の認知や利用。
- ・ 小さい子どものいる共働きの家庭では遅くまで子どもを預かってくれる施設がなく、子どもが不安そうな表情をしている。夜間や遅くまでみてもらえる施設やサービスの充実があるとよい。

◆共働きの、日々仕事に追われ忙しく、子どもと過ごせる時間が限られてしまっている。

- ・ 両親が忙しく、子どもと関わる余裕が無い様に思う。仕事が休みの日は早く迎えに来るなど、子どもと関わる時間を持つ事が大切だと思う。甘えが足りていない子が多い様に思う。
- ・ 子どもと接する時間が少ない。帰宅後は数時間子どもの為に時間を使うと割り切る。
- ・ 仕事をしている親は忙しく、子どもと関わる時間が持てていないと思う。
- ・ 両親共働きの家庭が増え、大人は勿論、子どもの心にも影響している。保育園を利用（一時も含めて）し、時に大人自身の心の安定や余裕を持つ機会を設けることも1つの方法。大人の余裕は子どもの心の余裕にもつながる。

◆子どもが病気をした時の対応など、子育てと仕事を両立させていくことが難しい。

- ・ 熱があった時すぐに迎えに来られない保護者が多いため、職場の帰りやすい環境の見直し。
- ・ 熱などで急を要する時、みてもらう人がいない（共働き家族）。病児保育の充実、又は職場の待遇の改善。
- ・ 子育てと仕事の両立が難しい。子どもが熱が出た時等にお迎えになかなか来られなかったりする。子育てしやすいよう、電話が園から来たらすぐにお迎えにいけるような制度を作る等。

◆子どものことをきちんと叱ったり、言い聞かせることができない、家庭での教育力が低下しているように思う。親が子どもの言いなりになってしまっているところがある。

- ・ きちっと自分の言葉で叱れない親が多い。先生を悪者にしたり、大人が子どものあとをおいかけている（子どもにふりまわされている）。子どもとむきあうこと。
- ・ 自分の子どもに対していい聞かせきれない家庭がある。保育所内ではできていても保護者がこられると態度が変わったりして、話を聞かないということがある。大人の言うことを聞くことの大切さを親も子も理解することが大切だと思う。
- ・ 親の方が子どもと対等の目線に降りてしまい、毅然とした態度で叱ったり、諭すことが出

来ないことが多く感じる。子育てを楽しんでいる面も大いに見受けられるが、自己満足に終わっていないか、マイナス体験を含めた色々な体験、経験が必要に思う。

- ・ 親の方が子供の言いなりになっている様に思います。(子供が親より上にいる状態) その為、わがままを通す、人の言うことを聞かない子供に育てている様に思います。親はどんな時も毅然とした態度で子育てをしていかれたらと思います。
- ・ キレやすい子、自分の気持ちを抑えることができない子がいる。保護者の関わり方で子どもたちが、どういう力がつくのか左右されてしまう。子育てを他人まかせにしたり、子どもの言いなりになっている場合、自分が「こういう子に育てたい」という気持ちを持って、子どもに接してほしいし、専門家のアドバイスを受け入れてほしいと思います。
- ・ 保護者(親)が自分の子どもとどう接してよいかわからないことが多いと思う。子どもとすごしながら家事をする等、何気ない生活を我が子と共にすごすことがむずかしいようである。
- ・ 環境や経験不足もあると思うが、子どもたちが友だち同士でもめた時、公共の場でのマナーなど、保護者の見守り、声かけが少ないように感じられる。小さい時から、少しずつの積み重ねが大事なことを伝える必要もあるかと思う。
- ・ 家庭の教育力。

◆子どもに親の生活リズムを強いてしまっていることがある。親の都合のほうを優先させていると思えることもある。

- ・ 生活リズムが子どもではなく大人中心になっている。
- ・ 子どもに対する愛情はたくさんあると思うが、親が自分の時間(親自身の楽しみ)を楽しんで優先しているのでは、と思うことがある。
- ・ 生活のリズムが確立していない子が多いように感じる。親の携帯を使い、ゲーム、動画を見ている子が多い。親に協力を依頼し、話をして子供の生活習慣の確立を、園、保護者一緒に取り組む。
- ・ 共働きをしている所が多く、小さい子どもがいるところでは、生活リズムがどうしても大人中心になっているのではないか。食事や子どもと一緒に過ごす事(時間)にどう向きあうかを考えていく必要があると思う。
- ・ 家族の生活習慣に合わせた子の生活習慣をなおす。例として、父が遅く帰宅するため子が遅くまで起きている。家族が遅く起床するため、朝ごはんを食べないで登園する等。保護者に子への関わり方を知らせ、生活習慣を家庭からも見直すきっかけづくり。

◆家庭における子どもの養育環境や、家庭教育についての考え方や取り組みなどに大きな差が生じてしまっているようだ。熱心なところとそうではないところの差が大きい。

- ・ 子どもたちに対して、教育的な配慮が自然とある家庭とそうでない家庭があるように感じる。家庭の実態を十分に把握する。必要な手立てがあれば一緒に考えていけるような信頼関係を築く。
- ・ 子どもたちの養育環境の差が激しくなっていくことによって、受けることができる教育や生活レベル、発達などの格差も大きくなっていること。解決策として、養育環境の差を減

らす対策を行政が行うこと。ひとり親への助成や、保育所の入所（どのような家庭の子でも、入れるようにする。また養育環境の悪い家庭へ個別に細やかに介入し、保育所入所やその他サポートを提供できる仕組みづくり）。

- ・ 子どもたちに対して、教育的な配慮が自然とある家庭とそうでない家庭があるように感じる。家庭の実態を十分に把握する。必要な手立てがあれば一緒に考えていけるような信頼関係を築く。保護者自身が余裕がない中で生活しているように思う（経済的、時間的、情緒的など）。
- ・ 保護者の意識、考え方に大きな差がある。たとえば、意識の高い家庭は、支援が必要であることを発信し、サービスを探し利用することができるが、支援が必要であることを発信できない、サービスがあっても利用できない、利用しない、行政の支援を拒否する家庭もあり、結果的には子どもの育ちに影響が出ている家庭もある。

◆**本来家庭でやるべきしつけや子育てを保育園に任せきっているようなところがある。**

- ・ 子育てを園にまかせている家庭が多い。
- ・ いわゆる躰ということを保育園でしてもらうことを望んでいる家庭があること。家庭での役割を果たしていない。
- ・ 子育てを他人（保育所、保育園）まかせ、親（祖母）まかせ、そして他者（保護者）へ。子どもはケガをするもの。
- ・ 保護者の方が休日の際は、“大人の休日”という具合で、子どもを保育園にあずけていくご家庭が多い。子どもたちの精神面が不安定（保護者とのコミュニケーションが不足しているのか）な状況の子が見られる。基本、子育ては保護者がという事をふまえながら支援をしていく必要性を感じている。
- ・ 情緒不安定な子が多く、そういう子に限って他の子よりも保育日数が多いケースがあるように感じる。解決策としては、仕事がお休みの日の家庭保育の協力や土曜日の預かり時間の短縮をして、家庭での関わる時間を増やして心の安定を図る。

【**生活が困窮する状態にある子育て家族の様子をみていて感じる課題**】

◆**親が体調を崩してしまうほど、厳しい就労となったり、逆に働きたくても、十分な保育サービスを受けることができないことがある。適切な就労支援をすすめていくことが大事だ。**

- ・ 母子家庭などのひとり親家庭の場合、生活を支えるためにWワークをしなければならず、結果子育てまで手が回らなかつたり、親自身が体調を崩してしまつたりと悪循環になっているケースが多くみられる。母子家庭等への就労支援や（生保以外での）経済的な支援制度の充実が必要と感じる。
- ・ 生活に困って働きたいけど、仕事が決まらなかつたり保育所に入所できない。待機児童が多いので、保育所に入所できない。生活するだけで精いっぱい、子育てまで目が届かない状況等になると思います。
- ・ 母子手帳交付時のアンケートのなかで「経済的な不安がありますか」という質問項目について、「はい」と答える方が結構いるように思う。「具体的にはどういうことですか？」

と尋ねると、「今、二人で働いていて生活がギリギリなので、私が働けなくなるとどうなるか不安」と回答される方が多いように思う。この状況から推測すると、それでも子どもを持つと思ったパパママがいる一方、子どもを持つことをあきらめてしまうパパママも多いのではないかと思う。出産後のママの仕事復帰支援は子どもを持つとするパパママには重要課題だと思う。

◆**保護者が心身の健康に不安を抱えていることが多いように思う。仕事などの忙しさもあって、子どもにつらくあたってしまったり、向き合うことが少なくなっていることがある。**

- ・ 保護者が心身の健康に不安を抱えていることも多い。子どもが健やかに育つためにも、まずは保護者へのサポートが必要だと思われる。経済的な支援だけでなく、心身の健康も回復していくための支援があればと思う。
- ・ 父親母親が仕事でなかなか子どもと接する時間がないところは、両親保護者に余裕がなく、子どももイライラしたり、他のところに気持ちをぶつけてしまうと思います。いろんな人と関わり、スキンシップも大事です（本当は保護者とのスキンシップが一番ですが）。いろんな機関を利用（安価に）できるといいと思います。
- ・ 子どもの身の回りのことなどに、目が向いていない時もあるように感じる。
- ・ 子どもに対して親の関わりがキツイ。（心に余裕がない）
- ・ ワーキングプア、ひとり親家族はとくに、仕事と育児の両立が難しい。親子の関わりが少なくなってしまう。
- ・ 仕事をしていて忙しいからか生活リズムが整っていない。

◆**保育料や授業料の滞納、給食費、教材費の未払いがみられることがある。**

- ・ 保育料、授業料の滞納。給食費、教材費の未払いなど。
- ・ 給食費や授業料などが支払えない。
- ・ 保育料が支払えない。補助金の額を上げる。
- ・ 保育所等で使用する教材や物品の購入が疎かになる。無償化や奨学金制度により貧富関係なく子が育つ社会。
- ・ 保育用品が買えない。保育所で買うものを削減する。
- ・ 生活費、子ども達の学費の工面。

◆**サイズが合っていない衣服や家庭での食事などの様子から、厳しい生活環境に置かれている様子がうかがえることがある。体調を崩しても受診ができないていることもある様子だ。**

- ・ 十分な食事が摂れなかったり、新しい服などが買えない。
- ・ 着ているものや使っているものが汚い。給食費が払えないなど。
- ・ 衣服のサイズが小さかったり、お風呂に入っている？ご飯は食べている？等、様々な面で心配になる子もいる。そんな中でも持ち物が必要以上に新しくなったり、習い事をしていたり、という姿も見られたりする家庭もあるので、そういう部分がどうにかなれば、と思います。
- ・ 十分に食事等、生活面がしっかりとされていない事。支援は大切だとは感じるが、ある程度保護者の方の努力を要するところに関しては、はたらきかけをしていくことが大切

であると感じる。

- ・ 病気をしてもなかなか受診しなかったり（できなかったり）、病気をすると休めず困ったり、働き先を失ったり。病児保育の充実。

◆食事の内容や栄養の偏りを改善が求められる状況になってしまっていることがある。

- ・ 低所得であってもしっかり養育されている家庭もあるなかで、一概に言えないところはありますが、低所得であっても養育能力も低い家庭である場合は特に、まずは子どもが成長できるだけの栄養を与えることが重要です。ミルク、哺乳瓶などの現物支給、保育所に入れる、定期的な見守り。養育者が病院への通院を要するケースは一時保育、保育所入所。マタニティ用品、育児用品のリサイクル。家のなか片付いていないことが多く、養育環境面で不安がある（児の事故など）。ハウスキーピング。
- ・ 状況を変える方策はわからないが、子どもたちの衣食住が損なわれるのは見るに忍びないし、ネグレクトの状態である。最近取り上げられている「子ども食堂」など、子どもを保護できるような環境があるといいなと感じる。
- ・ 低所得の家庭では、穀物の摂取量が多く、野菜類や肉類などの摂取が少なく、食事に偏りがあると国の調査で分かっています。生鮮食品は値段が高く、日持ちがしないことや調理に手間もかかることから、安くて手軽なインスタント食品やお菓子を子どもに与えている親も多いのではないかと思います。保護者自身の食生活から見直し、子どもの食事に反映させていく必要があります。経済的に苦しい家庭では、赤ちゃんのミルクを買うお金がないと言われる方や赤ちゃんが生まれる前から経済的不安をかかえている家庭が多いように思います。親身になって話を聴き、一緒に解決方法を見つけていく必要があると思います。

【両親と子どもだけの家族の様子をみていて感じる課題】

◆共働きの場合、子どもが体調を崩すと仕事を休まないといけなかったり、預かってくれる人がいない。預かってくれるところも限られている。

- ・ 共働きの場合、子どもが体調を崩すと仕事を休まないといけなかったり、預かってくれる人がいないこと。
- ・ 病気が続いていて、仕事もなかなか休むことが出来ないため、病児保育に預けながら仕事に行っているという話をよく耳にしている。
- ・ 病気や仕事が遅くなった時の迎えなど困る事が多い。
- ・ 子どもたちが熱を出したりした際に、両親共にお仕事を外せない場合にお迎えを、となると大変かなと思います。ファミリーサポートを利用されていたり、周囲に手助けをして頂ける方がいればまた違うかなとは思いますが、そういう方もいない場合はどうしても難しかったりもするので。
- ・ 子どもが病気の時に、仕事を休めない場合、預け先に困っていると感じる。
- ・ 子どもが病気になった時に仕事を休めないこと（両親が働いている状況で）。
- ・ 共働きだと、子どもが病気などになると、すぐ迎えに来られない、次の日も無理してつれ

てくるなど。

- ・ 子どもが病気した時に、すぐにお迎えが来られなかったり、仕事を休まないといけない。それで理解ある職場でないと仕事を続けられない。経済状況。
- ・ 特に病児保育の問題。子どもの病気に限らず、ママの体調不良やその他子どもがみられない状況ですぐに預けられる場所がないこと。
- ・ アレルギーの発作が起きたり、熱や病気になった際に、保育園に迎えに来たり、家でかわりに見たりする人がおらず、職場に迷惑をかけると考えたり、休みづらいと感じている。
- ・ 共働きの方は、病気などをすると長期に仕事を休むことになり、職をなくすことにもなる。もっとゆっくり子どもを休ませたいとは思ってあるようだ。家事と仕事のバランスか。

◆子育てやしつけなどのことを相談したり、教えてくれる人が身近にいないことが多い。悩みを抱えたまま生活をしている人たちもたくさんいると思う。

- ・ 子育ての考え方やしつけなど教えてくれる人がまわりにいるだろうか。悩んだまま生活をしているところもあるのではないかと思う。
- ・ ママ友や親族が周りにいなかったら、子育ての悩みを話す相手がいらない。
- ・ 育児についてアドバイスをしてくれる人が近くにいない。
- ・ あまり周囲の人との関わりがない家庭にとっては、相談も出来ずに悩みがあるのではと思う。
- ・ 育児のことやちょっとしたことを話せる場所が身近になって行きやすいと、行き詰まらなくて助かることがあるのかなと思います。経験豊富なシニアの方の力が必要ではないかなと思います。
- ・ 周辺に子育て仲間がいないと悩み（子育て）を相談する場所がないのでは。
- ・ 子育ての悩みをかかえこんでしまう。
- ・ 子どもの成長発達段階で、育児書どおりに育っていないのではないかと疑問がめばえるのではないかと思います。急な発熱など病気になった時、頼れる親族がいないとすごく不安なのでは。
- ・ はじめての出産や子育てで、だれにも相談できず、不安になったり、悩んだりしている。赤ちゃんを知らない。どうやって接するのか、抱っこするのか、どうあやすのか。両親と一緒にだと、経験がある分、いろいろ声をかけてくれる。教えてくれる。
- ・ 身近に相談できる人、家事育児を手伝う、代わる人がいない。時に共働き家庭や父または母のどちらかの仕事が多忙で、ひとりで家事育児を担っている家庭も多く、心身ともに疲れている。なかなか相談できないで家庭内で抱え込んでいる印象がある。

◆育児を支援してくれる人が限られるので、何かの時のお願いごとが困難だったり、孤立を感じながらの子育てになってしまう。そのような状況を改善していく支援の充実が大事だ。

- ・ 両親が病気してしまったり、仕事をしている家庭にとっては、すぐ近くに頼れる人が居ないと、かかえ込んでしまう人もいるのではと思う。
- ・ 行事等の時（参観日、遠足等）下のお子さんを預かってくれる人がいず、困られるのではないかと思います（特に下にお子さんが2人いらっしゃる所は）。
- ・ 行事等で子どもをあずけたいが、あずけることに不安を感じたり、祖父母も近くにいらっ

しゃらない方はとても大変そうです。

- ・ サポートが少ないため、孤立した育児になっている。相談者が乏しいことで、保護者の精神状態が不安定になりやすい。児の養育に影響がでるかもしれない。孤立した育児で、情報やサポートが乏しいため、育児内容に偏りがでてしまい、児への発達発育に影響が出るもののリスクがあるかもしれない。
- ・ 実家、親戚のサポートがないので、とりわけ産前産後のサポートが不足する。専門職のサポートは医療的に問題がなければ、スポット的な介入のみ必要とされ、あとは生活上のサポートがメインになってくる。たとえば、日常の家事（炊事、洗濯、掃除）や買い物、通院、できれば両親（特に母）が身体的に休むことができるような育児サポートなどである。
- ・ 両親ともに土、日、祭日の勤務、保育時間外の勤務がある場合（介護福祉施設、病院夜勤、中高教員部活動顧問など）、祖父母のサポートが得られず、ファミリーサポート、夜間祭日託児所を併用しないといけないこと。
- ・ 両親が体調不良の時など、子どもを預ける場所がなく、子どもをみられない。両親の息抜きの時間が持てない。
- ・ 核家族化による孤立。子育てについて聞ける人がいない。一時預かりなどで、養育者（母親）もリフレッシュする時間が必要だと思います。

◆母親のほうに子育ての過度な負担を強いられていることが多く、母親が孤軍奮闘し、疲れ切っていることがある。

- ・ 保育園の送迎や家事全般等、母親だけの負担が大きくなっているのではないかと。各家庭で違いはあると思うが、夫、父親も何らかの協力が必要。
- ・ 核家族世帯がほとんどで、帰宅時刻が遅いお父さんが平日、子育ての協力ができる時間が少なく、お母さんがほとんど一人で子育てをしている。
- ・ どうしても父親の子育て分担の割合が低くなりがちな家庭の中で、社会進出をしてきた女性が家庭に入り、子育てをしていく生き方に不安や目に見え易い達成感を感じにくいという親がいるのではないかと。
- ・ 御主人が単身赴任又は、出張が多い所は1人での子育てで、育児疲れをされるのではないかと思います。
- ・ 父親が母親に子育てを任せている。母親が子育てに関して抱え込む。
- ・ “母親支援”の薄さを感じる。母親が休める時間が必要かと思う。

【ひとり親家庭の様子をみていて感じる課題】

◆子どものことを相談できる人が身近な家庭のなかにいない。

- ・ 子どもを支えていく負担が大きかったり、金銭面や精神的な面で身近に頼れる人が居なければ、ひとりで育てていく大変さはあると思う。
- ・ 子どもの相談をする相手が家庭にいない。
- ・ 子育ての相談者がいない。
- ・ 相談する相手がいない。子どもを預けて息抜きをする事ができない。

- ・ それぞれの家庭で困っている事（子どもの事やお金のことなど）を相談できる環境があるだろうか。気軽に話ができる人がいるか。地域との関わり方など。
- ・ 子育てを分かちあう相手がいない（精神的な支えがない）。
- ・ 母子、父子だと、親の気持ちのサポートをしてくれる人が中々いないと思います。

◆子どもが病気をした時や何かあった時に頼める人や場所が限られてしまっていて、両親がいるところ以上に、その対応に苦慮している。

- ・ 保育園にあずけていても、体調不良でお迎えに行かなくてはならなくなったり、休まなければならない時にたよれる人がいない。子育てを相談する人が身近にいない。
- ・ 両親共にいても体調を崩した際にお迎えの手立てが、という家庭もあると思いますが、母子や父子家庭では更に手立てが難しいのかなと。
- ・ 子どもが体調を崩した時、助けてもらう体制がとれないなど。
- ・ 自分以外の人、例えば自分の親、兄弟などいるところはいいが、自分以外たよれる人が近くにいないというところがふえてきていると思う。それで、病気をした時などたよめる人がいないことがあると思う。
- ・ 病院行きや突然の仕事や延長時、子どもをみてくれるところがない。
- ・ 病気など咄嗟のときの預け先（養育者・児ともに）夜間含め。

◆経済的な面から、就労に忙しく大変であるため、子どもとかかわる時間が少なくなってしまっている。

- ・ 経済的な面での困窮や、忙しさにより、子どもに関わる時間がないことなどに困っておられる。
- ・ 必然的に働きに出ないといけなく、親子での過ごす時間があまり持てない。お母さんがいない事、お父さんがいない事に対して子どもに寂しい思いをさせているのではないかという不安。
- ・ どうしても働きに出る必要性があるので、幼稚園、保育園への迎えの時間に間に合わない。学童であれば、帰宅して子どもだけで留守番する事も多いだろうと思うので心配だと思う。日常生活に追われてしまうだろうし、健康に不安があってもゆっくり治す余裕もないのではないかと思う。
- ・ 経済的なもの、仕事が遅くなる場合、子どもをみてもらえる所はないか探している。子どもだけで夜をすごしている世帯で、場合によっては虐待（放任）となることも。これにより子どもはさみしさを感じている。
- ・ 仕事時間によって、子どもをみてくれる人がいない時間もふえるので困っていると思います（病気の時も含め）。
- ・ 母子家庭では、経済的に困られるのではないかと思います。その為、母親は仕事に出られ、子供と関わる時間が短く、困られるのではないかと思います。父子家庭でも、経済的以外は同じではないかと思います。
- ・ 生活に追われて子育てまで余裕がない。食事や学習等、子どもの生活リズムが定着していない。

- ・ 仕事と子育てのやりくりなど。
- ・ 経済的問題。仕事と子育ての両立を独りでしないといけない。周りの手助けがないと無理だと思う。
- ・ 家事・育児の手が足りない。経済面の不安を抱えている。

◆親が病気をした時などの対応が難しく、大きな不安を抱えている。

- ・ 子どもの親が病気をした時の対応（子どもを見てくれる人、家事など）。
- ・ 経済的な事。子供と一緒にいる時間が少ない。母親、父親が病気になった時、子供が病気になった時の不安。
- ・ 保育所、学童に預けていたりして、迎えの時間にまに合うために、正職員になれなかったりして、日々の生活に追われていて、保護者（自分）が病気になったりしたら、どうなるのだろうかと将来に希望がもてないのではないかと思います。

◆子どもと異性親の場合、子どもの悩みや困りごとに十分に寄り添うことができないことがある。

- ・ 母親は母親、父親は父親であって、かけもちする事はできない。母性、父性が欠けることの影響。
- ・ 母モデル、父モデルがいないため、父モデルのいない男の子は力が発散できず母が1人でこまっている。父親の役割と母の役割と両方を1人でしないといけない。
- ・ 子どもについての悩みや相談があっても身近に伝えてくれる人がいない。異性の母子、父子家庭だと子どもの相談に答えきれない所があるのではと思う。
- ・ 子どもたちが大きくなっていく中での悩みがでてくるかなと思います。
- ・ 母子家庭は経済面、保育園に入れにくい（待機児童）、勤務先によっては、十分に働けない。父子家庭は母親代わり、細かい所などの気付き、子どもと接する時間が少ない。母子、父子家庭はともに思春期の対応、特に父子家庭の女の子の場合。

【子どもやその家族を支援する行政サービスについての課題】

◆行政サービスの内容をよく知らない、理解していない子育て家庭がある。

- ・ 行政サービスを知らない、理解していない家庭もある。
- ・ 行政のサポートやサービスを知らない人が多い。プリントなどで情報を提供する。
- ・ ファミリーサポートの内容等、市から伝える取り組みをしてほしい。（手紙）
- ・ 家族を支援する行政サービスなどが、どのようなことがあるのか知らない人が多くいると思います。ホームページや市政だよりだけでなく、健康診断の時など子育て中の方が多く集まる機会を利用して、広く認知してもらえるようにすることが大切だと思います。
- ・ 本当に利用したい時に、どう手続きしていいのかわからない人も居るのではと思う。
- ・ 交流できる場や子育てに関する情報を知ることができる施設が少ないので、増やしたり施設を利用できるようにお知らせしてほしい。
- ・ 子どもや子育て家族を支援する行政サービスを利用できるように、わかりやすく知らせていく。子どもや子育て家族を応援（支援）する場を広げていく。

- ・ 日々、仕事、家事、育児に追われている家族が、どこまで行政サービスについての内容を理解しているだろうか。呼びかけの工夫や気軽に利用できる等の取りくみを積極的に行ってほしい。

◆**行政サービスの内容をよく知らないこともあって、必要なサービスの利用につながっていないことがある。情報提供や相談支援の充実が求められている。**

- ・ 近年、充実してきて利用者は心強く感じている事と思う。但し、サービスは必要な人が必ずしも利用しているかと言えば、そうではない事もある。自分からサービスを受けようと申し出られると良いのだが。サービスの種類も多様化しているので、情報を知れることが第一歩。
- ・ 保護者自身はその制度やサービスを知らないため、つながるまでに至らない。また、本当にそういったサービスが必要な家庭があっても、自ら相談に行くことがむずかしい。抵抗がある人も多いが、行政サービスは多くが申請主義であり、アウトリーチの機能が少ないため、つなぐことが難しい。アウトリーチ機能の充実化。
- ・ たとえば、行政が行っているサービスを知らない方がいらっしゃる。知っている人はうまく活用されているが、知らない方や知っているがなかなか利用することが無理な人がある。もっと市民に得する行政サービスのアピールをしていく。
- ・ 子育て支援を必要としている家族と必要なのに、支援をうけていない家族がいる（意識のちがい）。

◆**子育て家族の多様なニーズに応じた利便性が高い多様な子育て支援サービスの充実を図っていくことが大事だ。**

- ・ 行政の受け皿は、親にとって魅力のあるものでないといけないと思う。昔とは違う価値観で育った子育て世代のニーズに合ったサービスを考える必要があると思う。
- ・ 多様なサービスが少ない。困った状態になってからでないと利用できないサービスが多いので、予防的に手前から利用できるサービスがあると良い。子育て環境や生活様式が多様化しているので、サービスも今後多種多様で困っている内容に合わせて組み合わせたり、選択範囲が広いものになっていくとよい。
- ・ 求められているサービスが多様化しているので、内容種類の充実が必要。多くの子育て家族が利用できるサービス必要。
- ・ いろいろな支援の場が設けられていると思うのですが、サービスの内容、場所や時間などそれぞれのニーズに合う支援をそのタイミングで利用できるような、受け入れが容易だったり、相談などもしやすい環境作りが必要だと思う。
- ・ 病時保育の充実。ファミリーサポートはとても役に立っていると思う（保育所、保育園が長時間預り可能になったとしても、同じ職種であれば保育所に預けられないため）。
- ・ 自園では、仕事の理由でなくても“お預かり保育”をしている。保育園では、両親どちらか仕事が休みの時は園を休むように言われると聞くと、日頃忙しい中、時には父親や母親が自分の時間を持つことは大切なのではと思う。“子育て支援”の意味でもう少し緩和しても良いのではと思う。

- ・ 一時保育の受け入れ先が少ない。
- ・ サポートの強化、一時預かり、ヘルパーみたいなものが足りない。
- ・ 赤ちゃん訪問をするなかで、産後ケアの必要性を感じる。産後 1 か月ぐらいがきつい時期。産後の家事支援などを、ふくおか子育てマイスター講習を受けられた方などを活用して事業ができないのか。

◆**保育園がまだまだ不足していると思う。**

- ・ まずは、待機児を減らす取り組みは必要です。太宰府市立五条保育所の多くの受け入れを期待します。支援センター、療育相談室の保育士さんの応援を要請すれば、もっと多くの受け入れができると思います。
- ・ 保育園を増やしてほしい。
- ・ 保育所不足、待機児童の増加。保育士への待遇の改善。保育所の増加。

【**子どもやその家族を取り巻く地域の様子をみていて感じる課題**】

◆**子どもが泣いたり、騒いだりすることで近所や地域の人たちに迷惑がかかっていると感じている子育て家族が多い。**

- ・ 泣いたり、騒いだりすることで周りに迷惑がかかっていると思っている。(そう感じている)
- ・ 養育者は、「子どもが泣くと児相に通告される」とびくびくされています。虐待予防の視点がひろまっていることはとても良いことですが、もっとのびのびと子育てできる地域になれば、と思います。地域の温かい見守りの目をつくる。
- ・ 隣近所のつき合いができていない今日この頃なので、子どもの声(泣き声)足音が、騒音問題に発展したのを耳にしたりします。子どもが産まれた時、隣階下に「ご迷惑をかけます」と一言あいさつしていたら、まるくおさまる気がします。
- ・ 隣近所の理解がないと、子どもの泣き声や足音が近所迷惑になるということで泣かせないように気をつけて疲れてしまう親もおり、子どもを地域で見守ることが必要と感じる。自治会でサロンを開き、子育て支援を行っていたり、高齢者との交流を持っているところもあり、そのような住民主体の活動が広がっていくように行政も今まで以上に支援をするとういではないか。
- ・ 子どもの様子や保護者の関わり方に理解を示さない人もいるのではないかと思う。

◆**子どもたちの言動に対し、うるさいなどと批判的なかわり方になっていることが多い。**

- ・ 子どもたちの言動に批判的な目であることが多い。例えば、大声で遊ぶ、公園でゲームをするといったことに対してもクレームが入ることがあり、子どもが外であそぶことをしづらくさせている側面もある。
- ・ 地域の子育て能力がなくなってきている。子供の数が減り、子どもの育ちがわからない人、関心のない人が増えた。そのため幼稚園での子供の声がうるさいと地域の近くの方から苦情がくることもしばしばです。母親をみても“お互い様”の気持ちがなかったり、よその子を注意できなかつたりが多い。子供が足かせになるような気をつかわないといけないような地域ではよくないと思う。子供への関心を育て皆があたたかく又きびしく子供に教

えられる地域。年を召した方々が子供と関われる場、デイケアと子育てサークルが同じ所にあり、どちらにとってもよいような環境。

- ・ 子どもの声をうるさいと感じたり、見られるのが気になったり、触られたくなかったりと子どもを迷惑だと思っている人も地域にはいるようである。防音対策などの他に、子どもたちと地域の方々との交流の場を設けたりする。
- ・ それぞれの生活があるとはいえ、保育園に寄りそってあたたかく見守ってほしい。
- ・ 子育てをする家庭、その様子について無関心なことが問題だと思う。皆に関係することだという意識づけをして、1人ひとりがあたたかい目で見守る地域が理想なのだと思う。
- ・ 地域の子育て能力の低下。無関心、無介入。

◆子育て家族などの若い世代の地域でのつながりが希薄になっている。そのことで子育ての孤立化を招いている。

- ・ 地域でのつながりが希薄になっている。
- ・ 地域でのつながりの希薄さ。いかにして新しい人を迎え入れられるか、若い世代と密着できるか。地域ならではのとり組みをただ行なうだけでなく誘い合い、来やすい対応。
- ・ 最近は共働きの家庭が多く、核家族の為、家が不在になり近所の方との交流も減っているのではないか。その為、何か問題に思えるような事があっても、声を直接掛けて手助けするのではなく、すぐ警察に連絡するような手段をとられる場合が多いかと考えられる。例えば、子どもの夜泣きが激しい、ひとりで子どもが外で遊んでいる等。
- ・ 地域とのつながりが薄く、閉鎖的な家庭が多いように感じる。子育てや家庭のことなどについて困っていても気軽に相談できないことで、虐待等につながることもあるかと思うので、地域住民同士がふれ合い、会話ができるような機会や場の提供を増やしていくことが有効なのではないかと感じる。
- ・ 周りとのつながりの希薄さ、声かけ、見守り、助けあい
- ・ 地域で子育ての感覚が無くなり、隣の子が分からない、など希薄さ。
- ・ 地域のネットワークが乏しくなっている昨今、孤立した育児が増えている。そのことによって、養育者の精神的不安定になりやすさ、養育の偏り、虐待増加が懸念される。解決策として、地域で育児をする家庭がサポートできるような地域ネットワークづくり。

◆地域での行事や交流の場など、子育て家族などの若い世代とのかかわりやつながりを深めていけるような場や機会を充実させていくことが大切だ。

- ・ 地域の人々との関わりが少ない。行事などを通じて関わりをつくる。
- ・ 近所付き合いがない。異年齢同士の子どもで関わる機会、場所を増やす。(子ども会など)
- ・ 子供が少ないので、地域の交流など行事なども減ったと思う。
- ・ 核家族、地域の行事にも気軽に参加できるような場面をつくる。そのなかで、つながりをつくっていくことが大事では。
- ・ 子育ての孤立化のため交流出来る場を設ける。保育園だったら行事を通して交流を深めたり、地域の方が遊びに来られるようにする等。
- ・ 地域住民と子育て家族の交流が手っ取り早いと思いますが、地域とのかかわりを面倒と思

う方も多いので、養育者に積極的に出てきてもらう仕掛けが何かあれば良いのですが。

- ・自治会のなかでは、今は高齢者対策に重点をおいているように思います。老人さんのサロンだけでなく、子どもからお年寄りまで集えるサロンが必要だと思います。子どももお年寄りもお互いに交流することが大事だし、刺激になると思います。
- ・地域での子育て力は低下していると思います。自分たちで企画して運営するサークルの数が減少しています。地域で活動しているサークルに場所の支援など。

◆**子どもたちが安心して遊べるところがまだまだ少ない。**

- ・遊ぶところが少ない。
- ・安心して遊べる場所が少ない。アパートの前や駐車場で遊んでいると危ないと注意される。安心して遊べる場所を増やしてほしい。
- ・治安が悪く、何が起るかわからない世の中になっているので、子どもがのびのびと遊べる環境がなくなっている。解決策としては、安心して遊ばせられる施設を充実させていく。
- ・外で安心して遊べる場所がない。昔は地域全体で子育てをしていたが（我が子でなくても注意をしたり）、近年はいろんな方がいて、何か言うと反対に苦情や文句を言われる為、何も出来なくなっている。子ども会の活動を密に行う。（親も嫌がらず一緒に参加）お年寄りとの触れ合い。

◆**それぞれの地域活動で、我が子だけでなく、みんなで子どもたちを育てていく、見守っていく環境が根付いていくと良いと思う。**

- ・それぞれの地域活動で、我が子だけでなく、みんなで子ども達を育てていく、見ていくという環境が根付いていくと良いと思う。参加していない家庭などが見えてくるので、その時にまた地域の人が声を掛けたり 助け合う環境が出来れば良いのではと思う。
- ・もう少し子どもを育てやすい受け入れを地域もしてほしいと思います。地域とのつながりを持てる場を作っていくことが大切だと感じます。
- ・高齢者の方や地域の方が子ども見守り隊を結成して、登下校、安全確認声掛けをしていただき、大変有難い。同様、子ども会では、たくさんの大人の目が子どもたちを見守り、集団で活動する場を与えてもらっている。自由に子ども会に入っても入らなくても良いとしていると、本当に大人の目が必要な子、集団での活動を必要としている子がチャンスを失うので、地域全体で皆が地域の会、子ども会に入れるように働きかけることが大切だと思う。
- ・小学校に入ると地域の“子ども会”（自治会）があるが、少数ではあるが、入っていない家庭がある。地域での行事に参加できなかつたり情報が入らない、又孤立しがちになっている。

【**児童虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題**】

◆**児童虐待を防止していくためには、日頃から近所や地域でのかかわりを深めておくことが大切だ。**

- ・近所付き合いを密にし、子育て家庭に関心を持てるような取り組み。

- ・ 子どもや親と地域が関わりを深くしていけるようにしていく。
- ・ “隣の人は何する人ぞ”ではなく、昔のように毎朝の挨拶や何気ない会話によって程良い関係ができ、保ち、困った時には、「ここにおいて」と言ってあげられるような場所があると少しでも防止できないかなと思います。
- ・ 気になる事がある時は、まわりの人が気づけるよう話ができる環境をつくる。人と人がいつもあいさつしあえるように。気づかひや思いやりをどう形にしていくのか考える。
- ・ 一人で出歩いている幼児や、服装等が気になる子どもなど、気になる子どもに声をかけられる環境があれば。子どもにあいさつをするだけで不審者として通報されてしまうような現代では難しいかもしれませんが。
- ・ 隣近所との関わりがあると、誰かと話をする事も出来るので、少しは保護者にゆとりが出来るのではないかなと思う。
- ・ 地域の中で、いつも見ている、見てもらえているという感覚。何かあった時につながろうとするのではなく、何も無い時から声をかけ合い、気遣えるような横のつながりが大切である。
- ・ 近くにいる人とのあいさつや声かけは必要。
- ・ 気軽なあいさつなどの声かけ。

◆地域全体で子どもたちを見守り、子どもや子育て家族を応援していくことが大切だ。

- ・ 地域で子どもを見守っていく。
- ・ 地域社会の中で、横のつながりを作る。
- ・ 家庭環境の様子を地域全体で見守る。
- ・ 地域全体で、知らない子どもでも声をかけていけるような取り組みが大切。
- ・ 親の不安やストレスは家庭環境や経済状況や、現代がかかえる様々な複雑な環境が関係しているが、安心して生活できる環境と地域教育機関の見守りが連携できる社会づくりが大切だと思う。
- ・ 普段から地域の人みんなで子どもの成長を見守っていくことで、不審なことに気付きも出て来るので、地域全体で子ども達を守って欲しい。
- ・ 地域の方、特に近所の方の交流や協力は不可欠。声掛け合って、相談等にのり、改善するきざしがなければ、市や保健所、警察等に連絡する等の手段を利用すればよいと思う。
- ・ 民生委員・児童委員を中心とした地域での見守りサポート。
- ・ アパートに住んでいて、子どもが走ったりする音がするので、同じアパートの方に注意され、引っ越したという話を聞きました。子どもが泣いたり、走ったりするのは当たり前で、地域全体で子育て中の親子を見守っていくような啓発や自治会での「育ジイ、バア」講座等、企画していく。
- ・ 地域全体で見守り体制ができればいいと思うが、転入出が多く、アパート暮らしの方も多くなかで、近隣だけで見守りをするのは難しそうです。

◆子育て家族が育児を抱え込み、孤立してしまうことがないような地域での取り組みをすすめていくことが大切だ。

- ・ 地域の方々との交流を増やし、親がひとりで抱え込まず、近所の方々の力も借りて、子育てをしていけるような環境作りが出来ていくと良いと思う。
- ・ 親子で参加できるイベントを増やす。
- ・ 地域のなかで大人が少しでもコミュニケーションを増やす。
- ・ 親だけで問題を抱え込まないような、地域のなかでどこかに小さなつながりができていくといいのでは。
- ・ 全部解決するわけではないですが、育児の孤立化をなくす方法を考える必要があると思います。
- ・ 家庭が閉鎖された場になれば、児童虐待になる可能性もある。家庭がなるべく開かれた場になる様、地域や子どもをとりまく機関が子どもをしっかり見つめ、家庭と対話していく事が大切だと思う。親の心のケアが進めば、虐待は少しずつ防止されていくのではないかと思う。(子育てしている人が孤立化しないよう親に対するサービス)
- ・ 子どもを持つ親が孤独を感じたり、行き詰ったりしないように皆で育てているという雰囲気のある地域づくり。
- ・ 孤立する家庭を増やさない。

◆子育ての悩みや困りごとを気軽に話せて、相談できる場や機会が身近にあると助かると思う。ネット上にそのような場を開設してもいいかもしれない。

- ・ 子育ての悩みを聞いてもらうだけで、ホッとすると子育て中のお母さんは言われます。
- ・ 気軽に相談できる場所を増やす(電話などでも良いので)。
- ・ 育児についての悩みがあったら、気軽に相談出来る環境づくりをする。
- ・ 子育ての悩みを吐き出せる場やそういう存在の人が出来るような場を持ったり、参加出来なくてもネットで、という人もいるかもしれないので、そういうHPもあったりすると良いのかな。
- ・ 虐待しそう、と思った時に自ら SOS を出せる親育て。児相は子育て家庭を支援する施設という認識を浸透させる。
- ・ 市役所だけでなく、“自治会の誰さんへ”等、身近な方へ通報ではなく相談ができる場があれば。

◆子育て家族に対する訪問相談支援の充実を図っていくことで、虐待を防止していくことが大事だ。

- ・ 未然防止としては、子育ての困り感をアウトリーチして気づいていくことや、出産時からのハイリスク、若年出産の母子を見守り声かけしていく。
- ・ 赤ちゃん訪問や家庭訪問など。
- ・ 通報時のみの対応だけでなく、定期的な家庭訪問や検診(全ての子ども)。
- ・ 妊娠期からの切れ目のない、多方面からのサポートの仕組みづくり。
- ・ 民生委員・児童委員と行政が連携し、気になる家庭の様子を定期的に把握し、必要に応じ

て連絡、訪問していく。

◆虐待を受けていると思われる子どもがいた場合はすぐに相談、報告できるようにすることが大事だ。また、そのことをきちんと周知していくことも大事だ。

- ・ 虐待を受けていると思われる子どもがいた場合はすぐに相談、報告できるようにする。
- ・ 長く泣き声をきいたり、どなり声がきこえたら通報はするべき。
- ・ 子どもの泣き声や声などをひんぱんに聞いたら、通報したり相談する。
- ・ 虐待かどうかを判断するのは児童相談所であるという認識を、地域や学校がもち、通告を行うこと。
- ・ 何かおかしいと思えばすぐに通報しやすい環境づくり。どこに通報すれば良いかわかりやすく地域に伝えていく。
- ・ 日頃から地域の人と人の関係が密になるようなとりくみをしたり、「おかしいな」と思ったなら、まずは通報するのが大切だということを、公民館単位で住民に知らせるとりくみが必要。
- ・ 虐待を疑われると思った時に連絡する電話番号を広く知らせる。
- ・ 児童虐待の早期発見や、困っている家庭をいち早く見つけていくため、地域住民に向けた勉強会や早期発見のポイント等をまとめたリーフレット等の配布も有効なのではないかと思う。
- ・ 見かけた際や、その疑いがある子は小さくてもいいから報告したり、気にかけて見に行くようにすることが大切だと思う。
- ・ おかしいと感じた時に、相談（通報）すること。個人がかかわっていくことは難しいと思います。

◆子どもに直接かかっている保育や教育の場では、子どもたちの様子にきちんと目配りし、気にかかるようなことがあったら、速やかに専門機関に相談することが大事だ。

- ・ 保育所では少しでも怪しいと思ったら、専門機関に相談する。
- ・ 子ども達の身体の異変にすぐに気付くことが出来るように、毎日視診触診を行うように気を付けている。また、体だけでなく、子ども達の様子の変化などにも気を配るようにしている。保護者には積極的に声を掛けて、コミュニケーションをとりながら、子育ての悩みを一人で抱えこまないようサポートが出来るように行っていく。
- ・ 子育て機関が子とその保護者によりそい、虐待に気付く“目”をもつ。

◆子どもと直接かかわる保育や教育、医療機関と児童虐待に関する専門機関と地域がしっかりと連携を図りながら虐待の発見と防止をすすめていくことが大事だ。

- ・ 近所づき合いが、少なくなっている今、役所、病院、保健所、保育園、学校などが目を光らせ、時に連携を取っていくことが重要だと思う。
- ・ 保育所、学校、地域、行政が連携して危険信号（子どもがよく泣いている、汚れた服をいつも着ている、暗くなっても外で1人で遊んでいる等）を見逃さないようにしたいものです。
- ・ 保育園と児童相談所を密に。
- ・ 地域と学校、園の関係を深め、連絡、連携のとれるしくみを作っていく。

◆**虐待の被害児だけでなく、虐待者のケアについてもしっかりとやっていくことが大事だ。**

- ・ 通報し、子どもを守ることはもちろんであるが、その後の生活支援、とくに親に対しての手厚い支援が必要であると思います。
- ・ 親への心理的な支援（ペアレントトレーニング）や虐待の経験者がサポーターとなって、今虐待してしまいそうな親へ寄り添いや助言をしてくださるようなペアレントプログラムの導入。

◆**適切な時期の妊娠、出産などに関する教育が大事だ。**

- ・ 適切な時期の妊娠、出産（学生の性教育など）の教育が必要だと思います。
- ・ 平成 24 年の全国の未成年の人工妊娠中絶率において福岡県は全国で 1 位である。若年での妊娠、出産はそれだけでハイリスク妊娠であり、未婚から母子家庭、貧困、虐待との関連が深い。これを未然に防ぐ手立てとしては県全体で取り組む必要があるが、市レベルでも教育が必要なのではないかと考える。また、若年妊婦に対し、自身で主体的に考えることができるように産科医療機関などを巻き込んだ介入があったらいいなと考える。妊娠初期の妊婦を産科に体験のために教育入院させるなど。
- ・ 赤ちゃんや乳児、幼児という時期の子どもたちをよく知り、生命の尊さを現在の児童の時代から小さな子どもと接したり、母親の大変さなど実感することにより、大切に育てる気持ちが生まれるのではと考えます。実際に、赤ちゃんのお世話をすることにより、命の大切さを知る場を設けるとよいと思います。園では、子どもの姿や様子をみて、気づきがあれば対応していくことだと思います。
- ・ 子どもを知る。子どもとのふれあいを増やす。

【**子育ての孤立化を解消していくための地域社会での取り組みについての課題**】

◆**近所づきあいを深めていくことが大切だ。**

- ・ 近所との関わりを増やす。
- ・ 近所付き合いを密に。お互い声掛け合い、相談しやすい環境作り。
- ・ 近隣住民とのコミュニケーションや付き合いを増やしていく。
- ・ 近所付き合いを密に出来るような取り組みを行い、子育て家庭に地域の人達が関心を持ち、見守っていけるような社会。

◆**子どもとともに参加し、楽しむことができる地域の行事などを活用しながら、孤立しがちな子育てを地域で応援していくことが大切だ。**

- ・ 地域行事と子ども会行事のコラボ。
- ・ 子供を通じたつきあいの場を増やす。負担となる場合があるので、その負担がまた孤立化をうむかもしれず、子の親だけでなく、高齢者なども参加した何か取り組みがあればと思います。
- ・ 必然的に子どもを中心に集まる行事や会を作り、ご近所でみんなを見守り、声かけし合えることが大切だと思う。同年代ばかりでなく、祖父母世代、親世代、子どもたちといろんな年代の方々が触れ合って楽しめる行事や会を地区で継続的に行えればと思います。

- ・ 様々な年代の人達が関わりあえる（行き易い）集い。地区の取りくみは、高齢者主体は多いが、若い世代と一緒に関わってみたいと感じる活動はあまりないように思う。

◆子育てについての悩みや困りごとを気軽に話すことができたり、語り合えるような交流やかかわりの場や機会を充実させていくことが大事だ。

- ・ 子どもを持つ親同士の交流の場をつくる。子育てサロンのように決められた時間に開催するものだけでなく、好きな時にいつでも寄れるような保育室のような遊びの空間づくり。
- ・ 子育て中の親子が自由に集える場所の充実。
- ・ 公民館などを利用して、子育て家族がいつでもこられる環境(開放)づくりをしていくと、その中で、いろんな悩みや問題が解決できると思う。
- ・ 子育て支援のように幅広く触れ合える場を設け、それでも戸外に出ていかない保護者や参加する勇気がない保護者の方もいると思うので、そういう方も気軽に参加出来るような機会を設けると良いのかな、と思います。
- ・ 色んな親子で参加できるような行事を行う。挨拶運動などで顔を見て挨拶する。
- ・ 人とのつながりが増えるような場をもうける。
- ・ 無料開放の施設を作る（曜日を決めたり、時間帯を決めるなどする）。誰でも来ていいシステムにし、色々な世代の人が子どもと関わる機会を作る。
- ・ 他市の福祉事務所に勤務していたときに、子育てサロンという取り組みを行っていた。小さい子どもを抱えた母親が気軽に集える場所を1～2ヶ月に1度、保育所等とも連携してつくり、地域の子育てに関わる専門家と母親が出会う機会になり、また親同士の関係づくりの場所としても機能し、孤立の防止になっていた。
- ・ 子育て世代とふれあう機会を作る。
- ・ 地域で同じ月齢の赤ちゃんがいる保護者同士の交流など。
- ・ 地域の公民館等を子育て中の親子さんに開放してほしいです。週に1回でも自由に出入り出来たらいいと思います。そこにおもちゃがあつたらいいですね。
- ・ 病院や保健所などが、健診などの際、子育て支援の保育園を紹介したり、健診のオプションとして、親子体操を取り入れたり、フリーマーケットなどのイベントも同時に催すなど他の子の親（友だち）とコミュニケーションを取れる場を設ける等。

◆地域での声かけや見守り、訪問支援を続けていくことが大切だ。

- ・ 隣近所でおせっかいと思われるぐらい“赤ちゃんかわいいね、遊びにおいて、元気にしてる”など玄関ポスト等にメモなど残して、地域がいつも見守っていることを知らせていけたらと思います。
- ・ 自分からいろんな所に出かけることができる人はいいが、あえてこちらから、どう?!と気軽に雰囲気訪問できるようなこと。
- ・ 保育士や保健師などの専門職でない人たちの気軽な声かけを通して得た情報を、専門家がしっかり把握、適切な対応をする。
- ・ 定期的に家庭訪問する。
- ・

◆子育てについての悩みや困りごとを気軽に相談できる場や機会を充実させていくことが大事だ。

- ・ 子育てサポートする専門の人や場所を設ける。子育てをしている親子が集まって話をしたり、相談したりする場所を作る。
- ・ 子育ての悩みを自由に相談出来る場（セミナー、ふれあいの場、保育交流）を取り入れていく。
- ・ 保護者同士で関わりが持てるように、幼稚園や保育園で声をかけ合うようにする。子育てに対して悩みや心配ごとがあるようであれば、園の職員が相談役になるよう園に子育て支援の施設がふえればと思う。
- ・ 気軽に立ち寄れる子どもの遊び場や相談スペースを、人が集まるショッピングセンターなどにつくる。
- ・ 子育てをしているお母さん、お父さんが、気軽に子育ての悩みなどを話せる場を可能な限り設定し、公共の子育て支援の窓口には、そのチラシなどを置いておく。または広報にも、幼稚園、保育園、公共主催のもの、個人でのものなど多くの場を紹介し、足を運んでもらえるようにすること。
- ・ 子育てサロン、子ども会等、地域の取り組みをもっとわかりやすく、情報を得やすいように、又、参加しやすいような窓口があると良い。
- ・ 行政サービスなどの情報の提供。

3. 障がい福祉分野

【障がいのある人や障がいのある子どもの様子を見て感じる課題】

◆障がいのある人たちを取り巻く人たちの障がいや障がいのある人たちに対する理解がすすんでいない。偏った見方をされていることで傷ついてしまうことが多い。

- ・ 健常者の方たちから見た障がい者の人達の情報が偏っている印象。特に「怖い人」というイメージを持っている人が多くて、もっと色々な場面を見て、理解を深めてほしいと思います。解決策としては、定期的にふれあいの場面を作ってほしい。
- ・ 周囲の人に特徴を理解されず、適切な対応をされていないことで傷ついている。専門家に相談し、関係機関と連携を取りながら周囲の人たちの理解を促す。
- ・ 周りの理解不足、障がいについて知ってもらうきっかけを。
- ・ 様々な種別がある中で、それぞれの生きづらさや周囲からの理解、環境的な要因等も課題にあがってくるのかもしれない。本人それぞれの特性をつかんだ上で、本人も周囲（保護者含め）も生きやすく、生活しやすくすることが必要。
- ・ 軽度の方は周囲の理解が得られない事がある。
- ・ 障がいのある人たちに対する正しい社会の理解や、望ましい支援、援助の共有の充足がもっと必要ではないかと考える。解決策として、小学校教育などの義務教育のときから、障

がいについての“知る、わかる”経験を取り入れたり、大人になってからも障がいについて考える機会をもうけたりするのはどうかと思う。

- ・ 障がいを受け入れていく教育。
- ・ 障がいへの理解がされず、できない事に対して努力不足と思われること。周りが障がいの理解を深めていくこと。
- ・ 偏見の解消。社会からの疎外感。啓発活動の徹底強化。
- ・ 偏見、正しい啓発。
- ・ 発達障がいのお子さんは、思ったことをそのまま口にしたり、感覚的に特徴がある方が多く、他のお子さんとはトラブルになることも多い。トラブルの理由がまだわからず悩んでいる子も多い。周りの理解、わかってくれようとする人が多ければ多いほど、くらしやすくなると思う。
- ・ 周囲の理解（大人ということで、行動、言語など）。
- ・ ここ数年で放デイの数も増えてきました。このことで「知る」ということが出来、理解が少しでも広まれば良いと思います。
- ・ しょうがいを理解してもらっていないために、幼稚園や保育園、学校、社会などで配慮やサポートがなくすごしていること。職員がしょうがい理解を深めていくこと。仲間、社会。
- ・ 障がい児に関わる仕事をしているが、子どもを取り巻く環境や周囲の人たちの理解がまだ整っていないように感じる。周囲の人たちの偏見等に関しては、早い段階でも障がいに対しての理解というものを深めてほしい。また、療育等の施設、環境の充実。
- ・ 表現が伝わりにくく、周りが上から目線のことがあります。話をされている時もわざとのように嫌な顔をされ何回も聞かれます。
- ・ 周りの人の理解（点字ブロックの上に、平気で自転車や車を停めている人、足の悪い方が歩いている方の横を猛スピードで走る車や自転車）。

◆地域での障がいのある人たちに対するかかわり方を改善していることが大切だ。障がいや障がいのある人についての理解を深めていくことが大事だ。

- ・ 地域での関わり方等は、課題だと思います。身体に限らず精神的な面でも、地域でも受け入れが大切だと思います。何も知らずに暮らしていたら、どうしたら良いかわからないと不安に思うことも多くあるのは事実です。けれど、少しでも理解されていたら、状況は変わるのかな？と思います。
- ・ ご両親が居られる時は、地域とのふれあいもあられましたが、お亡くなりになられると交流がたたれることが、今後の対応が大切かと思います。
- ・ 障がいの理解を地域の人達がしていく。

◆保護者とともに、障がいのある人本人の高齢化がすすんでいる。保護者の介護力や本人の加齢による身体能力の低下などを前提とした支援のあり方を考えていかなければいけない。

- ・ 御両親が高齢になられているので、困られています。
- ・ 障がいのある本人と家族で高齢化してくるにつれて生活の難しさが出てくるように感じます。解決策としては、グループホームや入所施設でのショートステイ等を利用していき

ながら、親元を離れて生活ができる場を増やしていく必要があると思います。

- ・ 障がいのある人たちの高齢化とともに、支援する家族が高齢化していること。解決策としては、デイサービスの送迎が自宅までなど配慮できればいいが、スタッフの方の体制のことなどがあり、今後、どのように支援を提供する側が考えていけるかなど。
- ・ 年齢とともに機能低下がみられ支援に手がかかって来ている事。施設では、リハビリ（健康増進活動）を取り入れています、それには限界がありおいついていないのが現状です。
- ・ 御本人（家族）の高齢に伴い行動（活動）範囲がせまくなっているように思います。又、その為体を動かす機会が減り、残存機能の低下が進んでいるように思います。
- ・ ご本人がだんだん高齢化し、身体機能が低下し、生活に支障が出てきている。今まで自分でできていたことが少しずつ減り、見守りや介助が必要になってきている（食事、トイレ、入浴、着替えなど）。少しでも現状維持できるように、軽い運動をしたり、時間かけてでも自分でやってみる。
- ・ 入所施設であれば、高齢化や障がいの重度化などもあるが、高齢化した方の保護者が亡くなったあとのサポート体制などの充実はなっているのか。福祉の充実のため、本当に何が必要なのか考えてほしい。
- ・ 一人で生活していくのが困難な中、受け入れできる施設（福祉施設、グループホーム等）が少ない。グループホーム等を増やせるような仕組み（助成金など）を作る。手助けできる人（ヘルパー等）の数が少ない。ヘルパーさんなどの育成、人数を増やす。就職先が見つからない。啓発活動の強化。
- ・ 若い時には、普通に出来ていたことが年を取るにつれ、自分の意思が伝わらなくなったり、どの様に生活して行くのか、お金の管理などどの様にして行くのか。後見人制度等。
- ・ 仕事や楽しみが必要だと思います。

◆必要な福祉や医療のサービスの利用につながっていないことがある。相談支援を充実させていくことが大事だ。

- ・ 障がいのある人が福祉サービスになかなかつながっていないという根本的な問題があるように思います。当事業所も地域の窓口として、相談を受けたり、サービスのご利用を案内していますが、たとえば、市政だよりのようなものに、地域の相談日のようなものを設け、行政と施設が協力し、地域でお困りの方を支援するような仕組みをつくるなどして、解決していくこともできるのではないのでしょうか。
- ・ 必要な福祉サービスにつながっているか。
- ・ 障がいがあることにより、日常生活を送るなかで困ったことがあった際、相談する場所がない方や地域で過ごすなかで状態が悪くなっているが、病院を受診できない方が多く、支援者も気づけていないところが課題と思っています。解決策としては、病院と施設や、施設と市役所など、多機関で連携をとり、ネットワークをしっかりとっていくことが必要だと考えます。

◆本人が希望している選択と決定がされていないこともあるようだ。本人の思いにいていねいに耳を傾けながら、意思決定支援を行っていくことが大事だ。

- ・ 障がいの種別にもよると思いますが、自己選択、自己決定が実現されているのか。その確認が困難である場合はなおのこと、そうでない場合も満足しているとは思えない場面もあります。制度上の整備はもちろんだと思いますが、インフォーマルも含め、サポート体制の強化は必須で、そのための“仕組み”を作っていかなければいけないと考えます。
- ・ 自立して生活するため、まず何をしたらよいかかわからない。相談を受ければ、まずは既存の制度に当てはめる前に、本人が何を望んでいるのか、傾聴を行う。障害者手帳を取得しても、内容によっては特に該当する制度はなく、本人にとっては期待はずれとなる。障がいの内容ごとにそれぞれに支援の内容、量を考慮する。
- ・ ご自分の意思を表現することに困難性をお持ちの方がいらっしゃいますので、サポートする側も理解した上で対応する。
- ・ 自分の気持ちや希望をなかなか人に伝えることが難しい。援助をお願いすることができる事業所が少ない。ケアマネージャーや相談支援員が今よりも密に関わることで、少しでも気持ちをくみ取れると考えます。
- ・ 障がいがあるために生きがいや目標がなかなか見出せない環境があると思います。自分への肯定感が高まるような生活環境が求められます。そのためにも、作業や就労を通じ、その支援の継続が必要だと思います。

◆将来の生活のことを見据えた支援や備えを本人と保護者と関係する人たちがしっかりと話し合いながら考えていくことが大切だ。

- ・ 将来をどうするのか、就労するのか、施設に入所するのか、など親の元を離れどこまで自立、生活ができるのか、親がいなくなった後のお金の管理は誰がするのか、後見人が見つければいいが、いなかった場合どうするのかなど将来、先々どのような生活をおくるのか。保護者との面談など話す機会がある時に、具体的な将来のビジョンを立て、保護者と一緒に考え、将来へ備えていく。
- ・ 将来の進路、進学を見据えた幼児期からのかかわりが大切だと思います。
- ・ 子供の将来が問題になる。解決策は、親が亡くなっても自分が生きていける様に支援学校や、放課後デイサービス等へ行き、スタッフの支援のもと、自分が何か1つでも出来る事を身につける事が必要である。

◆障がいのある人たちが働ける場がまだまだ少ない。

- ・ 働ける場が少ないのでは。
- ・ 障がいのある人が働ける場所が少ないのではないかと。企業が積極的に受け入れられるような環境づくりをしていく。
- ・ 雇用に関することや社会参加が問題、課題となっていると思います。障がいのある人の雇用枠を増やしたりすることが考えられると思います。
- ・ 就労意欲のある障がいのある方々が一般企業に就職が難しい。
- ・ 経済的な課題、就労について等。

◆コミュニケーションが苦手な人とのかかわりや支援が難しい場面があるが、しっかりと向き合っていくことが大切だ。

- ・ 障がいの度合いでそれぞれ問題点等が違ってくるかと思われます。会話が出来無い方とはコミュニケーションがむずかしく障がいの方の気持ちを組み取る事がむずかしいと思います。しかし、こちらから言葉掛けを何度もしていく内に、気持ちを組み取る事が少しずつ出来る様になると思います。
- ・ 「他者とのコミュニケーションがうまくとれない」ことが問題とし挙げられると思います。自分の思いを言葉で相手に伝えることが苦手だったり、相手の立場に立った見方ができず、自分本意になってしまったり、また感情のコントロールができずに相手にあたってしまうことがあります。障がい者同士のトラブルがあった時は、必ず間に支援員等が入り、お互いの話をきいて それぞれの思いをきちんとお互いに伝えて、落ち着くように配慮し 悪い感情をひきずらないようにすることが大切だと思います。
- ・ 発語のない方の意志表現が困難。自分で行いたいことができず、お願いしたいがなかなかお願いできない、遠慮している方がいる。施設などでの職員とのコミュニケーションをしっかりと、信頼関係を築く環境作りが大切。こちら（職員側）から声かけしていくことが大切。

◆障がいのある子どもたちが利用できる施設やサービスがまだまだ少ない。

- ・ 障がいのある子どもたちを受け入れる施設などが少ないように思う。受け入れられる施設を増やす。子どもたちをサポートできる人材を増やす。
- ・ 染色体などで出生時に診断を受けた子どもも多い中、4、5、6歳以前に利用できる療育機関が少ないと思う。就業されている保護者で、保育所によっては受け入れが難しいと断られたり、転園などやむをえない状況になっている保護者はいると思う。仕事をされていても可能なところ、保育所、幼稚園の職員環境を整える（療育センターとの連携）など。
- ・ 待機児童の問題、支援を受けたくても受けることが出来ない子どもたちが多く通園施設が足りないように感じる。どの項目にも共通していると思うのですが、まずは充実した支援を受けられることが子どもたちや家族にとっては地域につながる第一歩になるのではないか。
- ・ 受け入れる施設が少ないと思います。各市町村に1つは療育施設や通園施設があればよいのではと思います。
- ・ 障がいがある子どもたちと、健常児の挟間の境界線領域といわれる子どもたちの支援のこと。通級の希望者の数に対して、入れる枠が少ないこと。入れなかった場合の支援が通常学級や支援学級でできているか。
- ・ 放課後等施設不足。公共施設の充実強化。
- ・ 単独通園施設（3～5才）が少なく集団経験が少ないまま小学校へ。保護者の負担も感じる。社会資源の不足。各障害施設（学校）の連携や情報の共有。間に入りつないで下ざる機関。保護者の学習の場や情報の開示。
- ・ 施設不足、施設をふやす。

◆障がいのある子どもが安心して過ごすことができる場や機会を確保していくことが大事だ。

- ・ 障がいのある子どもたちが安心して遊べる場所や学びの場、また食事など。戸外活動をする際も、できるだけ健常児と同じようにと思いますが、そうは行かない現実もあります。障がいのある子のふれあいスペースやお食事スペースがあると良いです。
- ・ 同年代の子どもたちとの関わりが制限されてしまう。自宅以外の場所で安心して過ごすことが難しい。障がいのある子どもたちが集うことのできる場所を確保する。
- ・ 家族に経済的、精神的余裕のない場合は、放置されたり、学習の機会を十分に得られなかったりすることがある。宿題や家庭学習をいっしょにできるボランティア。一時的に預りやお泊りのできる地域の居場所（学童保育をより家庭的にしたような場所）。

◆学校などの場で、周りの児童生徒とのかかわりがうまくできる工夫が大切だ。

- ・ 学校でのコミュニケーション。周りの子どもたちに障がいのある子への接し方を周りの大人が説明をしていく事が大切だと思う。
- ・ コミュニケーションが取れる友だちがほしいと言われていました。
- ・ 学校進学、友達とのかかわり。
- ・ 子ども達の集団生活。
- ・ 人間関係が円滑にできているか。社会的スキル。

◆障がいのある子どものなかには、障がいの特性を十分に理解されないまま、過度な課題を強いられてしまっていることがある。ていねいな専門的な支援が大事だ。

- ・ 強制されたり、健常の子ども達と同じような理解力や忍耐力を求められること。
- ・ 成功体験が少なく怒られて成長されており、自分自身に自信がなく、物事を否定的に捉えられる傾向がおありなように見受けられます。児童系の福祉サービスが増えています。そのような施設にて、子どもらしい経験が積めるよう支援をすることが大事なのではないでしょうか。
- ・ 子供の成長と共に生活の場が広がり、その子なりの成長発達をとげられているのかというと、そうでもないように思う。
- ・ 特徴を理解してもらえず、過度な叱責を受けて自信をなくしている。専門家に相談し理解を促す。
- ・ その子が幼ければ幼い程、判断しにくい面もあるので、子どもに関わる専門家が適切に寄りそっていく必要があると思う。また、就学などで環境が変わる際の引き継ぎなどで見落とす等のミスがあってはならないので、一つ一つていねいに連携を取る必要性を感じる。
- ・ その子供にあった支援を学校や行政、その他の支援がそれぞれ違う視点で支援をしようとしているので、子供にとってのベストな支援が出来てないように感じます。

◆障がいのある子どものことよりも、親や家族の都合や希望が優先された支援になっていることがないだろうか。

- ・ ドアTODアの送迎のやり方に疑問を生じることもあります。放課後デイで、ずっとクーラーのある生活をして、殆ど動かず、ドアTODアで送迎というのは、便利になったといえるのか、誰のためなのか。こころへんも一人ひとりの身体と向き合い、計画をもつべき

と思います。

- ・ 保護者側の立場として考えてみれば、ショートステイも放課後デイも本当に子どものことを考えて、必要として計画にあげている人が殆どでしょう。しかし、子どもの権利として捉えていくと、一部の子どもの中には下校後の放課後の過ごし方として、毎日、日めくりカレンダーの様に放課後の場所が変わり、ここで許されていることが翌日は禁止になったり、頼んでもいない学習の時間であったり等、本当にその子の権利としての使い方になっているかどうかの見極めは非常に大事だと思う。

【障がいのある人や障がいのある子どもの家族の様子をみていて感じる課題】

◆周りの人たちに障がいのある家族のことを話せないでいることもあって、かかわりが少なくなり、孤立してしまうことがある。

- ・ 身内の障がいを隠そうとする家庭では、障がい者が、社会から遠ざかっていく傾向がある。
- ・ 地域社会から孤立しているように感じる。いろいろな人達と関わり合いがもてたらと思う。
- ・ 他人に迷惑をかけているかもと考えている家族がおられました。
- ・ 障がいがあることをなかなか家族の方も周り（ご近所）に言えない人もいます。
- ・ 経済的な課題や関わり方等、家庭のみで孤立しているところもあるように思う。
- ・ 子どもさんに社会参加させたい。友達を作ってほしいと思う反面、いやがられたり、いじめられるのではないかと思い、遠慮してしまうことも多い。
- ・ 子供同士で差別をしていて仲間に入れてもらえない。陰口を言う人がいる。他人に迷惑を掛けられないと親がうつになっている人がいた。
- ・ 人の目を気にされるだろうなと思う。

◆家のなかで支援や介護を担っている家族の肉体的精神的な負担は大きい。家族自身の生活が大きな制約を受けている。

- ・ 家族の方のサポートははかりしれないと思います。健康管理をする為に毎日見守る事は大変だと思います。たとえば薬を飲ませたりなど。
- ・ 障がいの程度によるが、寝たきりだと入浴や移乗時など体を使うなど、体力がないとできないので困る。毎日、毎日、一生懸命で精神的に（相談する人がいなかったり、人には話さない人など悩みが重なったり）頼れる人がいない。
- ・ 親の体力より子の体力が優ってくる時、危険な場所へ急に走り出しても止められない。興味のある所へ行き、どこへ行っただかわからなくなる等。
- ・ 家族がいろんな面で制限をうけること。
- ・ 障がいのある人の生活のリズム（ヘルパーやデイなどの時間、制度上の規則）に合わせるしかなく、拘束感が大きいと感じる。
- ・ 睡眠時間等のズレにより、親御さんも、十分な睡眠が取れてないのでは。
- ・ 障がいのある人を中心とした生活となる為、家族の自由があまりきかない。

◆**家族のなかで理解が得られていなかったり、理解に差が生じていたり、支援や介護の負担が偏ってしまっていることがある。**

- ・ 家族の中でも、子育ての方針がずれていたり、頼れずに一人で育児をする母親など、子どもに中心的にかかわる養育者自身の孤立感、相談先のなさ。
- ・ 家族間でも理解しあえていない。母親に負担。
- ・ 特に母親は、ご自分を責めてあったり、ご家族と相談できずに孤立してあったりするケースが見られます。
- ・ お母さん一人では大変である。いろいろな人の関わりや支援がいると思う。
- ・ 母だけが、子どもの育児をがんばりすぎなくてもいい環境づくり、保護者同士の関わりづくり。
- ・ 障害の程度が他の子どもと異なり親同士で悩みを共有できない。夫の不協力、周囲の目、気軽に相談する場所や人がいない。
- ・ 周りに相談できるような知人や家族、親せきがおらず、解決していく能力、方法も分からないため、孤立してしまいやすいと思います。

◆**障がい受容や、どのように育児や教育し、かかわっていけばいいのか戸惑っている親や家族に対し、障がいについての理解を深めていくための場や機会の充実が求められている。**

- ・ お子さんの障がいを受け止めるまでの時間は辛いと思う。その時に、相談にのってくれる人等いたら、少しちがうかも。周りの協力してくれる人がいないご家族は、気持ちを内にとためがち。将来のこと（相談場所、施設、事業所が少ない）。
- ・ 親が子供の障がいをどの様に理解し、向き合うことができているか。
- ・ 周囲の障害の理解、親の障害の受容相談できる所の情報提供。受け入れ施設が少ない。
- ・ どのような教育、育児を行えばいいのか家族が分からず、悩んである。その子たちの得意分野を見つけ、伸ばしていく。
- ・ 障がいのある子に対して、家族又は周囲の人の理解がなかったりする面があることがあるように思います。
- ・ 両親の相談や教育の場や機会が少ない様に思われます。
- ・ 障がいを受容されている人と、受容できていない人では、困ったり悩んだりする内容が違うとは思いますが。家族支援も求められていると思います。
- ・ 障害受容の難しさ。
- ・ 幼児期は、子どもの障がいに対する受け入れ、受けとめ、生活習慣面やパニック等の対応。
- ・ 子ども自身の成長や発達などの遅れで、周りの子どもとの差に悩んだりしていると思います。
- ・ 障がいの受容、のりこえ。周囲の方からの理解、相談できる相手、場所がないこと。
- ・ 障がいの受容がうまくいわずに苦しんでいる方も多いと思います。
- ・ 特徴を理解できておらず、適切な対応ができていない（関わり方が分からない）こと。
- ・ 障がいのある子どもに対しての子育ての仕方や、誰に相談し、どうすればよいのか分からずに不安を感じている人がいると思います。
- ・ 子どもの発達についての不安や心配が大きいですが、相談できる人が少ない。
- ・ 健常者と自分の子どもを比べたり、又、子供がいじめられていないか常に心配し、どのよ

うに育てていけばよいのか悩んでいると思う。

◆**本人の病状の変化や成長にともなう体の変化、暴力的な態度などに、家族がうまく対応できず、かわりに不安を抱え込んでしまっていることがある。**

- ・ 病状の変化によって、その時の関わり方について悩まれていると感じます。
- ・ 家族と一緒に住まわれているのであれば、状態の悪い当事者からの攻撃や暴力など、安心して生活ができない時の対応や相談場所をしっかりと理解されていないため、家族や両親だけで抱え込んでしまい悩んでいると思います。また、単身で当事者が住まわれている場合、状態やどのように生活しているか、見えないため、本人に聞くことが難しい場合の対処法や相談場所について悩んでいると考えました。
- ・ お子さんが大人になるにつれ、関係が悪化したり、子どもが怖い、どのように関わればいいのかわからない等の相談を受けます。
- ・ 調子が悪い場合の対応には非常に困っています。また、ご家族が高齢になられており、「この子を残して」といった相談を受けることが多いです。

◆**親亡き後のことが心配で、不安を抱えている。どのようにしていくのか、いっしょに考えていく場や機会などがあると助かると思う。**

- ・ 親亡きあとの子どものことを悩まれているように思います。
- ・ 親が活着ている間は守ってやれるが、死んだ後の事を心配されている人が多い。
- ・ 障がいのある人の将来のことで悩んでいる家族が多いと思いました。両親が他界した後、子ども一人で暮らしていけるのか、どこでどのように暮らしていけばいいのか等ありました。
- ・ 親なき後の事は皆様御心配されているように思います。すでに入所されている利用者の御家族も、もし本人が病気になったら、高齢になったら、障害が進行して医療的ケアが必要になったらと心配はつきないようです。
- ・ 一番強く感じるのは「親亡き後」の問題です。特に障がいがある方達は自立することがむずかしいため、子供が安心して暮らしてほしいが、その方法が分からないという悩みはとても多く聞かれます。ご家族の悩みや気持ちに寄りそいながら、心理的なサポートと将来の方向性を一緒に考えていくことで安心されるのではないかと思います。
- ・ 親亡き後の本人の生活。経済面では将来の障がい年金の案内や、福祉サービスの案内をしてゆく。
- ・ 親亡き後の事を一番心配しておられます。入所、グループホームなど、すぐ入れるようになっていけば良い。また、施設での短期入所ではなく、グループホームの体験やグループホームへの短期入所などができるようになったらいいと思います。
- ・ 障がいのある人の高齢化と支援する家族の高齢化のことや、親が亡くなった後の障がいのある人の支えとなる人のこと。また、施設の職員がそれを担う場合のこと。

◆**親や家族が高齢になり、肉体的にも精神的にも、また、経済的にも十分に支援することができなくなってきた時のことを心配し、不安を抱えている。**

- ・ 両親が面倒を見ることができる時はいいが、親も歳をとっていき、面倒を見ることができなくなった時どうするのか。

- ・ 親の高齢化により、体力などの面で困難なことが増えていくことへの不安があるのではないか（将来への不安など）。
- ・ 家族（親）の高齢化により、面倒を見ていく事が大変になってきている（金銭的、体力的に）。
- ・ 親や兄弟がだんだん年を取って来て、子供の世話が出来なくなって来たりすること。
- ・ 介護する人が高齢化していて、体力的無理な部分が多く、どこで他の人の手をかりる事の判断に悩んでいる。
- ・ 高齢なので、対応が大変だろうなーとか思います。外の家族の方ももっと関わって欲しい（すごく思う）。
- ・ 障がいのある人を18才以上と捉えた場合、特に当事者（対象者）が40代以上の方たちは、ご本人の高齢化や重度化もありますが、加えてご家族の高齢化が深刻な場合があり、介護力が低下していることに困っていると思われる。困ったことをどう訴えればいいのか、どこに訴えればいいのか、ということもわかりにくいようです。障がい分野の制度（法）改正のスピードについていけないと思われる。

◆親や家族が高齢になり、在宅での支援や介護が難しくなってきたところで、施設の利用を考えるが、なかなか希望通りにいかない。

- ・ 家族自身が高齢化し、介助できなくなっている。受け入れてくれる施設が少ない。
- ・ ご家族の方が高齢や病気等により面倒を見きれなくなった時のこと。入所先の空きがなく、受け入れ先に悩まれている。
- ・ 本人、ご両親ともに高齢となり、先々の不安を揚げられ入所希望をされてあるが、入所待ちの方が増え、希望通りの対応が難しいところがあります。
- ・ 親の高齢化による将来の不安や外泊すらままならない状態であること。入所させたいが、見合った施設や空きがなく、又、本人が嫌がることもあり家族に疲れが見られる。
- ・ 家族の方が高齢になり、もし病気になったり、家族（特に両親）の方が亡くなったときに子どもはどうなるのか。通所の方は、特に入所先があるのか悩んでいるのと、不安でいっぱいだと思う。
- ・ 施設での入所や宿泊等の利用について不安や心配な思いが強く、なかなか判断できず困っている家族もいると思います。

◆本人の将来への心配があり、不安を抱えている。

- ・ 本人の将来への不安、悲観など。
- ・ 将来の事を不安に思っている方が多いと思う。
- ・ 障害を持たれている方の将来への見通し。
- ・ 子供の将来を考えて、悩んでいる人が多く感じます。
- ・ 親にとって我が子の将来の生活が見えないことが一番不安のように思います。
- ・ 親が高齢になったときに障がいのある子どもが自立できるのかという不安があると思います。
- ・ 大人になった時、生活がうまく行くだらうか？私が生きている時は良いけれど、先はどう

するか。

◆障がいのある子どもの進学や学校が終わった後の進路と、その選択について悩んでいる。

- ・一つに特別支援学校と地域の小学校のどちらに通わせるか、といった進路の問題があると思います。解決策としては、同じように障がい児をもつ親御さんや市、町、相談員等に相談して一緒に考えてもらったり、アドバイスをもらったりすることがあると思います。
- ・その子の将来（就学—支援級か支援学校か）。
- ・一般のお子さんと同じ、経験をさせてあげたい思い。
- ・特別支援学校を卒業した後の受け入れ先について不安があると思う。
- ・その子の将来を悩んでいる親が多いようです。重度障がいならば施設へ入るしか考えておられるでしょうし、軽度はせめてアルバイトでもさせたいと思っていても受けてくれる会社がありません。
- ・将来（高校卒業後から）への不安や就労について。
- ・子どもの将来（保育園、幼稚園、小学校）に対する見通しが立てにくい。
- ・作業所などに通っている方は、送迎や家での過ごし方など、就学や就労などに向けた進路などに悩んだりしていると思います。

◆親や家族が悩みごとや困りごとを抱え込んだままになっていることがある。気軽に相談できる場や機会の充実が求められている。

- ・気軽に相談出来る場所が少ない。
- ・身近に相談できる所がなく、ご家族で困ったことを抱えたままになっていることが多くあると思います。又、市や相談機関に相談に来る方はよいのですが、ご家族の方自身も配慮が必要等、理由があり、どこにも相談できずにいるご家族もいるように感じます。
- ・どこに相談したらよいのか。
- ・家庭内での自助努力が主となっており、なかなか社会資源を活用して生活の質を上げていけるご家族が少ないと思います。そのご家庭に応じた相談の継続やアウトリーチが必要と思われる。
- ・家族もどのようにしていいのかわからない。将来を考えてのサポートについて悩んでいる方も多いと思う。

◆福祉サービスや療育の利用について、よく知らなかったり、相談するところがわからず、悩んでいることがある。

- ・どのような療育へ行けばいいのか、どこにどうすればいいのか、基本的な部分から悩まれると思います。
- ・その子にどのような支援をすることができるのか（家庭内で）、どのような施設があり、どのようなサービスがあるのか、知る機会が少ない。障がいのある子を持った家族同士のつながりの持てる場面が少ない。
- ・受入れ施設が少ない。どこに相談してよいかわからない。
- ・障がい重いお子さんになるにつれ、サポートが必要な場面も増えてくるのではないかと考える。その際にどのような支援、サポートが受けられるのかわからない方も多いだろう。

取りついでくれる場所も知らない保護者もいるのでは。相談しやすい窓口を。

◆障がいのある子どもを預かってもらえるところが少ない。

- ・生活していく為には働かなくてはいけないのに、なかなか預かってもらえる場所がない。
- ・親が病気になった時に子どもの面倒を見てくれる場所がない。
- ・家族や兄弟等が、病気になった時等、障がいのある子ども達の（逆の場合も）預け先等がなかったりしているのではないかと思います。又、兄弟児の学校行事や習い事等の際、見てくれる人がいなかったりするのでは。

◆かわりが後回しになりがちなきょうだい児のことが心配だけれども、うまく対応していくことができないでいる。

- ・その子だけでなく、兄弟がいたりすると、親はどうしても兄弟にがまんさせないといけなかったりと、それを又、責任を感じたりと。何か行事ごとの時は、施設などで預かってもらったりして、兄弟と親の時間も取れる。
- ・その子中心に家族の生活が進むため、親や兄弟のストレス、疲れをどのように解消していくのか、大人になった時にどのように生活していくのか。一人一人に合った、支援計画を立て、保護者と話し、共にその子の将来を考えていく。
- ・しょうがいのある子がいることで他のきょうだいの行事等への参加ができない。
- ・自分の時間がとれないこと。障がいのある子に時間をとられることで、兄弟児に十分にかかわれないこと。
- ・本人の介護による疲れ。きょうだい児も障がいがある場合に負担が大きくなる。
- ・きょうだい児との関係性。
- ・きょうだい児への接し方。
- ・兄弟がいる場合、つい、比べてしまうなどの悩み。

◆病院受診や外出時、家族だけでは難しい。

- ・病院受診や外出時、家族だけでは難しい。
- ・外出等も連れていくのが大変だという家族。
- ・買い物など出掛けた時（出先）。

【生活が困窮する状態にある障がいのある人の世帯の様子をみていて感じる課題】

◆生活に困窮しているため、必要な利用したい福祉や医療などのサービスを利用できないでいる。

- ・入所先、受け入れ先があっても金銭面の問題で入れない。バリアフリー化や機具の購入、レンタルにもお金がかかり、あきらめざるを得ない。
- ・経済的に苦しいため、物理的な支援を十分に活用できていないこと。（例：子どもを就園させられない、交通費がなく療育に行けない、おもちゃが買えない）無料で利用できる、または低予算で利用できる支援の情報の提供、福祉サービスの活用。
- ・リハビリや看護が受けられない等の問題が起きる。金銭の負担を減らす。

- ・ 早期の病院受診を行わず、ぎりぎりまで我慢してしまっている。希望するサービスを受けることが難しい。無料で相談窓口の設置や減免の枠を拡大するなど。
- ・ 必要な物が購入できず、清潔が保てなかったりすると、感染の原因になったりする。必要備品は支給してもいいのかなと思うが。
- ・ 色々なサービスの負担額を無くしていき、無料で受けられるようにしてもらいたい。
- ・ デイサービスや教育（義務教育課程以降）を受けることの難しさ。他、適切な医療を受ける機会が得られにくくなる。
- ・ 有料施設に行けない（支援がある場面）。「お金がかかるなら」とためらう。
- ・ 生活を維持する為には、最低限の収入が必要だと思います。障がいがある人こそ、いろいろな場所に連れて行く必要があると思いますが、それにも費用が生じる為、断念する人もいるかと思います。
- ・ 低所得でもヘルパーの利用、病院でのリハビリ利用など、他の方と区別することなく、まず情報不足を感じます。つねに「お金がいるからできない」と思っている方が多いです。低所得の方は、インターネットは遠いです。市からの連絡が一番です。

◆周りに相談できる人やサポートしてくれる人がいなかったりすることで孤立してしまっていることがある。

- ・ 周りに相談できる人やサポートしてくれる人がいなかったりすることで孤立してしまっていることが大きな原因のように感じます。また、そのために、制度やサービスの知識もなく、そういったものをうまく活用できていない現状になっているように感じます。
- ・ 引きこもりがちになっている。行政、福祉就従事者が連携して支援していくこと。
- ・ 困っている人が困っているということ、支援を求められることができる人は良いが、言えないで困っている人。どの様に助けを求めたら良いのかわからない人。
- ・ 人とのかかわりが少ないように感じる。ソーシャルワーカーや地域の人達とで心の支えが持てるように支援し、向上心をもつことで、自信につながっていくと思う。
- ・ 孤立化。定期的に相談できる機会を設ける。

◆仕事に就く機会が限られている。本人はもとより、家族に障がいのある人がいることで、その支援や介護などのため、就労することが難しくなっている。

- ・ 仕事に就くことの難しさ。本人はもとより、家族に障害者をかかえていることで就職が難しい。よって、収入が低くなる。
- ・ 家族の場合、介助に追われ、働ける時間が短かったり少なかったり、限られてくるのではないか。
- ・ 介護に時間をとられる為、離職している。障がいを理由に希望する職につけていない。
- ・ 障がいのある人がいる事により、働く事ができないのであれば、障がいのある人を日中（もしくは夜間）サポートできる体制が必要なのでは。
- ・ 低所得であるために、保護者の方も働かなくてはならず、にもかかわらず、安心して預ける場所が少ない。母子家庭、父子家庭の場合は、誰かに見てもらうこともできない現状がある。解決策は難しい。

- ・ 親の仕事（職）を斡旋。
- ・ 障がいのため、働けず、低所得のままという悪循環。解決策は思いつきません。

◆障がいのある人の就労に対するモチベーションが下がってしまっていることがある。

- ・ 就労へのモチベーションが低くなる方もいるように思う。生保のみでは生活が苦しい方もいる。
- ・ 本人の意思は尊重しながらも、本人の状況にあった制度やサービスを案内。
- ・ 利用できる制度。仕事（就労）へのモチベーション。
- ・ 入所や通所で障がいのある方が働いて所得を得ても、施設利用料には到底届かない。ましてや飲み物や菓子等を買うには、家族の援助が必要不可欠となっている。工賃が安価すぎる。多い方でも週5日×4時間働いても、月收入8000円程度。障がいのある方にたいしても最低賃金が適用されてほしい。もしくは工賃のベースアップ

◆金銭管理が上手にできないことがある。金銭管理にかかわる支援の充実を図っていくことが大事だ。

- ・ 計画的なお金の管理を本人のみで行う難しさ。行政やセンター、相談員の介入、支援、アドバイスを受けやすい場作り。
- ・ 生活保護等の支援を受けても、お金の使い方がうまくできずにいる。（受給したらすぐ使ってしまう等）市が把握していたり、相談する方たちは、支援の方法があると思いますが、そうでない方はそのまた子どもにもそれがあたり前の生活で引きつがれていく連鎖になってしまう可能性あり。
- ・ 生活費や趣味など、生活保護のなかでやりくりを上手にできる方が少なく、金銭問題で困っている当事者は、どこに相談してよいかわかられてない方などもおり、問題であると考えました。解決としては、市役所や社協、施設等、相談しやすい環境をつくり、支援者側もしっかりと学んでおくべきだと考えました。
- ・ やはり障害年金を家族が管理されている方が多いので、低所得の方などは特に使い道が本人の自由にできない部分もあるのではと思います。
- ・ お金の管理や使い方などの支援も必要だと思います。
- ・ 金銭管理が苦手な方も多い印象。
- ・ お金の管理。

【障がいのある人や障がいのある子どもならびにその家族を支援する行政サービスについての課題】

◆行政サービスを知らない人たちがまだまだたくさんいるようだ。行政サービスについて、もっと工夫しながら、ていねいに知らせていくことが大事だ。

- ・ 行政サービスを知らない人が沢山いると思います。行政サービスをもっと知らせていくべきだと思います。
- ・ 行政サービス自体について、又、どのようなサービスがあるのかなど知識として入ってくる情報がない。

- ・ どのようなサービスが提供されているか具体的に分かっていないことや、一部のみにしかサービスが提供されていないことが問題だと思えます。
- ・ 在宅サービスやショートステイなどを使われていない方々もいると思うので、広報活動が大切だと思えます。住宅改修。
- ・ 行政サービスについて、どのような内容があり、どういった手続きをしていけば良いのかわからないという声をきいたことがあります。相談支援等があるので、サービスについて伝えたり、手続きをする場が増えるといいと思えます。
- ・ どのような行政サービスが太宰府市で受けられるのかわからないこと。また気づけない。少なくとも健常者である私達が普通に生活していても、障がいがある方がどんなサービスを受けられるのか情報が調べないとわからない。そのため、本来なら支援を受けられる条件を満たしているのに、行政サービスがあることを知らずに生活している方やその家族がいるかもしれない。病院、市内バス等に行政サービスの広告を置く。
- ・ 様々な制度が存在していても、あまり周知されていないし、実際に使っている人は少ない。今はネットの時代なので検索しやすく、また分かりやすく作成すべき。ただ高齢者のことを考えるとネットは△。回覧板や地域の公民館など身近な機関を通して情報を伝えていく。
- ・ サービスについての理解度が低い。ひるがえって行政サイドの広報啓発の強化が望まれます。(全て「行政責任」と考えている方も居ると感じるが)
- ・ 行政は、こちらから聞かないとおしえてくれない。

◆行政にすらつながっていない人たちがまだまだたくさんいるように思う。気軽に相談できる場や機会の充実を図っていくことが大事だ。

- ・ 行政にすらつながっていない方が多くいるように思います。
- ・ 制度には該当しそうな方でも、当てはまらずに受けられない方もいる。
- ・ 気軽に相談に行ける場所づくり(相談をしに外に出られる方は、支援できると考えられるので、相談することができない方、わからない方を把握するのが大変かと思われれます)。各施設と情報共有の会議等を設け、実態把握を行うことは大切かと感じます。外部と関われない方の把握、訪問等。
- ・ 必要としているサービスが、必要な時にうまく使えないという課題があると思えます。それは、制度上の問題や社会資源の不足といった原因もあると思うので、そういった点を解決していくことで、障がいのある人や子ども達がより豊かに生活できるのではないかと思います。
- ・ 家族だけになると状況が厳しくなればなる程、判断の余裕がなくなり、心理的にも極端な選択となる場合もあります。そのような時に第三者の相談機関の存在などは、非常に助かるシステムだと思えます。
- ・ はじめに障がいや病気にまつわる相談を持って来られるのが行政の窓口であり、そこにはさまざまな問題課題があり、その内容は今すぐに解決できない内容が多いと思えます。それに対応するには、時間がかかり、継続した支援が必要です。その人材の確保として、民間事業所との連携をもっと行う必要を感じます。
- ・ 利用がスムーズに利用できるよう、こまやかな対応(一人一人に合わせた)。

- ・ 家族の立場にたって、困りごとに耳を傾けきれていないのでは？

◆**支援やサービスごとに窓口が分かれているため、行政サービス自体がわかりにくいものとなっている。行政内部の横の連携も十分ではないと思う。**

- ・ サービスごとに窓口が分かれている為、行政サービス自体が解りにくいものとなっている。行政サービスを総合的に見てくれる担当部署があると良いと考える。（各課のつながり）
- ・ 福祉課だけが関わるのではなく、障がいのある人、子を取りまいてる家族自体を支えるしくみが足りていないと思う。保健センター、子育て支援課、学校教育課など、いろいろな課の連携が必要だと思う。
- ・ 行政機関の横同士のつながりが希薄。尋ねないと質問に答えてもらえず、情報提供を上手くしていくべきだ。
- ・ たらいまわし。

◆**保育や教育の機関、療育や障がい福祉サービスにかかわる事業所などが連携した支援をすすめていくことができるよう、連絡調整会議などを開催することが大事だ。**

- ・ 幼、保、児童発達センター、事業所の合同のネットワーク連携会議などを市主体で年に1回でも開催して、情報共有できたらと思う。
- ・ 各年齢に応じたサービスを受けることもあるけれど、それぞれ利用者が利用しているサービスごとのつながりが弱く感じる。特に、4市3町の方が利用している園では、市町ごとにやり方なども違うため、運営側がやりやすい方法ではなく、利用者家族が分かりやすくサービスを受けられるようになるといい。

◆**障がい福祉サービスや療育の機会、相談支援などがまだまだ少ない。**

- ・ 事業所が少ない。相設支援事業所の不足。
- ・ 受入施設が少ない。支援員の給付を見直し、支援員（保育士）が増えることも必要。
- ・ もっとヘルパー利用や、公共の施設（障害があっても気軽に利用できるようなもの）が増えると嬉しいのではないかと。例えば、買い物の手伝いなどがあると助かるのかもしれない。
- ・ 充実しているとは言えない。障害者が利用しやすいサービスが必要と思う。
- ・ 療育手帳の取得に至らないが、対人面など困り感を抱えるグレーゾーンの子どものための支援。特別支援学校、学級相当ではないが、通常学級では対応が難しい場合の受け入れる場所が少ないこと。

◆**移動のための支援は社会参加等の意味合いからも大切なサービスだが、まだまだ不足していると思う。移動支援の充実を図っていくことが求められている。**

- ・ 移動支援を利用して、他に出る機会が大切だと考えます。しかし、受ける事業所が少ない。（受ける事が出来ない）利用単価が低すぎて、受けると赤字になる。
- ・ 障がいのある人や子どもの場合、移動が困難なことが多いが、そのためのサービスが使いづらいし、量的にも十分でないと感じる。移動支援のヘルパーの育成。車で送迎できる事業者を増やす。
- ・ 移動支援の充実は大切なことだと思います。私たちの現場では、学校から放デイとの行き

帰りが基本のため、ご都合に合わせることは不可能です。その部分が改善されればと思います。

◆**行政の手続きが煩雑であったり、時間がかかりすぎではないかと思えることがある。**

- ・ 手続きに時間や手間がかかり、もう少し早くできないのかなと思います。
- ・ 何かが起きてからの行動、対応したいが順序があるもどかしさがあるかと思いますが、訴えに対しての早めの対応を希望したいと思います。
- ・ 手続きがいろいろ大変なこと。時間がかかること。行政サービスについてあまり知らないようなイメージがある。
- ・ 事務手続きの煩雑さ、仕組みの分かりづらさ。解決策は思いつきません。
- ・ 行政サービスがわかりにくいとよく聞きます。専門用語で書かれていて、意味がわからない。書類の書き方、見本がないため、どのように書いたらいいかわからないなど。手続きが必要なことは、その障がい者、児が通っている事業所等で手続きのレクチャーが受けられるとよいと思います。

【**障がいのある人や障がいのある子ならびにその家族を取り巻く地域の様子をみていて感じる課題**】

◆**地域では、障がいのある人への偏見がまだまだ根強く、障がいに対する理解や知識のなさから、不適切な態度や言動となってしまうことがある。**

- ・ 地域の方々の障がいのある子どもや家族に対する理解のなさから、不適切な対応をされる場合があること。子どもには様々な特性があり、全ての子どもに対して多様な関わり方を考える必要があることを広く知ってもらおう。
- ・ 地域にもよりますが、差別している様子は多々見られます。
- ・ 障がい者をよく知らないためにおこる偏見と差別が地域によってみられる。啓発活動をすすめていき、理解につなげる。
- ・ 周囲の人に理解してもらおうことが難しい。
- ・ 障がいについての知識もないので、どう接していけばよいのか等、分からないのではないかと思います。学校等で学ぶ時間を取り入れたり、市政だより等で障がいについて知る事ができたらよいのでは。
- ・ 公共の施設での偏見の目、保育所、幼稚園でのトラブル、近所の方への理解など。まずは知ってもらうことが大切。もっとそういう人達に触れ合う機会、“知る”ことが大切になってくる。
- ・ 障がい者が、身内や近くにいない場合、障がい者に対しての向き合い方がわからない。
- ・ 以前に比べれば、随分理解されるようになっているが、まだ解らない人もいる。障がいのある人と接する機会もないと難しいと思うので、学校や地域いろいろな場で機会を作っていけばいいと思う。
- ・ 意外と障害のある人や子供がいても、地域の人達はその子供をただかわいそうにしか見ておらず、同情心だけで障害のある人の気持ちに立って考えたり、その家族の人達を理解し

よとする気持ちが少ないような気がする。解決策は、健常者と一緒に行事や祭り等に参加する企画を作り、お互いの理解を求める事が大切なように思う。

- ・ まだまだ理解が無いと思います。特に見た目ではわからない知的障がいの方（子ども）は接してみて初めて知るので、地域にどういった障がいを持ってある方がいるのかを知ってもらう必要があると思います。そしてあたたかく見守ってほしいです。
- ・ 障がいのある人達への偏見が根強くあるように思います。それは、日頃からのニュースや思い込みからくるイメージができあがってしまっているからではないかと思います。地域全体で障がいのある皆さん一人一人を理解し、共生できるような仕組みづくりが必要だと思います。

◆障がいのある人たちのことが、地域でのかかわりのなかで、うまく認知されていないところがある。交流できる場や機会があるといいのではないだろうか。

- ・ 子どもにとっては、特別支援学校など発達に応じた教育が必要と思うけれど、地域の中でのその子の存在が、どのように認知されていくのか。解決策としては、子ども会や町内会などがつながっていきるといいのではと思う。
- ・ 健常者側から見た障害者の情報がとても偏っている印象。なので、もっと交流する場を作って、色々な目線の障害者の方の情報を見せてあげてほしい。
- ・ 障がいのある方々と触れ合う機会がないと思います。
- ・ 独居生活をされている障がいのある方々。地域の住民も解っていても何をしたらよいかかわらないと思うので、地域住民の話し合いの場をもうける。
- ・ 障がいのある方と地域のかかわりをもっと多く、話し合いを多く取るといいのかなぁと思います。
- ・ 広く社会の中に障がい者の方々の事を考えてもらう機会。催しを開催する。
- ・ 障がいに対する理解。学校や学生さんとの交流の場はありますが、イベント等で関わりをもったり知ってもらう場面が増えるといいと思います。

◆障がいのある人やその家族と地域の人たちとのかかわりが希薄になってしまって、地域から孤立しがちになっている。

- ・ 孤立している方が多いように思う。
- ・ 孤立しているように感じる。民生委員の方や地域の方達など関わっていただけるといいと思う。
- ・ 積極的に地域に出ていく家族も少ないが、今よりも気がねなく地域の中で過ごせるような取り組みが必要だと考える。
- ・ 地域の方の中には、障がい者支援に関わられている方もたくさんいらっしゃいます。しかし、そのことが表には出ずにいることも多く、地域での理解者がたくさんいることがわかると、そのご家族も生活しやすくなると思います。
- ・ 家族のみで抱えてしまうことも多く、周囲へ相談できにくい。
- ・ 身近にその本人や家族を支える（話し相手）が存在することが大切だと思います。地域のなかで、活動されている民生委員や行政が、民間の事業所との連携（顔見知り）により支える地域づくりを掲げることが必要と感じます。

- ・ 地域だけでなく、家族の中でも理解を得られていない家庭もあるだろう。地域から孤立しないような支援体制を整える。
- ・ 本人もまたその家族も、もしかしたら生活のしづらさや不安などを抱えているかもしれない。それは、障がいのある、ないに関係ないが、障がいがあるとやはりないよりもそういった機会に出くわしたり等あると思う。地域みんなで子どもを育てる、見守ることが改めて見直されることが必要だと考える。

◆障がいのある人のことを以前から知っていることもあって、近所や近所の人たちから声かけがよくみられるところもある。

- ・ 幼い頃の様子をよくご存じの方が多く、「元気にしてありますか」という声を多く聞きます。皆さん気づかっておられることと思います。
- ・ 地域の方の多くは、協力をしようというお気持ちの方も多くいらっしゃいますし、サービスの現場でも民生委員の方、自治会の方、隣近所の方の温かい目で見守られているところが多々あります。「個人情報」の取扱いの観点から、慎重にならざるを得ないところもあります。

【災害時、障がいのある人や障がいのある子どもに対する支援活動を実施するため地域社会での取り組みについての課題】

◆日頃からの声かけや見守り、交流の機会をもつことなどで、かかわりを深め、知り合っておくことが大事だ。

- ・ 日常的に地域で声をかけあう。
- ・ 声かけや地域の中でのつながり。
- ・ 協力、連携し合える関係づくりが日頃から大切だと思います。
- ・ 地域の方が（評議員の方など）支援して頂ければと思いますが、その前にふれあう機会を多くもつことが大切かと思っています。
- ・ まず、インフォーマルな部分としては、地域住民とのつながりだと思います。地域の方々にその方を知ってもらい、理解してもらい、普段から交流があることで、いざ災害が起こった時に自然な手助けや避難ができると思います。
- ・ 自分の地域の中に、障がいのある方がいらっしゃるのか把握し、また日頃からコミュニケーションを密にとれるような触れ合いの場をつくり、顔見知りになるといいかなと思う。
- ・ 地域住民一人ひとりが同じ地域に住んでいる障がいのある人のことを知るために交流の場や機会を設けることが大切だと思います。
- ・ 日ごろから障がいのある人の特性を知る機会をもうけておくこと。
- ・ 障害者、児本人が地域の人と関わりを持てるよう、日頃から各種行事やイベントなどに地域全体で積極的に参加し、関係をつくってもらう。
- ・ いざという時に協力してもらえる体制を普段から整えておくことが必要だと考える。児童委員や民生委員さんを中心に関わりを持っておくような取り組みがあれば良いと考える。
- ・

◆避難行動の支援が必要な障がいのある人たちが所在を把握しておくことが大事だ。

- ・ 自分達の住んでいる地域にどのような方がいらっしゃるのかが分かりません。家族の方も知られたくないのではないかと思います。地域の中で中心になって動く事のできる方（区長さん民生委員さん等）に何処に障がいのある方がいるのかを把握できるような仕組みがあればよいのかなと思います。
- ・ 障がいのある人がどこに住んでいるのか、誰と住んでいるのか、把握しておく。
- ・ 地域で名簿が必要だと思います。
- ・ 近所の方みんなにというのは難しいかもしれないが、民生委員、児童委員の方等に知ってもらっておくと、避難する時や避難先で少し助かることも多いかも。（要支援等の名簿だけでなく、具体的な支援方法等）障がいがある方の避難場所を現状よりいくつか増やす。
- ・ 地域で障がいのある人の住所、どのような障害かを理解して、どういう支援が必要かの把握が必要だと思う。
- ・ 障がいをもった人がどこにいるか、何人いるかを把握しておく方が良いのでは？
- ・ 地域内の連携、協力。民生委員さん等が障害者のいる世帯状況を把握する。
- ・ その地域において、障がいをもたれている方々を把握するための名簿等があれば、避難の確認ができるのではないかと思います。
- ・ 地域で障がいのある人を把握したいと思いますが、守秘義務があり、むずかしいのではと思う。

◆障がいのある人の避難行動支援の方法や役割分担を確認しておくことが大事だ。

- ・ 地域の障がい者の確認。担当者、声かけする人を決める（組長、行政職員等）。
- ・ 災害時マップ等で地図などに障がいのある人がいる所の家にチェックをつけたり一覧を作っておき、避難経路について検討、考えることが大切だと思います。
- ・ 町内会でどこの誰が障害をもっていて、どの程度動けるのかを把握できるマップなどをつくる。車イスでも動きやすい避難経路の確保。
- ・ 各自治会や公民館、小中学校では、災害マップなどを作成している所が多く、一人ぐらしの高齢者は把握されていることがあるが、障害のある方は把握されていないので、民生委員などを中心に地域で確認しておく。もしもの時の支援について相談しておく。
- ・ 障がいのある方々や、その御家族と、災害が起こった際についての話し合いの場を設ける。
- ・ 町内会などでの災害対策マップや避難のシュミレーションの取りくみが大事ではないか。
- ・ 事前に災害用マニュアルを準備し、予行演習をする。
- ・ 分担化して、日常よりコミュニケーションを取る事では。
- ・ 想定できる限りのことを考え、ある程度はマニュアルが必要だと思います。
- ・ 行政区の同じ班のご近所の方に障がいのある人が家族にいるという事を知って頂く。いざという時に援助してもらえよう、行政から呼びかけてもらう。

◆避難経路や避難場所を確認し、また、避難行動に慣れておくため避難訓練を定期的実施することが大事だ。

- ・ 避難場所に日頃から慣れておくこと。建物の様子を見て、どこに物資がきてどこに寝るの

かなど、支援者側がある程度の行動の予測を立てておく。絵や写真などを使ってすぐ分かるように提示しながら避難場所まで誘導する練習をする。

- ・ 施設が避難するだろう場所にあらかじめその周辺の方々との訓練をしていくのはどうか。訓練の場で“知る”ことにつながっていけると良い。
- ・ 避難をする時、環境の変化に上手く対応できない子供や成人の方は、パニックになるかもしれないので、避難所までの移動する訓練があってもいいと思います。
- ・ 地域の避難訓練に障がいのある方や子ども、そしてご家族の参加の機会を持っていただく。障がいをお持ちの方には、災害時等の状況に適応が難しい方もいらっしゃいますので、平時より地域の方には、知っていただくことも大切かと思えます。(個人情報への配慮しつつ)
- ・ 障がいのある人やその家族に自覚してもらい、普段から災害時に備えてもらう。ただこれはなかなか難しいと思うので、特別支援学校や障害児、者施設等でも定期的に訓練し、地域でも呼びかけを行い意識づける。
- ・ 災害時の訓練必要（地域を含めて）。地域の協力も必要だと思う。地域の方と連携をしっかりとっておく必要がある。
- ・ 行政を中心に（始め）、地域社会で消防団のような、災害時の避難誘導員（仮名）などの組織をつくり定期的な訓練（その際、家族持ちの人はどうするかも決める）。
- ・ 普段から防災用具、食糧の備蓄を万全にし、避難経路を確保。災害（震度5・6・7）を想定した避難訓練。

◆福祉避難所をはじめ、障がいのある人や障がいのある子どもに配慮できる避難所の確保や環境づくりのための方法の検討をすすめておくことが大事だ。

- ・ あらかじめ、障がいのある子、人たちの避難場所も確保しておく。たとえば、一般の企業の保養所、体育館あるいは協力してくれるような場所をつのっておくなど。早急に対応してもらいたい。
- ・ 避難場所では対人面が苦手な方が多いように感じるため、仕切りや小部屋の確保といった、障がいのある方が落ち着けるような方法を考えていくことも大切かと思えます。
- ・ 避難所での生活はきびしいと思うので、専用の避難場所の設置が必要（熊本で実際に困ったという話をお聞きしました）。
- ・ そのとりくみを行政がしっかり考え、対応マニュアルを作っておくことが大切。なってからではなく、なる前にうごいてほしい。集団の場が苦手な子のための環境設定や食事（偏食の子）の対応など、どんな子がいるのかを知っておくことが大切だと思えます。
- ・ 小規模な避難所の設定。

【障がいのある人や障がいのある子の虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題】

◆家族介護者が悩みや困りごとを気軽に語り合いながら交流できる場や機会、孤立感を軽減できるよう相談支援や訪問支援などを充実させていくことが大事だ。

- ・ 介助者同士が集まって、情報交換や傾聴による心理的、精神的負担を軽減するためのピア

カブニアリングサークルを実施（民間、行政）。

- ・ 障がいのある方々の集まりを開催し、悩みを話せる場を作る。そして、御家族もふくめた支援を考える。
- ・ 個人ではなく、家族との交流の機会を増やし支援する。
- ・ 介護をする人、主に世話や子育てをする人の相談できる場所や休けいをとれるような時間を作っていく。
- ・ 親から子への虐待の場合は、障がい児、者の子をかかえる親にとっては大変なことや悩みも多いと思うので、まわりへの相談や協力しやすい環境作りが必要だと思う。
- ・ 虐待は家庭内、施設内、様々な所でおこり得る可能性があると思う。いつ起こってもおかしくない状況の中、家族が孤立せず相談できるまたは訪問などの実施。
- ・ 家族もしくは親を孤立化させないこと。
- ・ 保護者も孤立しやすいので、支えが必要。
- ・ 普段からの声かけや家族以外でも関わることのできる事業所を確保することで負担が大きくなるような協力、相談体制を整えることが大切だと考える。
- ・ 家族や支援員の負担が過度にならない為の配慮。
- ・ 養護者に対するケアや負担軽減にも地域社会は取り組みが必要だと思う。

◆障がいのことや障がいのある人に対する虐待のことについて、地域で学ぶ場や機会を充実させていくことが大切だ。

- ・ 虐待防止法についての勉強会、講義を市や社協で行う。
- ・ 障がいそのものに対する理解を深めるため、研修等を充実させる。
- ・ どんな障がいがあるのかを知ってもらい、少しずつ理解してもらえよう地域で勉強して頂きたい。
- ・ 各々の障がい理解を少しずつ広めていくこと（子ども～高齢者まで）。地域、地区での催し物、行事、おまつり等の企画など。
- ・ 障がい名や症状など一人でも多く障がいについて知ってもらうための講義、講演が増えるとういのではないかと思います。
- ・ 啓発活動（虐待防止法の存在を知らない人が多い）。地域内の連携、協力（特に家族は悩んでいると思うため、声かけ励まし等が必要）。
- ・ 障がい児、者に対する理解をもっと深めるべきだと思う。小さい頃から理解してもらう環境作りが必要だと思う。小学生くらいから、障がい者の方々と接する機会をつくる。
- ・ 偏見を持たず生活が出来る環境作りが大切だと思います。小学校や中学校、高校での教育も大切。

◆地域で声をかけ合えるような関係を築き、障がいのある人たちのことを気に留めながら、見守っていくことが大切だ。

- ・ 困った時に相談できる相手がいったり、地域にどんな人が住んでいるか日頃から知っておくことや声をかけ合えるような関係、ネットワークづくりが大切だと思います。
- ・ 地域の中に障がいのある人、子どもがいることを知り、常にコミュニケーションをとれる

様な環境づくりをしていく。

- ・ 自分達の住んでいる地域にどのような方がいらっしゃるのかが分かりません。家族の方も知られたくないのではないかと思います。地域の中で中心になって動く事のできる方（区長さん民生委員さん等）に何処に障がいのある方がいるのかを把握できるような仕組みがあればよいのかなと思います。
- ・ どの家にどの様な障がいの方がいるか近隣の人に分かってもらい、周りで様子を見る。
- ・ 地域からの目が行き届くよう、なるべく自治会や隣組内での要支援の障害者の情報を共有する。

◆虐待のことに気がいたら速やかに専門機関に通報することが大事だ。

- ・ 障がいがある無しにかかわらず、虐待は周りの人、気付いた人の通報が一番だと思う。通報があった場合は行政がすぐ動くのが良いと思います。
- ・ 虐待の疑われるケースの通報がしやすい環境作り。通報場所、方法の拡充。
- ・ 「虐待かも？」と気づいた時に、周囲の人が連絡できるように連絡先を明確にしておく。
- ・ 気づいた時、すぐに知らせられる体制、関係づくり（窓口を知らせる）。
- ・ 「通報の義務」があることが地域社会に定着していくことで虐待の未然防止につながっていくと思います。
- ・ 近隣同士で普段からコミュニケーションをとり、当事者が普段と違いがあれば、民生委員や保健所等に連絡すべきだ考えました。
- ・ 病院を受診した時、施設に通所してきた時、変化があるようであれば、介入すべきだと考えました。

◆虐待の早期発見や見守りをすすめていくために、関係機関と地域が連携を図っていくことが大事だ。

- ・ 早期発見や見守りができやすい仕組みをつくるため、関係機関と地域が連携しやすい態勢づくりが大切なのではないかと思います。
- ・ 色々な情報の共有化（行政も地域も）。
- ・ 虐待リスクのある家族を気にかけて、声かけしたり福祉や教育など関係機関と情報共有して孤立させないようにする。

◆障がい福祉サービスの施設や事業所内での虐待を防止していくため、地域に開かれた運営を行っていくとともに、関係する研修をしっかりとやっていくことが大事だ。

- ・ 施設内においては、施設内だけのかたまった価値にとらわれないような風通しや、職員の研修（ふり返し）などの実施など。
- ・ 虐待とは何かを知ることが大切だと思います。そのためには、知る機会（研修など）をつくり、関係者が基準を知ることからでしょう。

【障がいのある人や障がいのある子の交流の機会や社会参加を促すための地域社会での取り組みについての課題】

◆地域全体で取り組む行事や、交流の場などでは、障がいのある人や障がいのある子どもでも参加しやすいものになるよう配慮していくことが大切だ。

- ・ 地域全体で取り組む行事の際、障がいのある人や子どもさんが参加しやすいよう配慮する（夏まつり会場の段差に配慮など）。
- ・ 地域のイベント等では、障がいをもつ人が楽しめるよう、合理的配慮を行う。（段差をへらす、コミュニケーションの支援）
- ・ 障がいを持っている方でも気軽に参加できるような取り組み。（例えば、車イス、視覚障害、聴覚障害の方への配慮）
- ・ 限定的なものではなく地域のお祭りや集まりに参加してもらう機会を増やす。
- ・ 子供から老人まですべての人が参加できる様なイベント等の企画が必要。色々な人が参加出来る場。
- ・ 障がいのある人が「自分も参加していいのかな」と悩むのではなく「これなら参加できる」と思わせるような交流会を考えなければいけないと考えます。例えば車イスの方なら、バリアフリーなのか、身障トイレは近くにあるのかなど障がいのある人が心配しそうなことを考え計画する必要があると思います。
- ・ 参加しやすい場所の設定や施設等を通してお知らせをしていき、支援者と一緒に交流ができるようにすると参加しやすいと思います。
- ・ 障害児者がもっと社会参加したい、また交流したいと考えている時、移動支援のサービスをもっと使えるようになっていくことが大切と思う。制度の見直しが必要と思う。

◆障がいのある人たちが地域での活動や行事に積極的に参加したり、自分たちが活躍できる場を地域で求めていくことが大切だ。

- ・ 地域で行われる行事に積極的に参加することが大切だと考えました。
- ・ 地域活動に積極的にさそいかける。
- ・ 高齢者のためのサロンや、企画を公民館などでする地域もふえているが、そのような場に参加できる人は(ボランティアとして、お茶を入れることができるならば、その手伝いで)、参加されるよう声をかける、など。
- ・ 地域で行うおまつりやバザーなど、毎年の行事として、障がいのある人が自分の得意な活動を披露できる場をつくる。
- ・ 地域の運動会や、地域のおまつりなど、人が集まる場での出店や、出しものの披露などで、存在を知ってもらうような取り組み。
- ・ 地域に障がいがある人、子どもの存在を知ってもらい、普通に行事に参加してもらうようにしていく。
- ・ 作業所のパンの販売や、公民館の文化祭のダンスなどは、いちばん交流がしやすいのではないか。
- ・ 施設としては、販売ができる商品を作っているので地元や、地区別のイベントに参加し販

売の場の提供をお願いします。身近で行っていることは、地元での夏祭り、販売促進や、日帰り旅行等を行い障害者の方への理解を深めています。

- ・ 障がい者、児のサッカー教室、野球教室など行ってもらえると良いと思います。障がいがあるとスポーツがしたくても普通の教室へは通えません。地域だからこそ参加しやすいと思います。
- ・ 施設ではボランティアさんに来て頂いて交流することがあっても、施設側からどこかに伺って地域の方々とふれあう機会はほとんどないので、そのような場所機会があれば利用者の方々に、何より喜ばれるのではないかと思います。

◆学校での交流の機会が増えれば、障がいや障がいのある人のことを学ぶ機会になり、充実させていくことであればいいのではないだろうか。

- ・ 学校などを通して、支援学校や施設との交流の機会を増やす。
- ・ 現在行われている地域の小学校等との交流会はとても意義のある活動だと思います。今後も施設と社会との垣根をなくしていけるようなさまざまな取り組みと継続が大切になると思います。
- ・ 地域の小学校や支援学校への交換交流など。
- ・ 学校や職場で行事として触れ合う、交流の機会をつくるなど。
- ・ 小中学校のなかにもっと知る機会をつくる必要を感じます。教育現場（教員）との連携がいろいろな場面で必要かと思います。
- ・ 幼稚園、保育園又は地域の小学校とコラボした取り組みができればいいとは常々思っています（実現は難しい）。
- ・ 障がいのある方々と触れ合う機会がないと思います。又、障がいについての知識もないので、どう接していけばよいのか等、分からないのではないかと思います。学校等で学ぶ時間を取り入れたり、市政だより等で障がいについて知る事ができたらよいのでは。
- ・ 保育園、幼稚園との交流は行っているが受け入れ、頻度は少ない。発達障がいのお子さんも増え、地域の小学校に行くお子さんも増えている現状がある。住んでいる市町村のお子さんと触れ合えるような交流の場の必要性を感じる。
- ・ 同じくらいの子どもたちは、小さいうちから関わることでお互いに関係づくりや優しさを学ぶことと思います。大きな声を出したりすることも最初はびっくりするかもしれませんが、理解してもらえると、何でこうなるのかとわかるはずです。大人になってからよりも幼いうちからと思います。

◆障がいのある人たちの集まりや障がい福祉サービスの施設や事業所が開催する行事などに地域の人たちなどが参加する機会をつくっていくことが大切だ。

- ・ 障がいのある方々の集まりなどに地域住民が参加する。
- ・ 私が勤めている障害者支援施設●●園では、地域との交流をかねて「●●園まつり」を11月に予定している。このような健常者、障がい者が互いに楽しめる場をもっと作ることが大切だと思う。
- ・ 障害者施設の文化祭やボランティアへの参加の呼びかけ。

- ・ イベント（祭りなど）を開催し、交流できるようにする。地域社会では積極的にボランティアの方々が施設に行き、交流会やレクリエーションなどを計画し、一緒に楽しめるような機会をつくる。
- ・ 長期休暇にボランティアを募り、障害のある子どもたちのスクールを実施する。キャンプでも可。楽しみながら、障がいについても理解し、自分も誰かの役に立っているという気持ちにもなると good！
- ・ 障がい児、者に対する地域社会の理解度を上げれば、社会参加しやすくなると思う。障がい児、者の施設などに直接行ってみると良いと思う。（直接話をしてもらう）
- ・ 健常者の人達に障がい者の色々な場面を見てもらって理解を高める事が必要だと思えます。

4. 生活困窮者支援分野

【高齢者層の低所得などによる生活困窮者の様子をみていて感じる課題】

- ・ 年金受給資格がない、または少額であるため、仕事を探しても働ける場所がない。または、短時間勤務等で収入が少ない。子どもと同居しているが親の年金で生活をしている。昔みたいに子が親をみる事が少なくなっている。親は子供に迷惑をかけたくない。子どもたちも自分たちの生活がやっとであり、援助ができない。子供に対する就労支援が必要である。高齢者（働ける人、意思のある人）の就労できる場所が必要である。
- ・ 年金の受給額が少ない又は無い方が、親族がいない又は疎遠のため、援助を受けることができず、困窮している状況だと思います。無年金、低額年金は年金保険料の未払いのため基礎年金だけでは生活は困難と思うので援助は必要だと思います。解決策として考えることは、社会の中で支えあう仕組みを検討する必要があるのではないかと思います。
- ・ 福祉制度や困窮者支援に関する情報にリーチできていない。無年金、年金の裁定請求手続きが理解できていない。借金の管理や整理ができていない。地域社会から孤立している。親族等との関係が希薄である。傷病、障害を抱えているが十分な治療等が受けられていない。
- ・ 社協の貸付相談においては、高齢者の困窮相談は比較的少ない。年金収入等の少なさに加え、医療費などの突発的な支出に対応できず困窮に陥る。収入増のために働く意欲はあっても、年齢的に就労の機会が少ない。困窮者の状況に応じたきめ細かな就労支援等が必要。

【壮若年者層の低所得などによる生活困窮者の様子をみていて感じる課題】

- ・ 非正規社員で働いている人が多く、収入が少ない。福利厚生もない現状で、日常の生活が精いっぱい、預金をする余裕もない状況である。コミュニケーション能力の問題から、人に接することが苦手であるため、転々と職をかえている。小学校の時から、いろんな仕事があることを教え、興味を持たせることが必要なのではないかと思う。学生時代にキャ

リア支援、キャリア教育が必要だと思う。

- ・ リストラによる離職者が多い反面、会社とのトラブルにより自己都合で退職したという例もあります。仕事は適正もあると思うのでただ仕事を紹介しただけでは長続きはしないので、就職後のフォローが必要と思います。
- ・ 自立できるほどの職に就けていない。世間または自身に対し、諦めがある。犯罪歴を繰り返す例もある。親の介護等で十分に働くことができない。地域社会から孤立している。親族等との関係が希薄である、または関係が悪い。傷病、障害を抱えているが十分な治療等が受けられていない。
- ・ 社協の貸付相談においては、壮若年層の困窮相談は多く、内容としては就労関係である。派遣・日雇い等の非正規雇用により、収入が不安定である。背景として、家庭の困窮状態が連鎖しているケースもあると思われる。就労や雇用の安定化による生活基盤の立て直しが図れるような支援が必要。職業訓練等による専門的技術の習得や、生活基盤を安定化させるためのアドバイスを受けられるようなサポートが必要。
- ・ 生活保護受給者・生活困窮者は 20～30 代ではビジネスマナーや漢字の読み等ができておらず、低賃金で不安定な仕事につかざるを得ない場合がある。どの就労先でもパソコンが必須となっているが、40～50 代はパソコンを使用できない。そのためビジネスマナー等を教える就労準備講座の開設及びパソコン講座の開設が必要である。

【ひとり親家庭の低所得などによる生活困窮者の様子をみていて感じる課題】

- ・ 女性一人で子供を育てていくには、小さい子供であれば、預けるところの確保ができなければ、フルタイムでの就労ができない。精神面でのケアも必要であると考えます。福岡県ひとり親家庭等就業・自立支援センターでの相談者が少ないと聞きました。
- ・ 母子家庭の生活保護費は母子加算があるうえに子どもにも教育費が支給され、最低生活費が高めに設定されています。そのため、母親がフルタイムで働いても保護から脱却できない状況です。ということは、保護を受給していない母子家庭はさらに困窮しているのかもしれない。また、保育所に預けられなく仕事ができないという方もいますので、子育て支援の充実は不可欠だと思います。
- ・ 親の生育歴が影響して、困窮の連鎖が生じているケースがある。育児と仕事の両立が大変難しい。養育費を受けとれていない。親族等との関係が希薄である、または関係が悪い。
- ・ 社協の貸付相談においては、ひとり親家庭の困窮相談は多く、内容としては就労、就学資金関係である。非正規雇用等により収入が少なく、仕事を増やそうにも子育てとのバランスが取れず、生活基盤が不安定である。子どもの進学に備えられないなど、困窮が連鎖するリスクがある。時短勤務などの企業側のサポートが必要であり、ひとり親家庭への理解が強く求められる。子どもの進学については、相談体制の強化や学校等との連携による支援が必要。理想的には、子どもの進学に対しての返還不要の奨学金制度の創設なども必要。
- ・ ひとり親家庭は離婚相手に養育費を請求しなければならないが、離婚原因がDV等で請求していないケースが多々ある。そのため市役所でも無料法律相談等の活用を積極的に宣伝し、養育費の獲得をさせなければならない。

- ・ ひとり親家庭で育った子どもの貧困（貧困の連鎖）。

【低所得などによる生活困窮者を支援する行政サービスについての課題】

- ・ 行政サービスについて、周知ができていないことで、相談に行くところがわからないなど、早い段階での支援が受けられていない。
- ・ セクションごとに相談窓口を持っており、横の連携ができていないので、困りごとを共有できる窓口があればと思います。
- ・ 困窮者に対し、眼前の困窮状態の一時的解消と、持続的な解消の双方を実現することが理想だが、まずは前者に注力せざるを得ない。中長期的なフォロー体制の検討。困窮者を福祉の分野でのみ捉えがちか。産業や地域づくり等、多角的に捉えて、横断的に支援する体制の検討。
- ・ 雇用保険支給までの待機期間が長いこと（自己都合退職は3か月後から支給）。生活保護の申請から給付開始までの間をつなぐことが難しい。自己都合退職の場合にも雇用保険支給までの期間を短くするなど救済措置が必要。手持ちの現金がなく、食料もない場合、フードバンク等による必要最低限の食事の確保などがあれば望ましい。
- ・ 経済的な支援を受けていて、就労する意欲を失う人がいる。継続的な就労指導、支援が必要。
- ・ 生活困窮世帯（生活保護以外）への制度は現在住宅確保給付金しかなく、それ以外の費用は社協の貸付金か、預貯金を切り崩しての生活となっており、就労再開しても数か月は安定した生活を遅れているとは言えない現状がある。また住宅確保給付金にも期間制限があり、安定した就労先への就職する機会を逃す。他の自治体のように生活保護を受ける前の予防策として給付金項目の増加が急務である。
- ・ 総合支援資金、緊急小口資金は生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の利用が貸付の要件になっているが、借入れができない人がいる状況であり、貸付なので返済能力がないといけないことはわかるが、離職している人がほとんどであり、生活が成り立たなく、自立支援だけでは厳しいと感じている。
- ・ お金を支給するだけでなく、お金のやりくり等の指導も必要かと思います。

【低所得などによる生活困窮者を取り巻く地域の様子をみていて感じる課題】

- ・ 困窮者もそれ以外の地域の人も、大部分は互いに無関心ではないか。または見て見ぬふり。地域全体のつながりが希薄化しており、困窮者の存在や実情に気づきにくい。
- ・ 自治会をはじめ、民生委員、福祉委員等の活動からの情報把握に努めているが、本人が周囲に知られたくない、また周囲も聞きにくいことなどから、具体的な情報が少ないのが実情である。生活に困窮していても周りに頼れる人がいない、相談できる人がいない（親族との関係が悪い、近所に知人がいないなど）。相談窓口の周知による各種制度の案内や、関係機関との連携などが必要と思われる。

【低所得などによる生活困窮者を支援していくための行政や社会福祉協議会での取り組みについての課題】

- ・ アウトリーチできる体制になっていないこと。
- ・ サービスや支援の情報提供。ネットワークの活用。役所内、社協とのスムーズな連携体制の構築。
- ・ 生活困窮状態に陥ったきっかけが何かによって支援の方法は変わってくると思いますが、困窮者に寄り添いその人にあった支援が必要だと思えます。
- ・ 行政と社会福祉協議会それぞれが役割分担を明確にしながら、緊密に連携し情報交換していくことが必要。相談サポート体制の確立などが必要。生活保護、貸付制度などそれぞれの情報をお互いに把握するため、情報交換、共有などが必要。困窮に陥った段階で初めて相談に来る方が多いため、早い段階で対応できるよう相談窓口の周知等が必要。
- ・ 少額でも就労可能な場合には就労指導する。
- ・ 社会福祉協議会の生活福祉資金の貸付には保証人が必要なものが多い。しかし生活保護受給者及び生活困窮者等は親族、友人等が保証人になってくれないケースもあるため、制度を利用できず一時的に金銭がなく水道、電気の停止や食料が底を尽きることが多々ある。
- ・ 生活保護・生活困窮者に相談に来る人で、その日の食料がない状態での相談がある。通常生活保護等の申請後3週間程度の日数がかかり、社会福祉協議会の生活福祉資金の貸付でも支給に最低1週間程度かかる。生命の維持のために緊急的・臨時的に支給できる食料が必要。
- ・ 各種制度、サービス等の周知。

【低所得などによる生活困窮者を支援していくための地域社会での取り組みについての課題】

- ・ 隣組での関係改善の取り組みを地域主導で行っていただきたい。地域の行事への参加要請を地道に行っていく。
- ・ 近所の方や民生委員などの見守りや声掛けにより早期に困窮状態であることを把握し、いつでも相談できる関係を築いていける地域社会になればと思います。
- ・ 自治会をはじめ民生委員や福祉委員など、地域での緊密な福祉ネットワークの構築により、きめ細かな見守りが大切。
- ・ 行政、社会福祉協議会、ハローワーク等の情報交換や連携、複数の機関の協力による多面的な支援、制度の周知などを積極的に行うことが大切。

**太宰府市の地域福祉に関する
分野別課題調査
結果報告書**

発行年月日/平成 28 年 10 月

編集・発行 /太宰府市 市民福祉部 福祉課

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺一丁目 1 番 1 号

TEL 092-921-2121

FAX 092-925-0294
